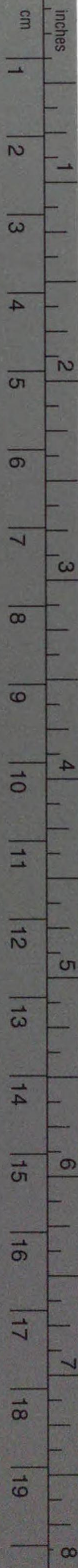


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



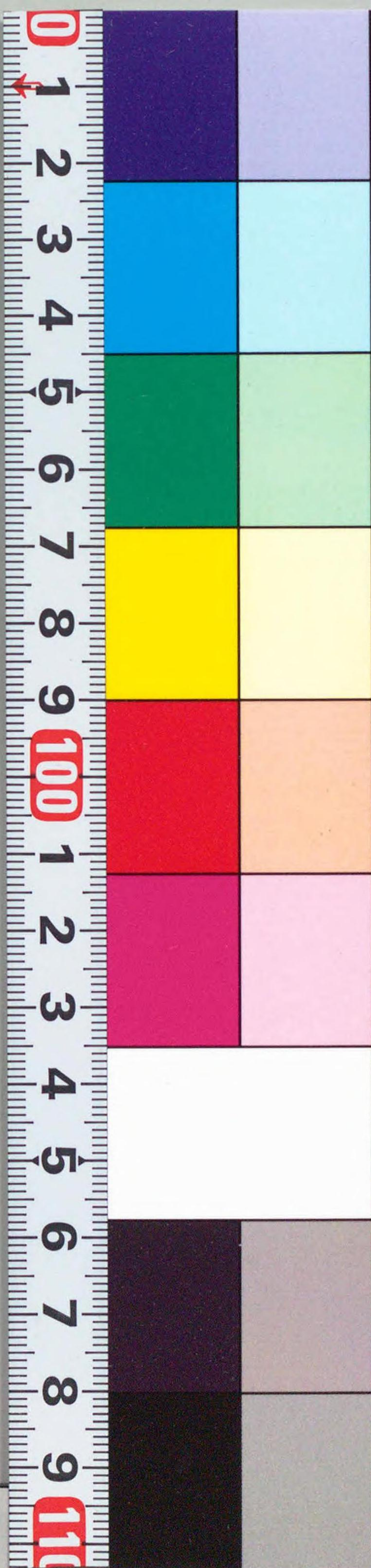
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



14.7
652

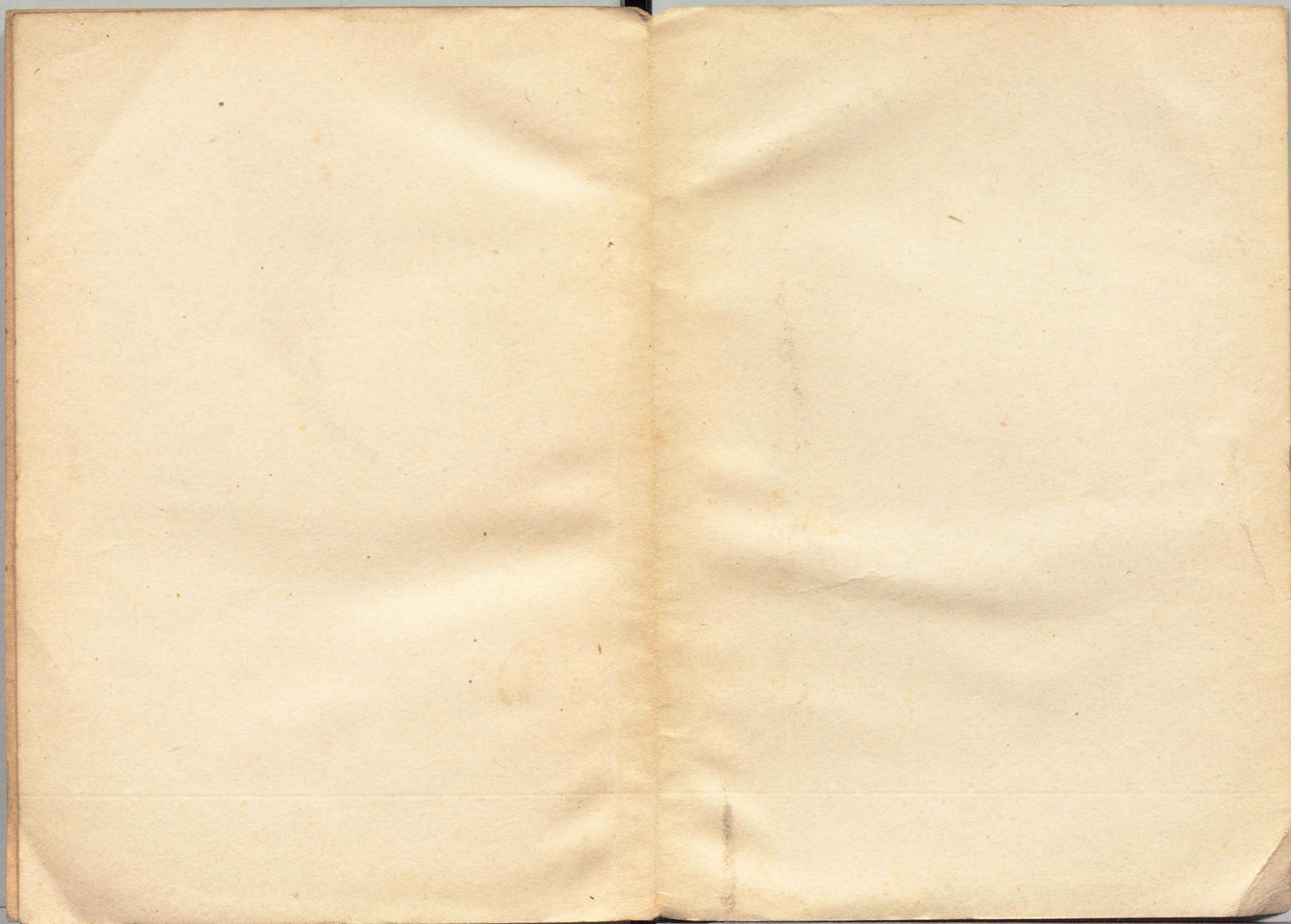
昭和十六年度

禁電子式複写

14.7-652へ→CZ-476-02
1200501226244

現行海事法令 (機關部用)

納本



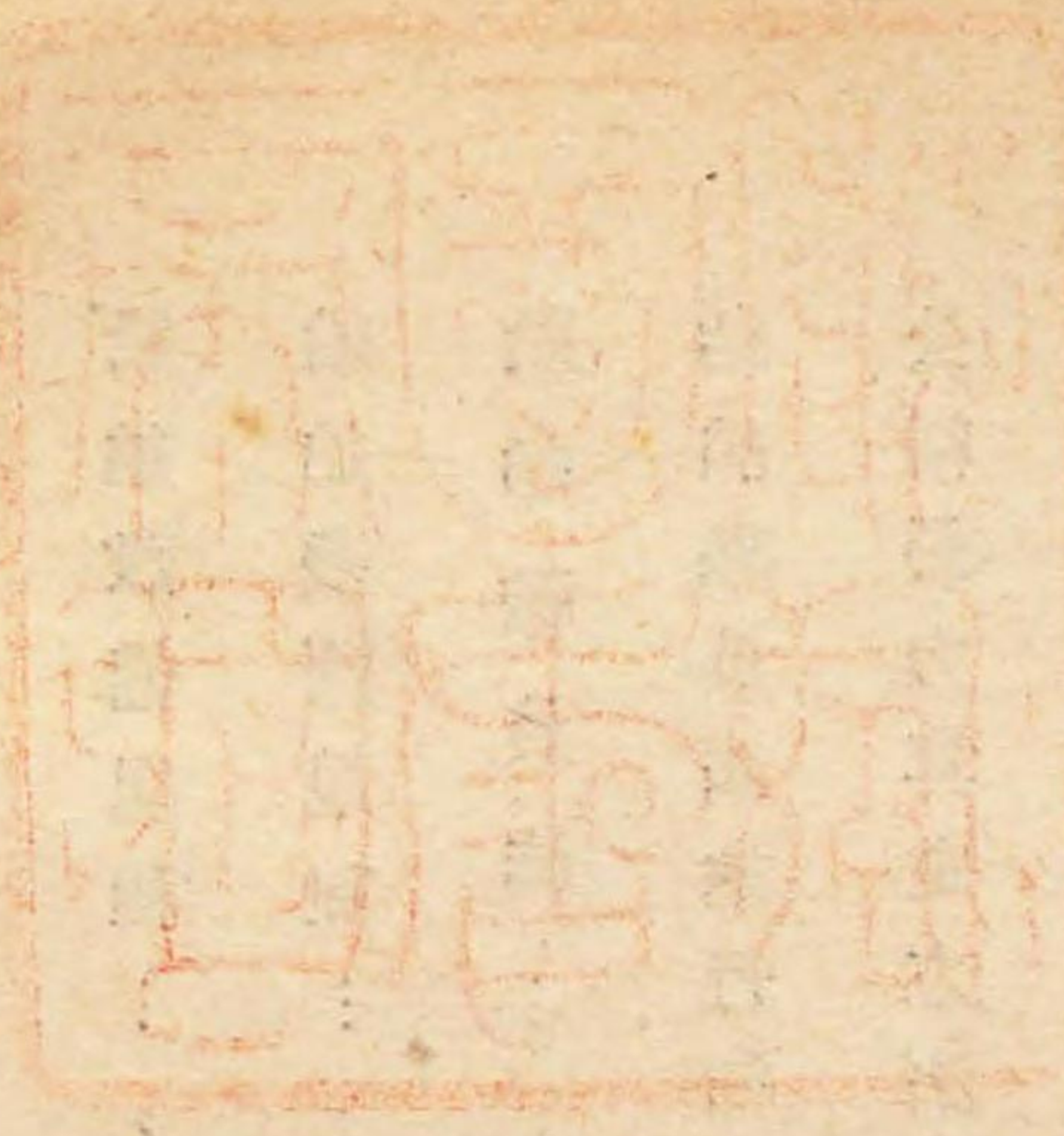


昭 和 十 六 年 度

現 行 海 事 法 令

(機 關 部 用)





明治三十二年三月
法律第四十八號最近改正
昭和十四年四月
法律第六十八號

第一條

左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
一、日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
二、日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
三、日本ニ支店ヲ有スル商會社ニシテ、合名會社ニ在リテハ
テハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ
無限責任社員ノ全員、株式會社及ヒ有限會社ニ在リテハ
取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
四、日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全
員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

船舶法

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務
擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ
以テ日本船舶トス

第二條

日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條

日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港
ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若
クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケン
トキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ
管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要
ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ
測度ヲ囑託スルコトヲ得
外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシ

ムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコ

リ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六ヶ月分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一ヶ月内ニ之ヲ爲スヘキヨトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十七條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六ヶ月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

トヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若ハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ**第二十條**ニ掲グル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 第十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫓ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附 則

ハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有效期間ガ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ゲタル事由ガ生ジタルモ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハザル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者ガ本法施行前ニ事實ヲ知りタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハザルトキ亦同ジ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十條 本法施行前ヨリ存否ガ分明ナラザル船舶ニシテ未ダ舊法ノ期間ガ經過セザルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六ヶ月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則 (明治三十八年三月法律第六八號)

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第四編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ガ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クベキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマデハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船假免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者ガ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クベキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマデハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶ガ船籍港ニ到着シタルトキ

船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十二條ニ掲ゲル船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル二週間ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

船舶安全法

(昭和八年三月
法律第十二號)

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一、船體
- 二、機關
- 三、帆裝
- 四、排水設備
- 五、操舵、繫船及揚錨ノ設備
- 六、救命及消防ノ設備
- 七、居住設備
- 八、衛生設備
- 九、航海用具

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ

第五條 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル検査ヲ受クベシ

一、初メテ航行ノ用ニ併スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルトキ行フ精密ナル検査(定期検査)

二、定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査(中間検査)

三、臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査(特殊船検査)

四、前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査(臨時検査)

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間検査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ

六

十、危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備

十一、荷役其ノ他ノ作業ノ設備

十二、電氣設備

十三、前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ

一、總噸數五噸未満ノ船舶

二、櫓權ヲ以テ運轉スル船其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

一、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶

二、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船(十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶)

三、總噸數百噸以上ノ漁船

船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタルトキヨリ検査(製造検査)ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未満ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

第七條 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル検査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第八條 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモ

ノト看做ス

第九條 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置定メ船舶検査證書ヲ交附ス

管海官廳ハ特殊船舶検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登録ヲ抹消セラレ又ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有効期間滿了ス

第十一條 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シテ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請ス

第十五條 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地

ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條 滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三 制限汽壓ヲ超エテ汽罐ヲ使用シタルトキ

四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五 滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

ルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ

第十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルトコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證書ヲ携帯スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 船舶乗組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

- 一 本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶
- 二 日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ
- 三 前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八 前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辨ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 船舶乗組員虛偽ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ滿載吃水線ノ検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十四條 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル検査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十五條 本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

第二十六條 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ

行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

一 總噸數二十噸未滿ノ帆船

二 總噸數二十噸未滿ノ漁船

三 平水區域ノミヲ航行スル帆船

第三十三條 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第三十四條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス（昭和九年二月一日勅令第十二號）

用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

第二十八條 危險物ノ運送禁止、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項並ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定第二十七條ノ規定並ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前條ノ一般規定施

一 航行期間滿了ノ爲船舶検査法ニ依リ検査ヲ受クベキトキ

二 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

三 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有効期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有効期間ノ滿了ト看做ス

第三十七條 他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、沿海航路、又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

船舶安全法施行規則

(逓信省令第四號) 改正 (昭和十五年四月二十四日)
(昭和九年二月一日) (逓信省令第二十二號)

- 第一章 總 則
- 第二章 構造及設備
- 第三章 滿載吃水線
- 第四章 無線電信
- 第五章 航行區域
- 第六章 最大搭載人員
- 第七章 制限汽壓
- 第八章 検査ヲ行フ場合
- 第九章 検査申請ノ手續
- 第十章 検査ノ執行
- 第十一章 検査ノ方法
- 第一節 製造検査
- 第二節 定期検査
- 第三節 中間検査

國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル

船舶ヲ謂フ

- 一 專ラ漁獵ニ從事スル船舶
- 二 漁獵ニ從事スル船舶ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ
- 三 專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶
- 四 專ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ從事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ

前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事スル船舶ヲ、前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ從事スル船舶ヲモ包含ス

第四條 本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地内ノ

港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ

前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者

船舶安全法施行規則

- 第四節 特殊船検査及臨時検査
- 第五節 雜 則
- 第十二章 検査ノ準備
- 第十三章 證 書
- 第十四章 再 檢 査
- 第十五章 船舶乗組員ノ不服申立
- 第十六章 船級協會
- 第十七章 航海上ノ危險防止
- 第十八章 雜 則
- 第十九章 罰 則
- 附 則

船舶安全法施行規則

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域内ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ

各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス

第二條 本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スルハ短

ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、木材積取人夫、移民其ノ他之ニ準ズル者又ハ軍隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ全面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ

第八條 本令ニ規定ニ依ル申請、届出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章 構造及設備

第九條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船、被曳船其ノ他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ鋼船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付テハ船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル

條十一條

船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 滿載吃水線

第十三條 水先船、專ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶、漁業ノ取締ニ從事スル船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船、「ジアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

第十四條 汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一 夏期滿載吃水線
- 二 冬期滿載吃水線
- 三 冬期北大西洋滿載吃水線
- 四 熱帶滿載吃水線
- 五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

線

帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一 海水滿載吃水線
- 二 冬期北大西洋滿載吃水線
- 三 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

滿載吃水線ノ位置ノ決定竝ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス
區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載場所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

第十七條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得
本材滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ
一 夏期木材滿載吃水線

二 冬期木材滿載吃水線

三 冬期北大西洋木材滿載吃水線

四 熱帶木材滿載吃水線

五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水木材滿載吃水線

第十八條

船舶ハ平水區域又ハ瀬戸内(和歌山縣海草郡田倉埕ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門埕ヨリ徳島縣板野郡孫埕ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關埕ニ至ル線及福岡縣企救郡門司埕ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線内ノ區域)ニ於テハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得但シ平水區域又ハ瀬戸内外ニ出航セントスル船舶ニ付テハ其ノ區域内ニ於ケル最後ノ港ヲ發航スルトキノ超過吃水ハ該港ヨリ其ノ區域外ニ達スル迄ニ推進ノ爲消費スベキモノノ重量ニ相當スルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十九條

船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遅延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ超ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

第二十條

滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザ

船舶安全法施行規則

ルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ存続スルコトヲ得
第二十一條 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限り之ヲ存続スルモ妨ナシ

第四章 無線電信

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

- 一 旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ超エザル區域内又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ
- 二 旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル區域内ノミヲ航行スルモノ
- 三 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超エザル區域内ノミヲ航行スルモノ
- 四 無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條 船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電信

ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ
管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限リ無線電信ヲ施設セザ
ルコトヲ得

一 無線電信ノ施設ナクシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ就
航スル爲他ヨリ回航スルトキ

二 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客
定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ
之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

三 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ變
更シタル爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海ニ
從事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ從事スル場合ヲ除クノ
外前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十四條 第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ
其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ、前條ノ認可ヲ受ケントスル
トキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海官廳
ニ提出スベシ

第五章 航行區域

第二十五條 航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス

第一區 壱ノ經テ同縣佐波郡向島翁崎ニ至ル線及同島牛ヶ
頸ヨリ同縣吉敷郡丸尾崎ニ至ル線及同島牛ヶ頸ヨ
リ同縣吉敷郡丸尾崎ニ至ル線内

第二區 愛媛縣西宇和郡女岬崎ヨリ同縣東宇和郡大崎ヲ經
テ同縣北宇和郡赤崎鼻ニ至ル線内

第三區 大分縣東國東郡義濃崎ヨリ同縣北海部郡關崎、同
郡沖無指島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經
テ同郡鶴見崎ニ至ル線内

第四區 山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口ニ
至ル線並ニ福岡縣遠賀郡沖田崎ヨリ同縣企救郡馬
島及山口縣豐浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル
線内

第五區 山口縣大津郡今岬ヨリ同郡青海島西北端ニ至ル
線及同島東端ヨリ同縣阿武郡虎ヶ崎ニ至ル線内

第六區 福岡縣糸島郡西浦三崎ヨリ同縣糟屋郡志賀島大
崎ニ至ル線内

第七區 福岡縣糸島郡串崎ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島及
同郡加部島ヲ經テ同郡波戸崎ニ至ル線内

第八區 佐賀縣東松浦郡值賀崎ヨリ同郡向島、長崎縣北
松浦郡黒島及同郡青島ヲ經テ同郡津崎ニ至ル線内

第九區 長崎縣上縣郡唐洲崎ヨリ同縣下縣郡郷崎ニ至ル
線内

船舶安全法施行規則

- 一 平水區域
- 二 沿海區域
- 三 近海區域
- 四 遠洋區域

第二十六條 平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス

第一區 神奈川縣三浦郡千駄崎ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉縣
君津郡富津崎ニ至ル線内

第二區 静岡縣清水市三保崎ヨリ同縣田方郡御濱崎ニ至ル
線内

第三區 愛知縣渥美郡伊良湖崎ヨリ三重縣志摩郡菅島ヲ經
テ同郡松ヶ鼻ニ至ル線内

第四區 和歌山縣東牟婁郡駒崎ヨリ同郡太地崎ニ至ル線内
和歌山縣有田郡宮崎ヨリ同縣海草郡田倉崎ヲ經テ

兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江崎燈臺ヨリ
眞方位三百三十度ニ引キタル線内

第五區 兵庫縣加古郡加古川ヨリ兵庫縣飾磨郡男鹿島及
香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬ノ鼻ニ至
ル線、愛媛縣溫溫郡嶺山ヨリ山口縣大島郡平郡

島ヲ經テ同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線並ニ同島小
山ノ鼻ヨリ同郡掛取崎ニ至ル線内

第六區 山口縣熊毛郡島田川ヨリ同縣都濃郡笠戸島火振
山ノ鼻ヨリ同郡掛取崎ニ至ル線内

第七區 山口縣折瀬鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線内

第八區 長崎縣北松浦郡大瀬崎ヨリ同郡平戸島魚見崎ニ
至ル線及同島坊山崎ヨリ同郡黒島ヲ經テ同郡七郎
崎ニ至ル線内

第九區 長崎縣北松浦郡向後崎ヨリ同縣西彼杵郡番所崎
ニ至ル線内

第十區 長崎縣西彼杵郡三重崎ヨリ同郡野母崎ニ至ル線
内

第十一區 長崎縣南高來郡瀬詰崎ヨリ熊本縣天草郡天草下
島大島崎ニ至ル線、同島鶴崎ヨリ同郡下須島「ビ
シヤゴ」瀬ノ鼻ニ至ル線、同島尾崎ヨリ鹿兒島縣

出水郡長島大崎ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九
十度ニ引キタル線内

第十二區 鹿兒島縣揖宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同縣肝屬郡小根
占崎ニ至ル線内

第十三區 鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計
呂麻島「カネンテ」崎ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡

江仁屋離、同郡奄美大島曾津高崎及同郡枝手久島
戸倉崎ヲ經テ同郡奄美大島倉木崎ニ至ル線内

第十四區 島根縣知夫郡知夫島帶ヶ崎ヨリ同郡西ノ島漕
廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北

端ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北

端ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北

端ニ至ル線及同島木櫓ヶ崎ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線内

第二十三區 島根縣八束郡地蔵崎ヨリ鳥取縣西伯郡日野川口ニ至ル線内

第二十四區 京都府與謝郡鷺崎ヨリ同縣加佐郡博奕崎ニ至ル線内

第二十五區 福井縣敦賀郡立石崎ヨリ同郡「ヲカ」崎ニ至ル線内

第二十六區 石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音崎ニ至ル線内

第二十七區 青森縣東津輕郡明神崎ヨリ同縣下北郡貝崎ニ至ル線内

第二十八區 宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ同縣桃生郡宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内

第二十九區 北海道上磯郡葛登支岬ヨリ同龜田郡函館山大豆岬ニ至ル線内

第三十區 北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同磯谷郡尻別川口ニ至ル線内

第三十一區 北海道高島郡高島岬ヨリ同小樽郡神威古潭ニ至ル線内

第三十二區 北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同厚岸郡大黒島ヲ經

六 東京府野島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

七 鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

八 沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

第二十八條 近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ限ラレタル區域トス

近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ

第一區 東ハ東經百七十七度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域

第二區 東ハ東經百三十度、西ハ同百二度、南ハ北緯四度北ハ同二十七度ノ線ニ依リ限ラレタル區域及暹羅海灣

第三區 東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第二區ノ區域ヲ除キタル區域

第二十九條 遠洋區域ハ總テノ水面ヲ包含スル區域トス

第三十條 管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルコトヲ得

第三十一條 管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ

テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線内

第三十三區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線内

第三十四區 澎湖廳馬公要港區域内

第三十五區 高雄州貓鼻頭ヨリ同州鷺鑾鼻ニ至ル線内

第二十七條 沿海區域ハ左ニ掲グル各區域トス

一 北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奧尻島、本州、青森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甌列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、臺東廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

二 千葉縣安房郡野島崎ヨリ東京府神津島ヲ經テ静岡縣賀茂郡石室崎ニ至ル線内ノ區域

三 秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣船倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山崎ニ至ル線内ノ區域

四 山口縣豐浦郡觀音崎ヨリ慶尙南道蔚崎ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ慶尙南道古突山半島南東端ニ至ル線内ノ區域

五 北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線内ノ區域

第三級船ニ付テハ近海以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ

第三十二條 管海官廳總噸數二百噸未満ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ

一 北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ同斜里郡知床岬ニ至ル區間

二 擇捉島沿岸

三 北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間

四 青森縣下北郡尻矢崎ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間

五 宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間

六 茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東崎ニ至ル區間

七 静岡縣榛原郡御前崎ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖崎ニ至ル區間

第三十三條 船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ船舶ノ最快速力ヲ以テ二時間以内

ニ又平穩ナル季節ニ限り四時間以内ニ往復シ得ベキ平水區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十五條 特殊ノ用途ニ使用スル船舶已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十六條 前二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ
前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十七條 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得

- 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ
- 二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ
- 三 航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ
- 四 航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ

前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ
第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

一 船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乗人
二 税關吏員、檢疫吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員ニ非ズシテ船内ニ於テ業務ニ従事スル者

第四十四條 第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶検査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船舶検査證書ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、航行豫定時間六時間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル

第四十五條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶検査手帳ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第四十六條 旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル表示ヲ爲スベシ

一 一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ寢

船舶安全法施行規則

第三十八條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ航行區域ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶検査手帳ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

第六章 最大搭載人員

第四十條 最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ、旅客、船員及其ノ他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム

旅客、船員及其ノ他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第四十二條 船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算一年以下ノ者ハ之ヲ算入セズ

第四十三條 左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ

一 臺數ト同一ナル室ニハ之ヲ表示セザルモ妨ナシ

二 三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リテハ各客棚ノ定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲グベシ

三 臨時旅客ヲ搭載スル室ニハ其ノ旅客ノ種類及定員ヲ表示スベシ

旅客若ハ船員ニ非ザル者ヲ搭載スル室及雜居船員室ニハ其ノ室名及定員ヲ、其ノ他ノ船員室ニハ其ノ室名ヲ表示スベシ

第四十七條 旅客室ト船員室トハ常ニ區別シ置クベシ
船員及船員ハ第四十三條各號ニ掲グル者ノ室ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

旅客室又ハ船員室ニ第四十三條各號ニ掲グル者ヲ搭載シタルトキハ最大搭載人員ニ關シテハ之ヲ旅客又ハ船員ト看做ス

第四十八條 旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ノ室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ以テ其ノ定員ト看做ス

第七章 制限汽壓

第四十九條 制限汽壓ハ機關ノ構造及現狀ニ應ジ船舶機關規

程ニ依リ之ヲ定ム

第五十條 制限汽壓ヲ定メタルトキハ管海官廳ハ逃汽試験ヲ執行シテ安全辨ヲ封鎖ス其ノ封鎖ヲ解放シタルトキ亦同ジ

第五十一條 船長ハ安全辨ノ鍵ヲ船内ニ保管シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外安全辨ノ封鎖ヲ解放スルコトヲ得ズ

已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ安全辨ノ封鎖ヲ解放シタルトキハ船長ハ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全辨ノ封鎖ヲ申請スベシ

第八章 検査ヲ行フ場合

第五十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クルモノト爲リタルトキハ定期検査ヲ受クベシ

第五十三條 定期検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ事期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十四條 中間検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ汽船及蒸汽機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ其ノ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタル時ヨリ十二月毎ニ、其ノ他ノ帆船ニ在リテハ其ノ定期検査ヲ受ケタル時ヨリ二十四月毎ニ之ヲ行フ

一 第三十六條第一項、第三十七條第二項、第三十八條、

第四十五條、第五十一條第二項、第二百二十二條第三項

若ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請又ハ第一百七十七條ノ規定ニ依リ届出アリタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

二 修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ因リ滿載吃水線ヲ變更スベキ必要アルトキ

三 滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要セザル船舶ガ滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要スルモノト爲リタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ依リ區畫滿載吃水線ヲ標示シ又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示セントスルトキ

五 管海官廳ノ指定スル所ニ依リ船舶ノ特定部分ニ付検査ヲ受クベキ時期ニ該當シタルトキ

六 前各號ニ掲グル場合ノ外船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

七 其ノ他管海官廳ニ於テ検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

五十九條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ繋船ヲ再ビ航行ノ船舶安全法施行規則

前項ノ規定ニ依リ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當スルモノヲ受ケズシテ引續キ航海ヲ爲スコトヲ必要トスル事情アル船舶ニ付テハ第二百二十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 第一百八條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ中間検査ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ船舶ガ第一百八條各號ニ該當セザル船舶ト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ當該船舶ノ現状ニ應ジ次回中間検査ヲ受クベキ時期ヲ指定ス

第五十六條 中間検査ハ之ヲ受クベキ時期ニ該當セザル場合ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十七條 特殊船舶検査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一 移民船ガ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二 船舶ガ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ

三 船舶ガ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船舶検査ヲ行フ

第五十八條 臨時検査ハ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

用ニ供セントスル場合ニ於テ繋船期間中ニ中間検査ヲ受クベキ時期ヲ經過シタルトキハ中間検査ヲ、未ダ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當セザルトキハ臨時検査ヲ受クベシ

第六十條 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査ヲ受ケタルトキハ中間検査ヲ、臨時検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタルトキハ臨時検査ヲ行ハズ

第六十一條 朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ船舶安全法施行地ニ於テ製造セララル船舶ニ付テハ製造検査ヲ行ハズ

前項ノ船舶ガ其ノ製造中日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セララルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造検査ヲ行ハザルコトアルベシ

第六十二條 管海官廳ハ船舶検査執行地外ニ於テ製造セララル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第一項ノ規定ニ依リ製造検査ヲ行ハザルコトヲ得

船舶検査執行地外ニ於テ製造セララル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依リ製造検査ヲ行ハズ

第六十三條 船舶用機關ニシテ其ノ備附クベキ船舶ノ特定セザルモノハ左ノ各號ニ掲グルモノニ限リ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

一 往復動汽機、汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノ

- モノ
- 二 タービン汽機 三百軸馬力以上ノモノ
- 三 發動機 汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ
- 四 汽罐 受熱面積ガ二十平方メートル以上ノモノ

第九章 検査申請ノ手續

第六十四條 定期検査、中間検査、特殊船舶検査又ハ臨時検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書(第一號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

検査申請者ハ船舶ガ初メテ検査ヲ受クル場合ヲ除クノ外船舶検査申請書ニ船舶検査手帳ヲ添附スベシ

第六十五條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ左ニ掲グル圖面ヲ添附スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 船體中央横截面圖(縦通板各條ノ幅ヲモ記載スベシ)
- 二 船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖
- 三 甲板及艙内平面ノ諸材構造配置圖
- 四 甲板平面圖
- 五 船體線圖
- 六 排水量曲線圖(最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全

排水量及每一センチメートル排水量ヲ示スモノ)

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ

木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第六十六條 前條第一項ニ掲グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル裝置竝ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶検査申請書ニ添附スベシ

- 一 限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中心ヨリ縦ノ一メダセンチターニ至ル高サヲ示ス曲線圖
- 二 限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃水面ノ中心(浮泛中心)ニ至ル距離ヲ示ス曲線圖
- 三 限界線迄ノ横截面積ヲ示ス曲線圖
- 四 可許長曲線圖
- 五 可許長計算表

第六十七條 製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ其ノ合格證書ヲ添附スベシ但シ製造検査ニ引續キ定期検査ヲ受ケントスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ヲ船舶ニ備附クル場合ニ於テ検査ヲ受ケントスルト

ツベシ

第十章 検査ノ執行

第七十三條 検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條 検査ハ申請ニ依リ船舶検査執行地外ニ於テ之行フトアルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケントスルトキハ検査申請者ハ其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條 遞信大臣ノ特ニ指定シタル船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル場合ニ限り休暇日ト雖モ検査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日検査ヲ行フトアルベシ

第七十六條 船舶ノ検査ヲ行フトキハ検査事項ニ應ジ船長又ハ機關長、若シ船長又ハ機關長差支アルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ

前項ニ掲グル者ノ乗組マザル船舶ノ検査、製造検査又ハ船舶用機關ノ検査ヲ行フトキハ検査申請者ハ適當ノ者ヲ指定シテ之ニ立會ハシムベシ

キ亦前項ニ同ジ

第六十八條 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ當該船級協會ノ検査ニ關スル證明書ヲ添附スベシ

第六十九條 製造検査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造著手前製造検査申請書(第二號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕様書竝ニ船體及機關ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第七十條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶用機關ノ製造者ハ機關検査申請書(第三號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ機關検査申請書ニ製造仕様書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添附シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條 第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ船舶検査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

第七十二條 第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ検査ヲ受ケントスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出

船舶安全法施行規則

第七十七條 前條ニ依リ検査ニ立會ヒタル者ハ検査ニ必要ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閱ニ供スベシ

第七十八條 検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ検査ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七十九條 管海官廳ハ検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ第六十四條乃至第七十一條ニ掲グル書類ノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第八十條 検査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託セントコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ其検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條 管海官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書(第四號書式)ヲ検査申請者ニ交付ス

検査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭ヲ以テ管海官廳ニ標示ノ検査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條 管海官廳定期検査、中間検査、特殊船舶検査又ハ臨時検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帳ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ船舶検査手帳ヲ船内ニ保管スベシ

船舶検査手帳ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條 船舶検査手帳ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交付ヲ申請スベシ

船舶検査手帳ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帳ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶検査手帳ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章 検査ノ方法

第一節 製造検査

第八十四條 製造検査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、材料並ニ工事ニ付検査ヲ行フ

第八十五條 製造検査申請者ハ工事著手前製造仕様書及圖面ニ依リ設計ニ付検査ヲ受ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付検査ヲ受クベシ

一 船體

(一) 龍骨ヲ据附クルトキ並ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ

(二) 肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ

(三) 内龍骨、縦通材及梁ヲ取附ケントスルトキ

(四) 甲板及外板ヲ敷板張りタルトキ

(五) 水壓試験ヲ執行スルトキ

(六) 外板ヲ張り了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザルトキ

(七) 船體完成シタルトキ

(八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

二 機關

(一) 諸軸諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

(二) 發動機ノ汽槽又ハ汽罐ニ使用スル鋼板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ

(三) 發動機ノ汽槽若ハ汽罐ノ各部ヲ曲線、鍛接又ハ銲接シタルトキ

(四) 發動機ノ汽槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ銲孔ヲ仕上ゲタルトキ

(五) 汽機發動機空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部、船尾管、推進器又ハ復水ノ器仕上ヲ了リタルトキ

(六) 汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器復水器、「ポンプ」又ハ減速裝置ノ組立ヲ了リタルトキ

船舶安全法施行規則

船長ハ船舶検査手帳ヲ船内ニ保管スベシ

船舶検査手帳ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條 船舶検査手帳ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交付ヲ申請スベシ

船舶検査手帳ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帳ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶検査手帳ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章 検査ノ方法

第一節 製造検査

第八十四條 製造検査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、材料並ニ工事ニ付検査ヲ行フ

第八十五條 製造検査申請者ハ工事著手前製造仕様書及圖面ニ依リ設計ニ付検査ヲ受ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付検査ヲ受クベシ

一 船體

(一) 龍骨ヲ据附クルトキ並ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ

(七) 水壓試験ヲ執行スルトキ

(八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

前項第二號ノ發動機ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ヲ汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス

第二節 定期検査

第八十六條 定期検査ニ於テハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付精密ナル検査ヲ行フ

一 船體及機關

二 設備及屬具

三 滿載吃水線

四 無線電信施設

第八十七條 船體ニ關スル定期検査ニ於テハ二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試験、外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試験並ニ水密戸ノ閉閉裝置、載貨門載炭門舷窓及上甲板ノ開口ノ閉鎖裝置ノ效力試験ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試験ヲ省略スルコトヲ得

第八十八條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ新ニ使用スル機

關又ハ其ノ部分ニ付テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試驗ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ他管海官廳

ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

欄	種	別	試驗壓力
一	新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐		汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七珎以下ナルトキハ其ノ二倍壓力・每平方糎七珎ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ每平方糎三・五珎ヲ加ヘタル壓力
二	重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐		汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎三・五珎ヲ加ヘタル壓力
三	主汽管		汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
四	正給水管及副給水管		汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
五	復水器ノ管取附部		復水器ノ頂部上二米ノ水高壓力ニ相當スル壓力
六	噴油 ^{ポンプ} ノ送油瓣ヨリ噴油器ニ至ル管竝ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具		常用最大壓力ノ二倍及每平方糎二八珎ノ中大ナル壓力
七	前欄ニ掲グルモノヲ除キ機關室ニ在ル油管		每平方糎二珎
八	燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管		常用最大汽壓ノ二倍
九	蒸汽過熱器		汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
十	潤滑油裝置		常用最大壓力ノ二倍
十一	壓縮空氣管		常用最大壓力ノ一・五倍
十二	冷却裝置		常用最大壓力ノ二倍

十三	銲接合又ハ無接合ノ氣槽	制限壓力ノ一・五倍
十四	鍛接合又ハ銲接合ノ氣槽	制限壓力ノ二倍
十五	油槽	頂板上二・五米ノ水高壓力ニ相當スル壓力 但シ強壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍

第八十九條 定期検査ニ於テハ左ノ設備及屬具ニ付效力試験ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 排水裝置
- 二 消防裝置
- 三 操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置
- 四 羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
- 五 端艇揚卸裝置
- 六 汽笛又ハ汽角
- 七 信號器
- 八 端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具
- 九 照明裝置

第九十條 定期検査ハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ之ヲ行フ但シ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上架ヲ猶豫スルコトヲ得前項ノ規定ニ拘ハラズ總噸數五十噸

船舶安全法施行規則

未滿ノ木船ニ付テハ据船ノ儘又湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ定期検査ヲ行フコトヲ得

第九十一條 汽船ノ第一回定期検査ニ於テハ速力試験ヲ執行ス
汽船ノ第二回以後ノ定期検査ニ於テハ前回速力試験執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試験ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條 管海官廳船舶ノ定期検査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現狀ニ應ジ且左表ニ掲グル長サ及速力ヲ標準トシ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ從事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船舶ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得

資格	第一級船		第二級船		第三級船		第四級船	
	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船
船種	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船
長サ (米)	六〇以上	二五以上	三〇以上	二〇以上	二〇以上	無制限	無制限	無制限
最 強 速 力 (二時間ニ付)	一〇海里以上	八海里以上	六海里以上	無制限	無制限	無制限	無制限	無制限

甲板ヲ有セザル船舶、頂部ヲ水密ニ爲シ得ザル船舶又ハ進水後二十年以上ノ推進機關ヲ有スル木船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ズ
船舶ノ資格ハ管海官廳ニ於テ其ノ現狀ニ應ジ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

第三節 中間検査

第九十三條 中間検査ニ於テハ第八十六條各號ニ掲グル事項ニ付簡易ナル検査ヲ行フ

第九十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項各號ニ掲グル船舶ノ中間検査ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ之ヲ入渠又ハ上架セシムルコトヲ得

第四節 特殊船舶検査及臨時検査

第九十五條 特殊船舶検査ニ於テハ第五十七條ニ掲グル各場合ニ應ジ必要ナル居住、衛生、救命及消防ノ設備其ノ他人命ノ安全ニ關スル設備ヲ検査ス

第九十六條 臨時検査ニ於テハ第五十八條各號ノ場合ニ應ジ管海官廳ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付検査ヲ行フ

第五節 雜 則

第九十七條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ付テハ製造中検査ナルカ又ハ出來上リ検査ナルカノ區別ニ從ヒ船舶ノ製造検査又ハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條 定期検査ニ於テハ前回ノ中間検査又ハ其ノ後ノ検査ニ於テ定期検査ニ準ジ検査ヲ行ヒタル事項ニ關シテハ管海官廳ノ見込ニ依リ精密ナル検査ヲ省略スルコトヲ得
中間検査ニ於テハ其ノ以前六月以内ニ中間検査ニ準ジ検査

船舶安全法施行規則

管海官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ特定ノ事項ニ付定期検査ニ準ジ中間検査ヲ行フコトヲ得検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキ亦同ジ
第九十四條 左ノ各號ニ掲グル船舶ヲ除キ鋼船ノ中間検査ニ於テハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ其ノ船底、舵及推進器ヲ検査ス
一 湖川ノミヲ航行スル船舶
二 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ長サ十五メートル未満ノモ

ヲ執行シタル事項ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第九十九條 同形ノ汽機又ハ發動機ニ依ル推進軸系二箇以上ヲ有スル船舶ノ機關ニ關スル定期検査ニ於テハ機關ノ年齢現狀、製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤ等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

十二月毎ニ中間検査ヲ受クベキ船舶ノ機關ノ部分ニシテ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノニ付テハ當該部分ノ年齢、現狀等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

第一百條 製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第一回定期検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ備附クル場合ノ検査ニ於テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外既ニ検査ヲ受ケタル事項ノ検査ヲ省略ス

第一百一條 定期検査又ハ中間検査ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ其ノ螺旋軸ヲ拔取り検査ヲ行フ但シ湖川ノミヲ航行スル船舶又ハ旅客船ニ非ザル長サ十五メートル

ル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

一 螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第一種螺旋軸ニシテ前回拔取リテ検査シタル後三年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ三年ニ達スベキトキ

二 螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第二種螺旋軸ニシテ前回拔取リテ検査シタル後二年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ二年ニ達スベキトキ

前項ニ依リ螺旋軸ヲ拔取リ検査スベキ場合ト雖モ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ検査ヲ行フ爲臨時検査ヲ受クベキ時期ヲ指定シ該時期迄螺旋軸ノ拔取ヲ猶豫スルコトヲ得

第二百二條 管海官廳検査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ第九十一條ニ該當セザル場合ト雖モ船舶ノ速力試験若ハ試運轉又ハ機關ノ試運轉ヲ執行スルコトヲ得

第十二章 検査ノ準備

第二百三條 検査申請者ハ本章ノ規定ニ從ヒ検査ノ準備ヲ爲ス

第二百四條 船體ニ關スル定期検査ノ準備ヲ分テ左ノ三種トス

除スルコト

三 主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖厨、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ淫水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石炭乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸汽ヲ通ジテ掃除スルコト

四 水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

五 入渠又ハ上架シタル船舶ハ舵ヲ扛擧又ハ取外シ舵針及壺金等ヲ検査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ落シ又木船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、填隙及固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムルコト

六 鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底内張板ヲ一條宛取離スコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ内張板一條宛取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

船舶安全法施行規則

一 第一種準備

二 第二種準備

三 第三種準備

第二百五條 第一回定期検査ニ於テハ當該船舶ガ進水後四年未滿ナルトキハ第二種準備、四年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スベシ但シ製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ準備ヲ輕減セシムルコトヲ得

製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第二回定期検査又ハ第三種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第一種準備、第一種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第二種準備、第二種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第三種準備ヲ爲スベシ

進水後二十五年ヲ經過シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三種準備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六條 第一種準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一 船體ノ内外部適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト

二 石炭及脚荷ヲ取出シ船體ニ固著セザル物品ハ成ルベク取片附ケ又淫水道覆板及通風路覆板ハ悉ク取除ケ泥芥箱ヲ開キ淫水吸水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ内外部ヲ總テ掃除スルコト

七 木船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上宛拔取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト

木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト

八 木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板、其ノ他ノ外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

九 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト

十 船首尾艙ハ燃料油ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

十一 二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト

十二 第八十七條ニ掲グル水密試験ノ準備ヲ爲スコト

十三 滿載吃水線ノ標示ヲ検査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト

第二百七條 第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一 鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通ジ彎曲部ニ於テ内張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽及深油槽ノ部分ニ於ケル内張板ヲ全部取離スコト

木船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離シ且首尾ヲ通ジテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離スコト

二 木船ニ於テハ水線部外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐採スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

三 二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

第三百八條 第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一 鋼船ニ於テハ艙内内張板ノ大部分ヲ取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ旋セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト
木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一内張板ノ半數ヲ取離スコト

二 石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト

三 木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ上部外板ヲ一條宛取

離スコト

四 鋼船ニ於テハ船體内外ノ要部ヲ鏽落スルコト

五 鋼船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲其ノ上面ノ木甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

木船ニ於テハ梁端ヲ検査スル爲梁壓材ニ接スル甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

六 鋼船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル鋼板ハ其ノ厚サヲ検査スル爲之ニ試孔ヲ穿ツコト

七 深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

八 木船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト

九 橋及斜橋ノ楔ヲ拔取ルコト但シ橋又ハ斜橋ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百九條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ

一 往復動汽機
(一) 「ピストン」及滑瓣ヲ取出スコト
(二) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

二 「タービン」汽機
「タービン」筒上半及「ローター」ヲ扛舉スルコト

三 發動機

(一) 「ピストン」ヲ取出シ其ノ冷却部ヲ検査シ得ル様解放スルコト

(二) 氣筒蓋附屬ノ諸瓣ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト

(三) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

(四) 消音器ヲ掃除スルコト

四 推進器及推進軸系

(一) 各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト

(二) 船尾管後端軸受部内面上部ト螺旋蓋トノ間隙ヲ測定シ得ル様爲シ置クコト

五 減速裝置

(一) 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル様爲シ置クコト

(二) 齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト

(三) 液體ニ依ル動力傳導裝置ノ翼車ヲ検査シ得ル様爲

船舶安全法施行規則



シ置クコト

六 汽罐

(一) 罐内ノ水ヲ排出シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ十分掃除スルコト

(二) 火床棧ヲ取出スコト

(三) 煙室扉ヲ開キ置クコト

(四) 安全瓣、塞汽瓣、給水制限瓣及放水瓣ノ瓣匣ヲ開キ置クコト

七 給水裝置

(一) 給水「ポンプ」ノ「ブランヂャー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且瓣匣ヲ開キ置クコト

(二) 給水漉器及給水加熱器ヲ開キ置クコト

八 復水裝置

(一) 復水蓋器ヲ開キ置クコト

(二) 抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト

九 吸水、排水及冷却ノ裝置

(一) 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル瓣及「コック」ヲ開キ置クコト

(二) 溢水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「ブランヂャー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且瓣匣ヲ開キ扇車「ポンプ」ナル

トキハ扇車ヲ取出スコト

(三) 芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

(四) 油、清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト

十 潤滑油裝置

潤滑油「ポンプ」及其ノ瓣匣竝ニ油濾器ヲ開キ置クコト

十一 空氣壓縮機、氣槽及掃除空氣「ポンプ」

(一) 空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且瓣匣及冷却器

蓋ヲ門キ置クコト

(二) 氣槽ノ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

(三) 掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ且瓣匣ヲ開

キ置クコト

十二 油槽

油ヲ排出シ人孔又ハ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

十三 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十四 水壓試驗

第八十八條ニ掲グル水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十五 機關備品

水「ポンプ」竝ニ艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門

船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取揃ヘ

置キ鎖鎖、索、船燈、信號器、救命器具其ノ他ノ航海用

具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト

二 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト

三 帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ

爲スコト

四 第八十九條ニ掲グル效力試験ノ準備ヲ爲スコト

五 操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸

受ヲ開キ置クコト

六 應急用動力設備、點燈設備、水密戸閉閉裝置及荷役設

備ノ原動機ノ要部ヲ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ解放ス

ルコト

第一百十一條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスル

トキハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ船體ノ構造及現狀ノ檢

査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第一百十二條 中間検査ニ於テハ第六條第五號及第一百十條第

一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ機關ヲ備フル船舶

ノ中間検査ニ於テハ前項ノ準備ノ外左ノ準備ヲ爲スベシ

一 往復動汽機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋滑瓣匣及「クレン

ク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル

様爲シ置クコト

二 「タービン」汽機

九 空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」

空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋竝ニ瓣匣ヲ開キ置ク

コト但シ二箇以上ヲ備フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ

止ムルモ妨ナシ

十 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十一 機關備品

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

第一百十三條 特殊船舶検査及臨時検査ニ於テハ管海官廳ノ指示

スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第一百十四條 船舶用機關ノ出來上リ検査ニ於テハ第九條ニ

準ジ當該機關ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第一百十五條 管海官廳ハ前十條ニ規定スル検査ノ準備ニ付船

舶ノ大小、用途、年齢、構造、前検査ノ成績又ハ現狀ニ依

リ適當ニ増減セシムルコトヲ得

第一百十六條 検査申請者検査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキ

ハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

第十三章 證書

第一百七十七條 船舶検査證書ヲ分チテ甲種船舶検査證書(第五

「タービン」筒ノ上半ヲ扛擧シ「ローター」軸ノ受金ノ上半

ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

三 發動機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受

金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置ク

コト

四 推進器及推進軸系

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

五 減速裝置

各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減速齒車ノ齒ヲ全般ニ亘リ檢

査シ得ル様爲シ置クコト

六 汽罐

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要

アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ

七 吸水及排水ノ裝置

最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル瓣及「コック」竝ニ塗

水「ポンプ」ノ蓋及瓣匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ置キ且芥

除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

八 潤滑油裝置

定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重裝置ナルトキハ

其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

船舶安全法施行規則

號書式)、乙種船舶検査證書(第六號書式)及漁船検査證書(第七號書式)ノ三種トス

甲種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶、乙種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザル船舶ニ、漁船検査證書ハ漁船ニ付之ヲ交付ス

第一百八條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書ノ有效期間ハ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一 推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未満ノ帆船
二 旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未満ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモノ

第一百九條 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶が其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶検査證書ノ有效期間ハ當該船舶ノ現狀ニ應ジ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第二十條 特殊船舶検査證書ヲ分チテ甲種特殊船舶検査證書(第八號書式)、乙種特殊船舶検査證書(第九號書式)、丙種特殊船舶検査證書(第十號書式)及漁船特殊検査證書(第十一號書式)ノ四種トス

甲種特殊船舶検査證書ハ移民船ニ、乙種特殊船舶検査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ、丙種特殊船舶検査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊船舶検査證書第五十七條第二項

初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ遲滞ナク其ノ事實ヲ届出ツベシ第一項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表並ニ次回定期検査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶が當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶検査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十三條 第五十三條ノ規定ニ依リ定期検査ヲ行ヒタルトキハ船舶検査證書ノ有效期間ハ滿了シタルモノト看做ス

第二十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶検査證書及特殊船舶検査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ

一 船舶ニ付検査ヲ受クルトキ
二 繫船シタルトキ
前項ノ場合ニ於テハ當該船舶が管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶検査證書ノ有效期間内ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二十五條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ヲ滅失又ハ船舶安全法施行規則

ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス
特殊船舶検査證書ノ有效期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限り前項ノ有效期間ハ二航海以上ニ互リ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十一條 合格證明書(第十二號書式)ハ製造検査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ニ之ヲ交付ス

第二十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ハ其ノ有效期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

一 船舶安全法施行地外ニ於テ船舶検査證書ノ有效期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地内ノ目的港迄回航スルトキ

二 船舶安全法施行地ニ在ル船舶が船舶検査證書ノ有效期間滿了シ又ハ航海中其ノ有效期間滿了スベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケ検査ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地内ノ最毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ船舶検査手帖ヲ添へ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第二十六條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶検査手帖ヲ添へ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閲ニ供スベシ

第二十七條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 船舶ガ滅失若ハ沈没シ又ハ解撤セラレタルトキ
二 船舶ガ検査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

三 船舶検査證書ノ有效期間滿了シタルトキ
第二十八條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク特殊船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 前條ノ規定ニ依リ船舶検査證書ヲ返還シタルトキ
 二 船舶ガ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ
 三 特殊船舶検査證書ノ有効期間満了シタルトキ
第二百二十九條 船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

第三十條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶検査證書舊特殊船舶検査證書又ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ
 一 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ書換ヲ受ケタルトキ
 二 船舶検査證書特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第三十一條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

第三十二條 船長ハ船舶検査證書、特殊船舶検査證書及回航認可證書ヲ船内ノ見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第三十三條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ英譯書ノ

有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十七條 第三十七條第二項又ハ**第三十五條**第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書(第十三號書式)ヲ交付ス

第三十八條 回航認可證書ノ有効期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム
 船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第二百二十五條第一項、第二百二十七條及**第三十條**第二號ノ規定ハ回航認可證書ニ之ヲ準用ス

第三十九條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ其ノ有効期間満了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限り申請ニ依リ休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

船舶安全法施行規則

交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ

第三十四條 前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ但シ**第三十條**第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得
 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ
 三 船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ
 四 繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號、第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ヲ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事官又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受

第十四章 再検査

第四十一條 船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再検査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十二條 遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス
 遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指命シタル者ヲシテ再検査ヲ行ハシメ前検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ検査ノ種類ニ應

ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム
第四十三條 前條第二項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ指命シタル者ガ再検査ヲ結了シタル場合ニ於テ遞信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再検査ノ申請者ハ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ申請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章 船舶乗組員ノ不服申立

第四十四條 船舶乗組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ

申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ番該船長ニ提出スベシ

- 一 重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現状
- 二 申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顛末

第四百十五條 船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶検査手帖ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滞ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第四百十六條 船舶ノ發航直前ニ於テ第四百十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ得

第四百十七條 管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ

前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ船級協會ハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第四百十一條 船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル船舶検査ノ行ヒタルトキハ遲滞ナク當該検査報告書、乾舷計算表及該検査ニ基キ發行シタル證書ノ謄本竝ニ検査依頼者ヨリ差出シタル圖面ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四百十二條 遞信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第四百十三條 船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル検査ノ業務ニ關スル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四百十四條 遞信大臣ニ於テ船級協會ヲ認定シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七章 航海上ノ危険防止

第五百十五條 本章中第五百十六條乃至第六十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第五百十六條 船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル船員

船舶安全法施行規則

出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス
管海官廳申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十六章 船級協會

第四百十八條 船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル検査ノ業務ニ復事スル爲メ遞信大臣ノ認定ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

第四百十九條 船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申書請ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

- 一 主タル事務所竝ニ出張所ノ名稱及所在地
- 二 役員ノ氏名
- 三 検査員ノ氏名及履歷
- 四 定款又ハ寄附行爲
- 五 船級登録及検査ニ關スル規定
- 六 手数料及旅費ニ關スル規定

第五百十條 遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）検査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六條ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クベシ

ヲ乗組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲メ特ニ之ヲ乗組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人
- 二 定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人
- 三 定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人
- 四 定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人

前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム
船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ
船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乗組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ
船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ
船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲メ甲板部職員ヲ指定シ置クベシ

シ
救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第二百五十七條

船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ附スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

- 一 水密戸、辨等ノ閉鎖
- 二 救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝
- 三 端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方
- 四 前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備
- 五 旅客ノ召集
- 六 火災ノ消防

召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ

- 一 旅客ニ警報スルコト
- 二 旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ著用セルコトヲ確ムルコト
- 三 旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト
- 四 通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト

帶季節ニ季節熱帶ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・三七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中ノ開放スベカラズ

第六十二條

前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ錠ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ

前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ錠ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル様必要ナル處置ヲ爲スベシ

第六十三條

船長ハ發航前航行中近寄り難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ヅベシ

船長ハ發航前境界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第六十四條

灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ境界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自働不還瓣及開口ノ蓋ヲ締附ケ置クベシ

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲ノ一定ノ信號ヲ記載スベシ

第五十八條

船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附クル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第五十九條

機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ

第六十條

船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル様常ニ準備シ置クベシ

第六十一條

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下縁ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帶ニ在ル場合又ハ熱

第六十五條

船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ每週一回船員ヲ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ケベシ

端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第六十六條

船長ハ水密戸、舷窓、辨並ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ヲ操練ヲ每週一回行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クモ每週一回之ヲ行フベシ但シ主橫置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中閉閉スルコトアルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器並ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル辨ハ航海中少クモ每週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

第六十七條

前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル様且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲準備セラルル様之ヲ行フベシ

第六十八條

船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ
旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船舶ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第六十九條 船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

第七十條 操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ

第七十一條 流水、委棄物、熱帶暴風雨（「ハリケーン」、「タイフーン」、「サイクローン」）及之ト同様ノ性質ヲ有スルモノ）其ノ他航海ニ直接ノ危險ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ別ニ告示スル様式ニ依ルベシ

第七十二條 無線電信ヲ施設シタル船舶全強風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

第七十三條 船舶ハ重大且急迫ノ危險ニ陥リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限り緊急信號及遭難信號ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ警

ムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

第十八章 雜 則

第七十六條 國際航海ニ從事スル船舶ノ船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海日誌ニ記載スベシ

一 第七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ理由

二 第七十八條、第七十九條、第六十一條又ハ第六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密艙番戶、取外シ得ル板戶、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中閉閉シタルトキハ其ノ日時

三 甲板ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密

戶ヲ閉閉シタルトキ及第七十九條若ハ第六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戶又ハ水密戶ヲ航行中緊急ノ必要上又ハ船舶ノ作業上

閉閉シタルトキハ其ノ日時

四 第六十六條ニ定ムル水密戶等ノ操作ノ操練及之ガ點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル

缺陷

船舶安全法施行規則

急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ

緊急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

第七十四條 船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限りノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ

限リ協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ

赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

第七十五條 北大西洋橫斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ採ラシ

ムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ採ラシ

五 第六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキハ其ノ事由

六 航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及緊急自働受信機ヲ試験シタルコト

第七十七條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ届出ヅベシ

一 入渠又ハ上架セントスルトキ（漁船上架ヲ除ク）

二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

第七十八條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ同日以後旅客船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メ

テ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試験ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ

管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試験ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ傾斜試験ハ船舶ノ空艙状態ニ於ケル重心ノ位置ヲ算定シ得ル状態ニ於テ之ヲ行フベシ

傾斜試験ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ届出ヅベシ

第七十九條 前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ

前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

- 一 傾斜試験ノ成績
- 二 空艙状態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置
- 三 横「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖（最高區畫滿載吃水線迄ノ各吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ、横「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ）

第八十條 船舶安全法第十二條第一項ノ證票（第十四號書式）ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ

第八十一條 船舶ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル検査手数料ヲ納付スベシ

検査申請者ノ都合ニ依リ検査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ検査ヲ要セザルモノト爲リタル場合ト雖モ検査著手後ナルトキハ検査手数料ヲ徵收ス

第八十二條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ又ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

第八十三條 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印

第十九章 罰 則

第八十六條 船舶所有者又ハ船長第四十六條、第二百二十四條、第三百三十六條、第五百五十六條第一項又ハ第七十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第四十七條第一項第二項、第五十一條、第八十二條第一項、第八十三條第三項、第二百二十二條第二項、第三百十二條、第四百四十五條又ハ第五百五十七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第四百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタル場合ニ於テ申立ノ事項ガ船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナルニ拘ラズ第四百四十五條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ執ラザリシトキ

附 則

第八十八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十九條 船舶検査法施行細則、船舶滿載吃水線法施行規則、船舶無線電信施設法施行規則、船舶検査規程、木船検査規定、漁船検査規程及船舶滿載吃水線規程ハ之ヲ廢止

船舶安全法施行規則

紙ヲ手数料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

検査手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、検査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非ザルモノトノ區別及手数料額ヲ記載スベシ

前項ニ掲クル事項ノ外臨時検査ヲ受ケタル場合又ハ休暇日ニ於テ検査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回数ヲ、船體ノ製造検査ヲ受ケタル場合又ハ船舶ノ長サヲ、機關ノ製造検査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和ヲ、發動機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和及單働式又ハ復働式ノ別ヲ、「タービン」汽機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ付テハ受熱面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品ノ検査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回数ノミヲ記載スベシ

第八十四條 船舶検査執行地外ニ於テ管海官廳ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ検査ヲ受ケタルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通算ス

第八十五條 本章ノ規定ニ依ル手数料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

ス

第九十條 船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶ハ同法第三十六條第一項ノ検査ヲ受ケタル迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第九十一條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ船舶検査法ニ依リ検査申請中ノモノニ付テハ検査ヲ行ハズ

第九十二條 昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ

第九十三條 船舶安全法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル検査ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 船舶検査法ニ依リ定メタル特別検査ノ有効期間ガ滿了シタル船舶及同法ニ依リ特別検査ヲ行ハザル船舶ノ受クベキ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス
- 二 前號ノ有効期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
別表第一號

無線電信施設免除區域表

- 一 北海道各港間及樺太各港間ノ區域竝ニ北海道ト樺太トノ間ノ航路ニ當ル韃靼海灣及「オホツク」海
- 二 山口縣天津郡川尻岬ヨリ慶尚南道釜山ニ至ル線及長崎縣長崎ヨリ全羅南道馬羅島ヲ經テ同道珍島ニ至ル線内ノ區域
- 三 北緯三十七度以北ノ黃海
- 四 臺北州富貴角ヨリ中華民國福建省福州ニ至ル線及高雄州鷺鑾鼻ヨリ香港ニ至ル線内ノ區域
- 五 東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸ヨリ西貢ニ至ル沿岸線、西貢ヨリ北緯四度三十分東經百十度ノ地點、「パラワン」島ノ南端、「バルマス」島（「ミアンガス」）、緯度零度東經百四十度ノ地點、緯度零度東經百四十八度ノ地點及南緯十度東經百四十八度ノ地點ヲ經テ「ヨーク」岬ニ引キタル線、「ヨーク」岬ヨリ「ボート」ダーウイン（「チアールズ」岬）ニ至ル「オーストラリア」ノ北沿岸線、竝ニ「チアールズ」岬ヨリ「アシモア、リーフ」「イースト」島、南緯十度東經百九度ノ地點、「クリスマス」島、北緯二度東經九十四度ノ地點及北緯十度東經九十四度ノ地點ヲ經テ東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸迄引キタル各線内ニ在リテ「オーストラリア」聯邦及

海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付行フ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

三 前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ検査ニ付テハ中間検査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ検査ノ方法及準備ニ付第一號ニ依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶前項ノ検査ヲ受ケ滿載吃水線ヲ標示スベキ場合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要トスル事情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第九十四條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ船舶安全法

第三十五條ニ掲グルモノハ同法ニ依リ検査ヲ受クル迄第五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乗組マシメザルコトヲ得

第九十五條 船舶検査法ニ依リ定メタル船舶ノ資格ガ第九

十二條ノ表ニ掲グル船舶ノ長サ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メタルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限り仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第九十六條 削除

附 則 (昭和十五年四月二十四日 逓信省令第二十二號)

- 五 亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル區域
- 六 香港ヨリ北緯十七度東經百十度ノ地點ニ至ル線、同地點ヨリ正南へ北緯十度ニ至ル線及同地點ヨリ西貢ニ至ル線ノ西方ノ支那海及東京灣
- 七 赤道ヨリ西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ線及「オーストラリア」ノ沿岸線ニ依リ圍マレタル南太平洋ヨリ「オーストラリア」ノ領域ヲ除キタル區域
- 八 「マダガスカル」島、「レユニオン」島及「モーリシアス」島ノ各港間ノ航路ニ當ル印度洋

- 九 「モロッコ」國「カサブランカ」、「アルジェリア」ノ「オラン」及其ノ中間ノ各港間ノ航路ニ當ル北大西洋及地中海一部
 - 十 諸威國「ウトシレ」ヨリ和蘭國「テキセル」ニ至ル線ノ東方ニシテ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ領域ヲ除キタル「バルチック」海及其ノ接續海
 - 十一 亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル「カリビアン」海
- 第十一號ノ區域ニ付テハ帆船ノ航海ニ限ル

別表第二號 検査手数料表

製 造		檢 査	
船 體	船 體ノ長サ(米)	七 圓	一〇 圓
一隻	二〇 未滿	三〇 以上 未滿	四〇 以上 未滿
二隻	三〇 以上 未滿	四〇 以上 未滿	五〇 以上 未滿
三隻	四〇 以上 未滿	五〇 以上 未滿	六五 以上 未滿
四隻	五〇 以上 未滿	六五 以上 未滿	一〇〇 以上 未滿
五隻	六五 以上 未滿	一〇〇 以上 未滿	一二五 以上 未滿
六隻	一〇〇 以上 未滿	一二五 以上 未滿	一五〇 以上 未滿
七隻	一二五 以上 未滿	一五〇 以上 未滿	一七五 以上 未滿
八隻	一五〇 以上 未滿	一七五 以上 未滿	二〇〇 以上 未滿
九隻	一七五 以上 未滿	二〇〇 以上 未滿	二二五 以上 未滿
十隻	二〇〇 以上 未滿	二二五 以上 未滿	二五〇 以上 未滿
十一隻	二二五 以上 未滿	二五〇 以上 未滿	二七五 以上 未滿
十二隻	二五〇 以上 未滿	二七五 以上 未滿	三〇〇 以上 未滿
十三隻	二七五 以上 未滿	三〇〇 以上 未滿	三二五 以上 未滿
十四隻	三〇〇 以上 未滿	三二五 以上 未滿	三五〇 以上 未滿
十五隻	三二五 以上 未滿	三五〇 以上 未滿	三七五 以上 未滿
十六隻	三五〇 以上 未滿	三七五 以上 未滿	四〇〇 以上 未滿
十七隻	三七五 以上 未滿	四〇〇 以上 未滿	四二五 以上 未滿
十八隻	四〇〇 以上 未滿	四二五 以上 未滿	四五〇 以上 未滿
十九隻	四二五 以上 未滿	四五〇 以上 未滿	四七五 以上 未滿
二十隻	四五〇 以上 未滿	四七五 以上 未滿	五〇〇 以上 未滿

特殊検査	臨時検査 臨檢一回ニ付	査検間中		査検期定		總噸數	推進機關ヲ有スル船舶ノ検査	機動 發動機一箇ニ付
		旅客船ニ非ザルモノ	旅客船	旅客船ニ非ザルモノ	旅客船			
推進機關ヲ有モザル船舶ノ検査	二圓	六圓	九圓	一五圓	二〇圓	二〇噸以上 未滿	推進機關ヲ有スル船舶ノ検査	一〇圓
		一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	三〇噸以上 未滿		一五圓
	三圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	五〇圓	三〇噸以上 未滿		二〇圓
		二〇圓	三〇圓	五〇圓	七〇圓	五〇噸以上 未滿		三〇圓
	五圓	二五圓	四〇圓	七〇圓	一〇〇圓	一〇〇噸以上 未滿		四五圓
		三五圓	五〇圓	九〇圓	一三〇圓	一三〇噸以上 未滿		六五圓
	七圓	四五圓	六五圓	一一〇圓	一六五圓	一六五噸以上 未滿		九〇圓
		五五圓	八〇圓	一三〇圓	二〇〇圓	二〇〇噸以上 未滿		一二〇圓
	三五圓	七圓	八〇圓	一三〇圓	二〇〇圓	二〇〇噸以上 未滿		一三五圓

復發 氣筒ノ徑ノ和(米)	發動機一箇ニ付	單動 氣筒ノ徑ノ和(米)	汽 受熱面積(平方米)	「タ」 汽機		復 汽機一箇ニ付	往 汽筒ノ徑ノ和(米)
				汽機一箇ニ付	軸馬力		
〇・五 未滿	五圓	〇・五 未滿	五〇 未滿	一〇圓	三〇 未滿	一〇圓	一〇 未滿
〇・五 以上 未滿	一〇圓	〇・五 以上 未滿	五〇 未滿	一〇圓	三〇 未滿	一〇圓	一〇 未滿
一・五 以上 未滿	一五圓	一・五 以上 未滿	一〇〇 未滿	一五圓	五〇 未滿	一五圓	一・五 以上 未滿
二・五 以上 未滿	二〇圓	二・五 以上 未滿	一五〇 未滿	二〇圓	一、五〇 未滿	二〇圓	二・五 以上 未滿
三・五 以上 未滿	三〇圓	三・五 以上 未滿	二〇〇 未滿	三〇圓	一、〇〇 未滿	三〇圓	三・五 以上 未滿
四・五 以上 未滿	四〇圓	四・五 以上 未滿	二五〇 未滿	四〇圓	一、〇〇 未滿	四〇圓	四・五 以上 未滿
五・五 以上 未滿	五〇圓	五・五 以上 未滿	三〇〇 未滿	五〇圓	一、〇〇 未滿	五〇圓	五・五 以上 未滿
六・五 以上 未滿	六〇圓	六・五 以上 未滿	三五〇 未滿	六〇圓	一、〇〇 未滿	六〇圓	六・五 以上 未滿
七・五 以上 未滿	七〇圓	七・五 以上 未滿	四〇〇 未滿	七〇圓	一、〇〇 未滿	七〇圓	七・五 以上 未滿
八・五 以上 未滿	八〇圓	八・五 以上 未滿	四五〇 未滿	八〇圓	一、〇〇 未滿	八〇圓	八・五 以上 未滿
九・五 以上 未滿	九〇圓	九・五 以上 未滿	五〇〇 未滿	九〇圓	一、〇〇 未滿	九〇圓	九・五 以上 未滿

付=筒一機動發働復			付=筒一機動發働單			付=筒一 罐汽			筒一機 付=
出來上リ検査	製造中検査	氣筒ノ徑ノ和(米)	出來上リ検査	製造中検査	氣筒ノ徑ノ和(米)	出來上リ検査	製造中検査	受熱面積(平方米)	出來上リ検査
五圓	一五圓	一〇・五以上 未滿	三圓	一〇圓	一〇・五以上 未滿	二圓	五圓	五〇未滿	三圓
七圓	二〇圓	一〇・五以上 未滿	五圓	一五圓	一〇・五以上 未滿				
一〇圓	三〇圓	二〇・五以上 未滿	七圓	二〇圓	二〇・五以上 未滿	三圓	一〇圓	一五〇以上 未滿	五圓
一五圓	四五圓	二〇・五以上 未滿	一〇圓	三〇圓	二〇・五以上 未滿	五圓	一五圓	一五〇以上 未滿	七圓
二〇圓	六五圓	三〇・五以上 未滿	一五圓	四五圓	三〇・五以上 未滿				
三〇圓	九〇圓	四〇・五以上 未滿	二〇圓	六〇圓	四〇・五以上 未滿	七圓	二〇圓	二五〇以上 未滿	一〇圓
三五圓	一一〇圓	五〇・五以上 未滿	二五圓	七五圓	五〇・五以上 未滿	一〇圓	三〇圓	三五〇以上 未滿	一五圓
四五圓	一三五圓	五〇・五以上	三〇圓	九〇圓	五〇・五以上	一五圓	四五圓	三五〇以上	二〇圓

汽「ンピータ」		付=筒一機汽動復往			臨時検査 回=檢 付一	中間 検査	定期 検査	總 噸 數
製造中検査	軸馬力	出來上リ検査	製造中検査	汽筒ノ徑ノ和(米)				
一〇圓	三〇未滿	三圓	一〇圓	一〇・五未滿		二圓	五圓	二〇噸以上 五〇噸未滿
一五圓	五〇以上 未滿	五圓	一五圓	一〇・五以上 未滿				一〇五噸以上 一五〇噸未滿
二〇圓	一、〇五〇以上 未滿	七圓	二〇圓	二〇・五以上 未滿		三圓	七圓	三〇〇噸以上 三〇〇噸未滿
三〇圓	三、〇〇〇以上 未滿	一〇圓	三〇圓	二〇・五以上 未滿	一圓	五圓	一〇圓	五〇〇噸以上 五〇〇噸未滿
四五圓	五、〇〇〇以上 未滿	一五圓	四五圓	三〇・五以上 未滿		七圓	一五圓	五〇〇噸以上 五〇〇噸未滿
六〇圓	五、〇〇〇以上	二〇圓	六〇圓	三〇・五以上	二圓	一〇圓	二五圓	五〇〇噸以上

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査

特別定船機部 品使用分	船舶ノ總噸數	臨檢一回ニ付
一〇〇噸未満	二圓	二圓
五〇〇噸以上 一〇〇〇噸未満	三圓	三圓
二、〇〇〇噸以上 五〇〇〇噸未満	五圓	五圓
二、〇〇〇噸以上	七圓	七圓

五六

備考

- 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付定期検査ヲ受クルトキハ本表ノ手数料ノ半額トス
- 臨檢回数ハ検査官吏一人一回ノ臨檢ヲ以テ臨檢一回トシ一人一回ノ臨檢時間ガ四時間ヲ超ユル時ハ之ヲ二回トシ算出ス
- 臨時検査ノ検査手数料ガ當該船舶ノ定期検査ノ検査手数料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム
- 休暇日検査ヲ受クルトキハ臨檢一回ニ付前三號ノ規定ニ依リ算出シタル検査手数料ニ其ノ三割ニ相當スル金額ヲ加算ス但シ臨檢一回ノ加算手数料ガ三圓未満ナルトキハ之ヲ三圓トシ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム
- 船舶安全法施行地外ニ於テ検査ヲ受クルトキハ検査手数料ハ前四號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス

別表第三號

- 證書、證明書及船舶検査手帖手数料表
- 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書
推進機關ヲ有スル船舶 二圓
前號ニ掲グル證書ノ英譯書 推進機關ヲ有セザル船舶 一圓
 - 合格證明書 推進機關ヲ有スル船舶 一圓
推進機關ヲ有セザル船舶 二圓
 - 回航認可證書 推進機關ヲ有スル船舶 二圓
推進機關ヲ有セザル船舶 一圓
 - 船舶検査手帖 總噸數百噸以上ノ推進機關ヲ有スル船舶 十圓
總噸數百噸未満ノ推進機關ヲ有スル船舶 七圓
推進機關ヲ有セザル船舶 五圓
- 備考
第一號乃至第四號ノ手数料ハ第四百十條ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第一號書式ノ一

- 船舶検査申請書
- 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 船籍港

船舶安全法施行規則

- 船舶安全法施行地ニ於テ執行シタル検査ト雖モ申請ニ依リ其ノ一部ヲ同法施行地外ニ於テ受ケタルトキハ検査手数料ハ前號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス
- 汽罐ノ受熱面積ハ一面ガ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ヲ除外シ且焔管ノ受熱面積ハ外徑ヲ基トシテ算定シ筒形汽罐ニ在リテハ各火爐及之ニ附屬スル燃燒室中該火爐ノ中心線ヲ含ム水平面以下ノ部分ヲ除外シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ヲ除外スルモノトス
- 検査ノ申請ヲ取下ゲタル場合ニ於テ船體ノ長さ、往復動汽機ノ汽筒ノ徑、「タービン」汽機ノ軸馬力、汽罐ノ受熱面積又ハ發動機ノ汽筒ノ徑ヲ定ムルコト能ハザルトキハ夫々計畫ノモノニ依リ手数料ヲ定ムルモノトス

四 船舶ノ用途

- 航行セントスル航路(漁船ニ在リテハ從事セシメントスル業務ノ種類)
- 無線電信施設ノ有無
- 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 検査ノ種類及其ノ申請ノ事由

申請者 氏 名 印

管海官廳宛

- 船舶ガ長國際航海若ハ短國際航海ニ從事スルモノナルトキ又ハ第二十二條第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ第五號ニ附記スベシ
- 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスル船舶又ハ滿載吃水線ノ再指定ヲ受ケントスル船舶ニ付申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ各號ノ外龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度ヲ附記スベシ
- 漁船ニ付テハ特定區域内ノミニ於テ從業セントスルトキハ第五號ニ其ノ區域ヲ附記スベシ

第一號書式ノ二

(移民船ニ付特殊船舶検査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ)

五七

- 一 船舶検査申請者(移民船)
- 二 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 三 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 四 航行區域
- 五 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 六 移民又ハ三等旅客ノ員數及之ヲ搭載スル港
- 七 發航港、寄航港、到達港及移民又ハ三等旅客ノ下船港
- 八 出港ノ日時及豫定航海期間
- 九 航行里程
- 十 平均速力
- 十一 移民又ハ三等旅客ノ船内ニ於ケル搭載場所

申請者 氏 名 印

管海官廳宛
備考

第八號ニハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ發航港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ里程ヲ記載スベシ

第一號書式ノ三 (第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特種船舶検査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ)

船舶検査申請書

第二號書式

製造検査申請書

- 一 船舶ノ種類及資格
- 二 鋼船又ハ木船ノ區別
- 三 船舶ノ長さ及總噸數
- 四 機關ノ種類及數
- 五 實馬力
- 六 制限汽壓
- 七 推進器ノ種類及數
- 八 使用ノ目的
- 九 航行セントスル航路 (漁船ニ在リテハ從事セシメントスル業務ノ種類)
- 十 申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度
- 十一 船體及機關ノ製造所ノ名稱並ニ其ノ所在地
- 十二 起工ノ年月

申請者 氏 名 印

管海官廳宛

船舶安全法施行規則

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 航行區域(漁船ニ在リテハ操業場所)
- 四 臨時ニ搭載スル者ノ種類及員數並ニ之ヲ搭載スル港
- 五 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 六 航行里程
- 七 平均速力
- 八 發航港、寄航港及到達港
- 九 豫定航海期間 (漁船ニ在リテハ豫定ノ漁期)
- 十 第四號ニ掲グル者ノ船内ニ於ケル搭載場所

申請者 氏 名 印

管海官廳宛
備考

第六號ニハ第五十七條第一項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケル船舶ニ在リテハ其ノ運送航路ノ里程ヲ、同條第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケル船舶ニ在リテハ其ノ仕立港ヨリ操業場所迄ノ里程ヲ記載スベシ

備考

機關ニ付船體ト同時ニ製造検査ヲ受ケザルトキハ其ノ事由ヲ附記スベシ

第三號書式

機關検査申請書

- 一 検査ヲ受クベキ機關又ハ其ノ部分ノ名稱及數
- 二 製造番號及製造年月
- 三 主要件名
- 四 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 五 出來上リ検査又ハ製造中検査ノ別

申請者 氏 名 印

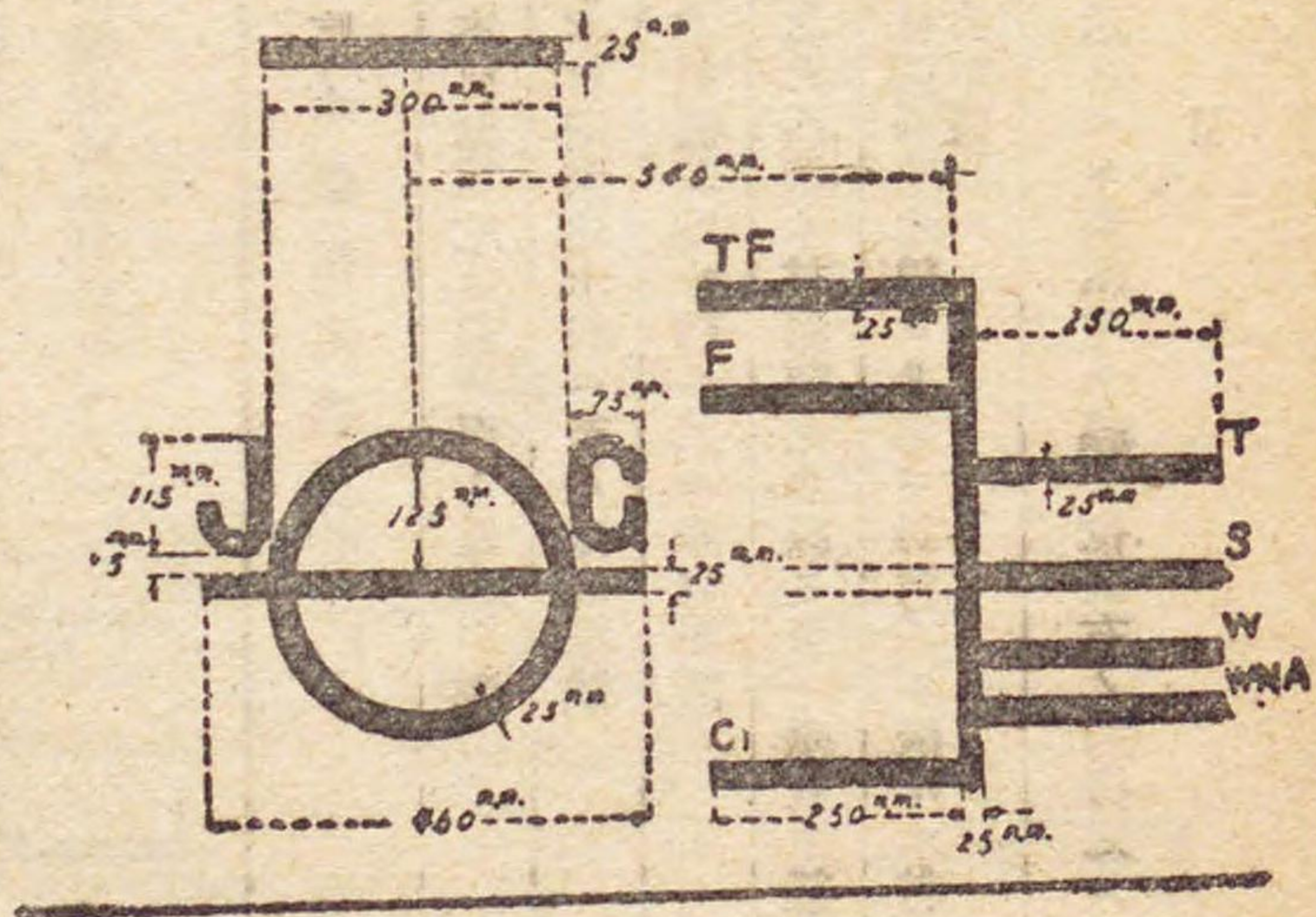
管海官廳宛

備考

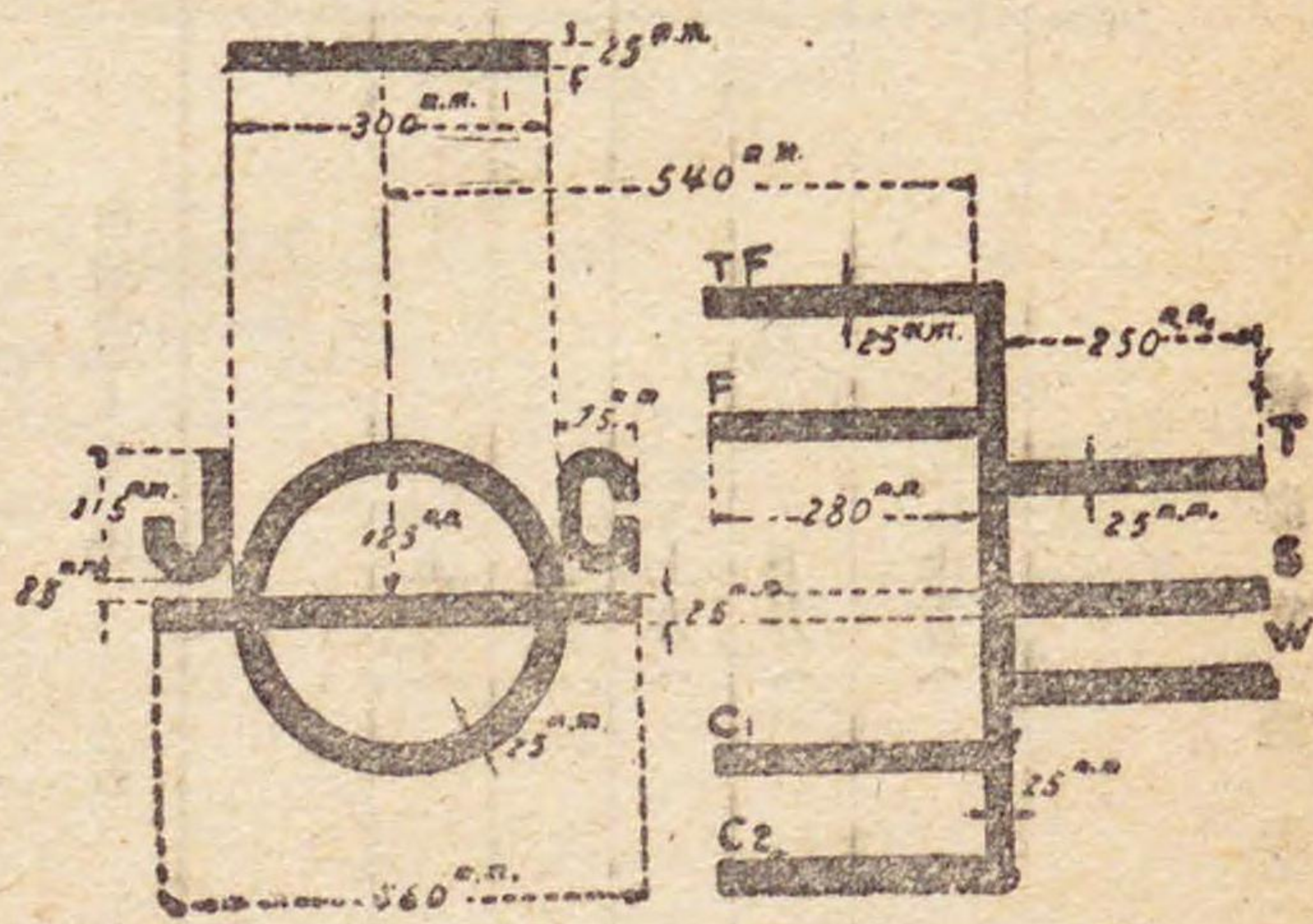
第三號ニハ往復動汽機ニ在リテハ制限汽壓並ニ各汽筒ノ徑及行長ヲ、「タービン」汽機ニ在リテハ制限汽壓、軸馬力及「タービン」筒ノ數ヲ、發動機ニ在リテハ型式並ニ氣筒ノ數徑及行長ヲ、汽罐ニ在リテハ型式、制限汽壓、徑長サ(又ハ高サ)及受熱面積ヲ記載スベシ

（槽船及槽船ニ非ザル長サ一〇〇・五八米以下ノ汽船ニシテ遠洋ノ航行區域ヲ有スルモノ）

例示標線水吃載滿
(ス示ヲ例ルケ於ニ舷右)



（近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及長サ一〇〇・五八米ヲ超エ遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船（槽船ヲ除ク））



割印

第四號書式ノ一（汽船ニ用ウルモノ）
策 號

船舶滿載吃水線指定書

事 記

汽 船丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス
年 月 日

圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離（夏期乾舷）	板ノ長サノ中央ニ於ケル外ノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ニ至ル垂直距離	船ノ長サノ中央ニ於ケル外ノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ニ至ル垂直距離
下方へ	下方へ	上方へ	下方へ	方へ	方へ
耗	耗	耗	耗	耗	耗

線水吃載滿畫區

海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	貨物搭載場所ノ中旅客室ニ充ツル場所	當該區畫滿載吃水線	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ區畫滿載吃水線ニ至ル垂直距離
上方へ	下方へ	下方へ	下方へ
耗	耗	耗	耗

管海官廳印

申請者 氏 名

備考

- 一 該當事項ナキ欄ニハ斜線ヲ引クベシ
 - 二 木材滿載吃水線ヲ標示スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ第四號書式乙ヲ用ウベシ
 - 三 船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ板示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板(木甲板アルトキハ木甲板)ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ
- 第四號書式ノ二 (木材滿載吃水線指定ニ用ウルモノ)

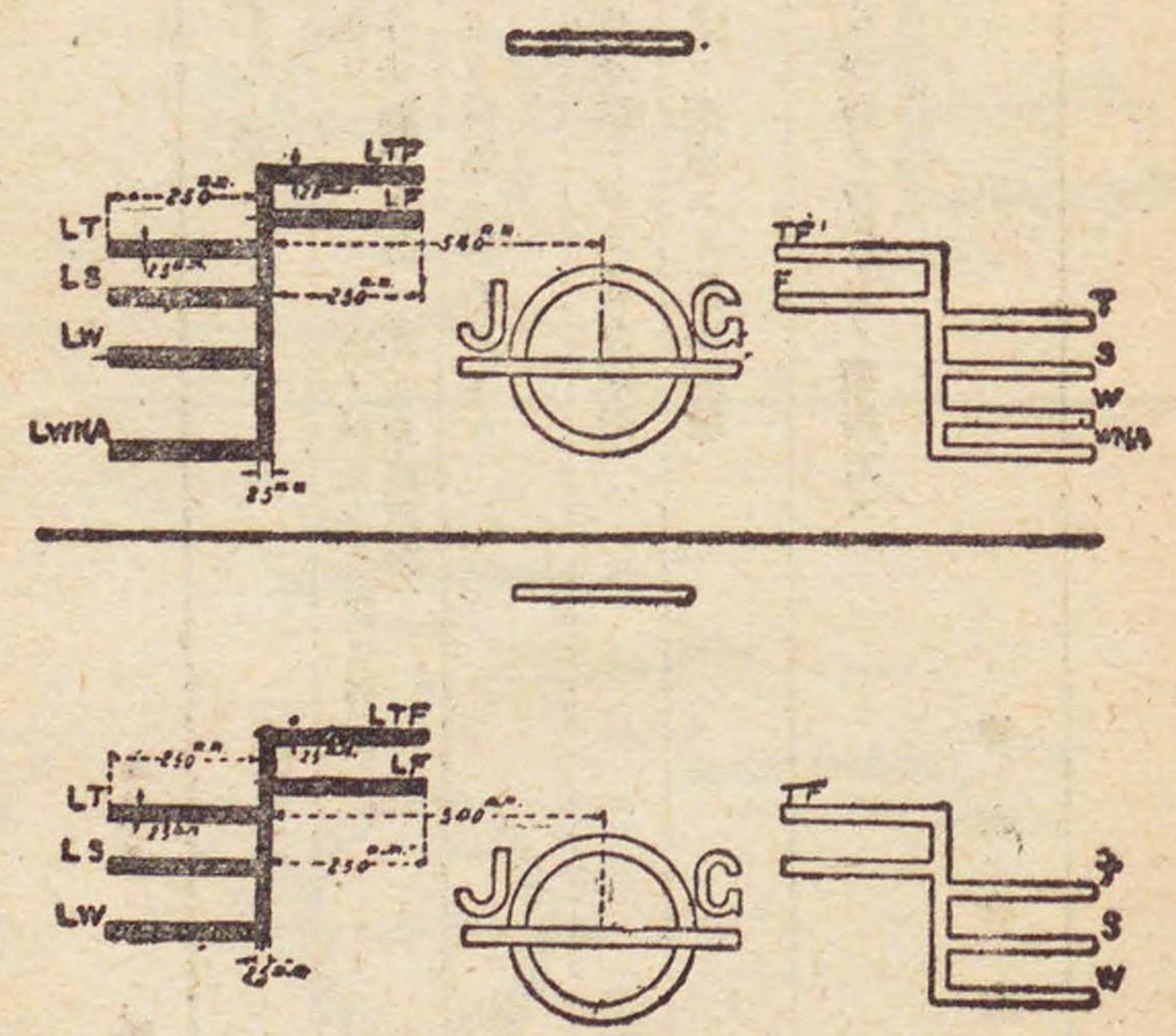
第 號

申請者 氏 名

割印

船舶滿載吃水線指定書	管海官廳印
圓標ノ中心ヨリ夏期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ
圓標ノ中心ヨリ熱帶木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ
圓標ノ中心ヨリ冬期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ
海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ
汽船 丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス	耗
年 月 日	耗
	耗
	耗
	耗

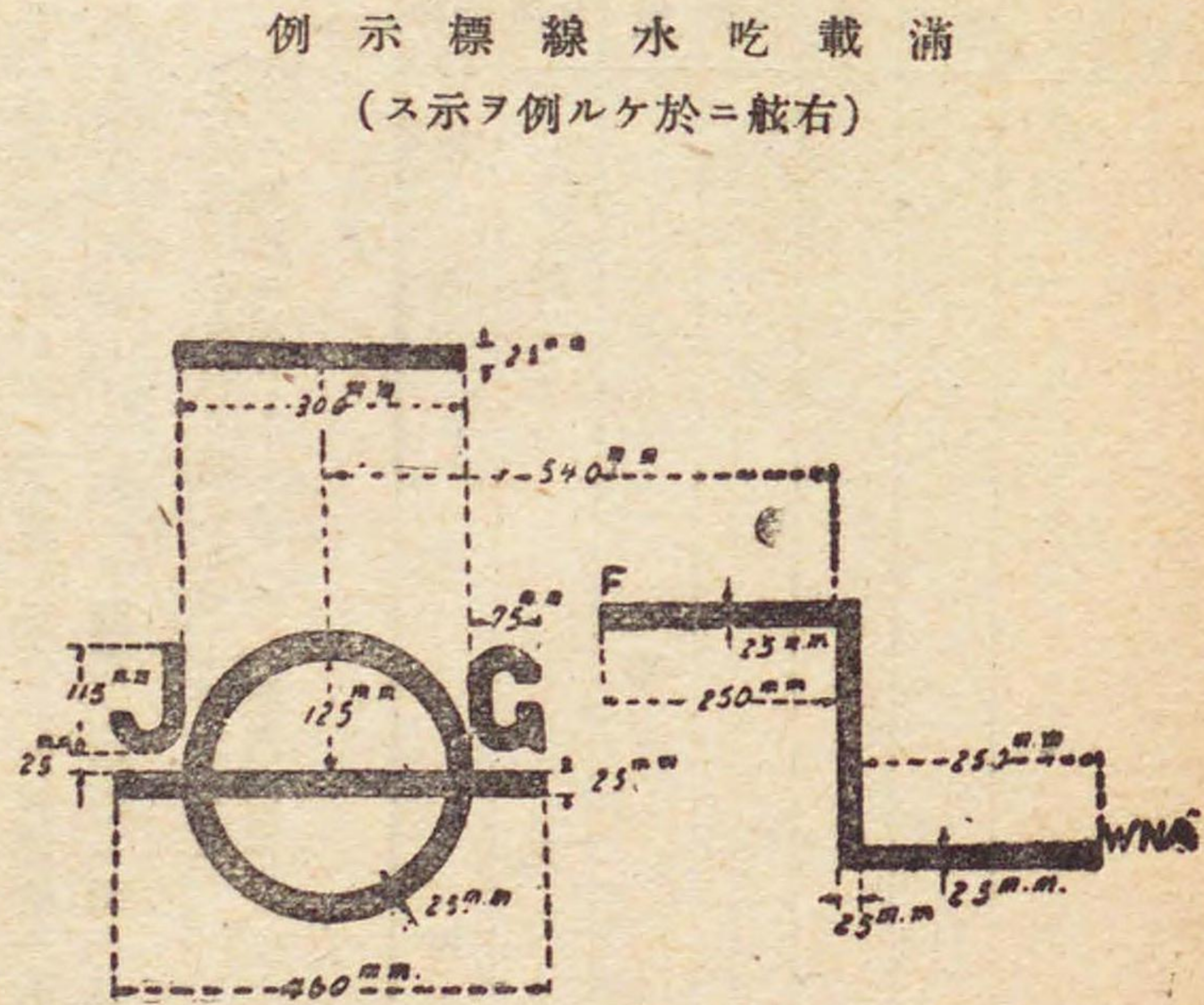
例示標線水吃載滿材木
(ス示ヲ例ルケ於ニ舷右)



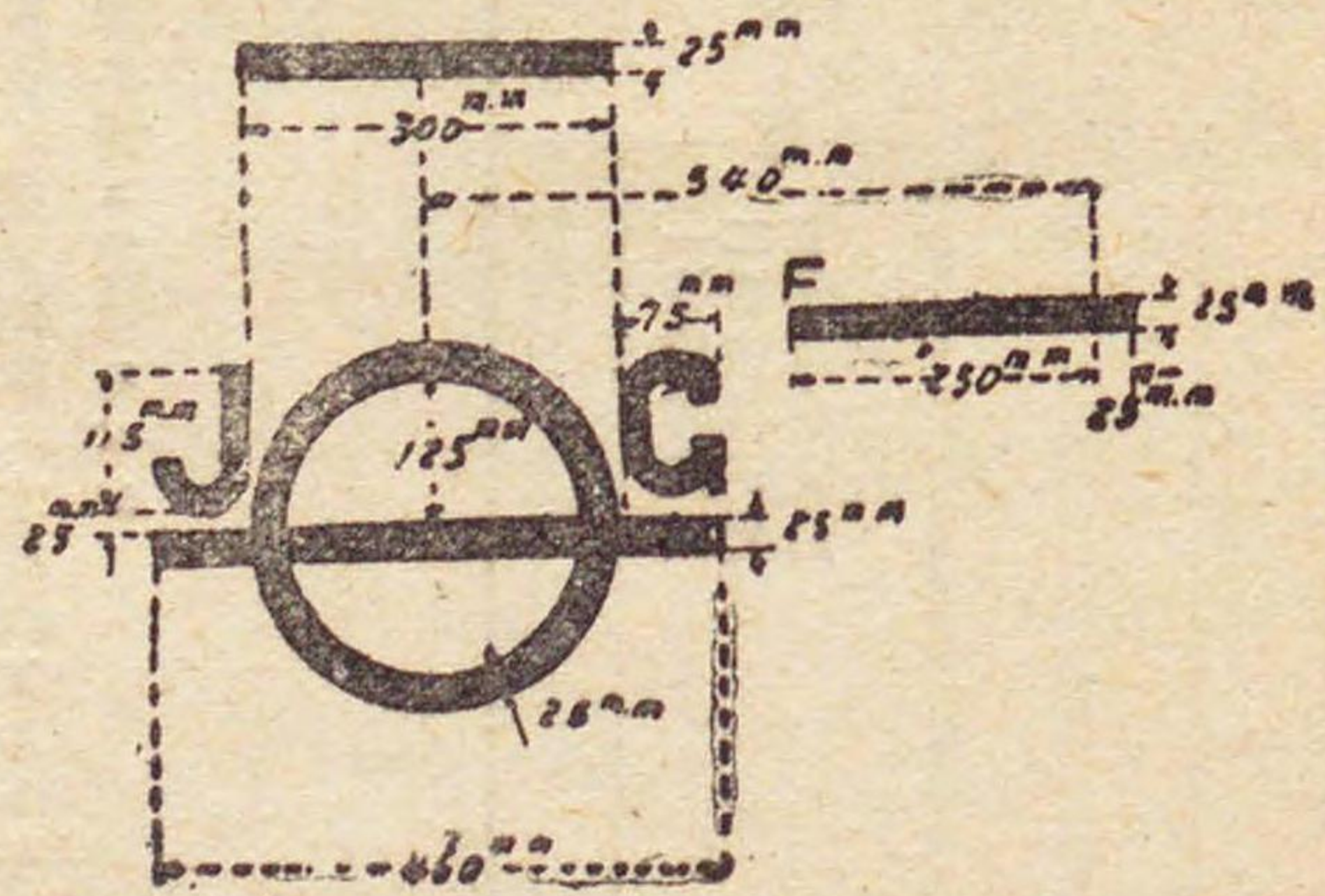
(遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船)

(近海ノ航行區域ヲ有スル汽船)

(遠洋ノ航行區域ヲ有スル帆船)



(近海ノ航行區域ヲ有スル帆船)



備考

近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ

第四號書式ノ三 (帆船ニ用ウルモノ)
第 號

申請者 氏 名

割印

事 記	年 月 日	管 海 官 廳 印	方 向	耗
船舶滿載吃水線指定書			方へ	耗
船ノ長サノ中央ニ於ケルトノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ニ至ル垂直距離			上方へ	耗
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離(海水乾舷)			下方へ	耗
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離			下方へ	耗
海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離			上方へ	耗
帆船 丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス				

備考

- 一 近海ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ
- 二 船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板(木甲板アルトキハ木甲板)ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

第五號書式ノ一 (木材滿載吃水線ヲ標示セ) (豎二七種)
 (ザル船舶ニ用ウルモノ) (横四〇種)

割印

機 種類	用 途	船 籍 港	符 信 字 號	總 噸 數	船 名	番 號	所 有 者
					船 種	第 號	
電 信	無 線	搭 客	大 人	載 員	其 他 者	合 計	二 等 旅 客 定 員
式	人	人	人	人	人	人	人

甲種船舶檢査證書

關 汽 制 限	馬 公 力	航 行 區 域	證 書 有 效 期 間	滿 載 吃 水 線	乾 舷 甲 板 標 示 ス ル 水 平 線	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 北 大 西 洋 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	海 水 ニ 於 ケ ル 各 種 滿 載 吃 水 線 ヨ リ 之 ニ 對 應 ス ル 淡 水 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離
					船 ノ 長 サ ノ 中 央 ニ 於 ケ ル 外 板 ノ 外 面 ト ノ 交 點 ヨ リ 乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 上 面 ノ 延 長 ト 上 緣 ニ 至 ル 垂 直 距 離	乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 上 面 ノ 延 長 ト 上 緣 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 北 大 西 洋 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離
備 設 命 救					端 艇	救 命 筏	浮 救 器	浮 救 環	胴 救 衣
貨 物 搭 載 場 所 ノ 充 ツ ル 場 所					當 該 區 畫 滿 載 吃 水 線 ノ 記 號	乾 舷 甲 板 ヲ 標 示 ス ル 水 平 線 ノ 上 緣 ヨ リ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 熱 帶 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離	圓 標 ノ 中 心 ヨ リ 冬 期 北 大 西 洋 滿 載 吃 水 線 ニ 至 ル 垂 直 距 離
耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗

船舶安全法施行規則

割印

第八號書式
(豎二七櫃
横三三櫃)

種 甲	船 種	船 名	總噸數
	丸	船	噸
搭	所有者	總	員
			人

漁船檢査證書

年 月 日	證書有效期間 自 年 月 日 至 年 月 日	從業限制	機關		種類
			汽壓	制限	
船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス					
管海官廳印	端艇	電無	員人載搭大最		馬公
		信線	合計	ノ其他	船員
			人	人	人

割印

第七號書式ノ二

(滿載吃水線ヲ標示セザル漁船ニ用ウルモノ)
(豎二七櫃
横四〇櫃)

總噸數	船名	番號	船種
噸	船	第	號
船籍港	符號	信字	所有者

査證書

年 月 日	船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	満載吃水線		證書有效期間 自 年 月 日 至 年 月 日
		上方へ	下方へ	
管海官廳印	端艇	圓標ノ中心ヨリ熟帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ熟帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ
		圓標ノ中心ヨリ熟帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ熟帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ
		耗	耗	耗

第十號書式
 第 號
 割印
 特種丙

總噸數	船名	船種
噸	船	丸
甲	所有者	
員總	譯內	
人		

特種船舶検査證書

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス 年 月 日	效期間	證書有	航路
	至 自	年 年	
管海官廳印	月 月	日 日	
	時 旅 客		
譯 內			



第九號書式
 第 號
 割印
 特種乙

總噸數	船名	船種
噸	船	丸
臨	所有者	
員總	譯內	
人		

殊船檢査證書

航路	證書有	自	年	月	日
	效期間	至	年	月	日
船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス					
年 月 日					
客			旅		
譯			內		
管海官廳印					

第十一號書式
(堅二七種)
(横三三種)

割印

漁船特

船種	船名	船種
		丸
總噸數	噸	所有者
業務ノ種類	仕立港	歸豫著定港
管海官廳印		

殊檢査證書

操業場所	證書有	自	年	月	日
	效期間	至	年	月	日
船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス					
年 月 日					
搭			載		
員			人		
譯			內		
總			員		
管海官廳印					

第十二號書式ノ一
(船舶ニ用)
(ウルモノ)
(堅二七種)
(横一九種)

第 號

合格證明書

- 一 船舶ノ種類及鋼船又ハ木船ノ區別
- 一 製造番號
- 一 總噸數

船舶安全法施行規則

割印

- 一 船體ノ主要寸法
 - 一 船舶ノ用途
 - 一 機關ノ種類及數
 - 一 製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 一 検査ノ成績
- 別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶ノ製造検査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印

第十二號書式ノ二

(船舶用機關ニ用ウルモノ) (豎二七種) (横一九種)

第 號

合格證明書

- 一 檢印及検査番號
 - 一 検査品名及數
 - 一 製造中検査又ハ出來上リ検査ノ區別
 - 一 製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 一 検査ノ成績
- 別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印

割印

第十三號書式

(豎二七種) (横一九種)

第 號

回航認可證書

船舶所有者住所
氏名又ハ名稱

右所有(汽)船 丸ハ船舶安全法施行規則第 條第 號ニ該當スルニ因リ(旅客若ハ貨物ノ

搭載ヲ許サレタルトキ又ハ之ヲ禁ゼラレタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス)

ヨリ 年 月 日 迄航行スルコトヲ認可シ本證書ヲ交付ス

本證書ハ 年 月 日 限リ其ノ效力ヲ失フ

年 月 日

管海官廳印

割印

第十四號書式

(豎八・五種) (横六種)

船舶安全法施行規則

船舶設備規程

第二編 消防設備

第一章 總則

第六十二條 本編第二章ノ規定ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶及國際航海ニ從事セザル船舶ニ付管海官廳該規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大

船舶設備規程

第 號	船 舶 檢 查 官 吏 之 證 印	官 氏 名
	遞 信 省	

小、航路等ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

本編第三章ノ規定ハ旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第六十三條 船舶ニ備フベキ火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器及携帶用液體消火器ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 前條ニ掲グルモノ以外ノ消防裝置ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ効力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第六十五條 消防裝置ハ航海中何時ニテモ使用シ得ル狀態ニ整備シ置クコトヲ要ス

第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第六十六條 船舶ニハ巡視員ガ近寄り得ザル場所ニ於ケル火災ノ發生又ハ徵候ヲ乗組員ノ注意ヲ引キ易キ一箇所又ハ數箇所ニ自働的ニ表示シ又ハ記録スル火災警報裝置ヲ設クベシ

第六十七條 船舶ニハ十分ナル數ノ携帶用液體消火器ヲ備ヘ

送水管ノ支管ハ各甲板上ニ於テ之ニ消防布管ヲ容易ニ連絡シ得ル様配置スベシ
送水管及布管ハ十分ナル大サヲ有シ且適當ナル材料ヲ以テ製造シタルモノナルコトヲ要ス

第七十二條 貨物積載場所ニハ何レノ部分ニモ消防「ポンプ」ニ依リ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ

總噸數千噸以上ノ船舶ニ在リテハ遊離狀態ニテ最大艙ノ全容積ノ百分ノ三十以上ヲ占有シ得ル量ノ鎮火性瓦斯ヲ常設ノ管系ニ依リ貨物ヲ搭載スル各區畫室ニ迅速ニ送込ミ得ル様設備スベシ但シ蒸汽機關ヲ備フル船舶ニ在リテハ鎮火性瓦斯ニ代ヘ蒸汽ヲ用ウルコトヲ得

第七十三條 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ
- 二 各汽罐室及燃料油槽、澄油槽其ノ他燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ泡ヲ急速ニ放出撒布シ得ベキ裝置ヲ備フベシ
- 本號ノ裝置ハ之ヲ備ヘタル室ノ外側ヨリ操作シ且調節シ得ルモノナルコトヲ要ス

各機關室ニハ少クとも二箇ノ携帶用液體消火器ヲ配置スベシ

第六十八條 船舶ニハ防毒面一箇及安全燈一箇ヨリ成ル裝具二組ヲ隔リタル箇所ニ一組宛備フベシ

第六十九條 總噸數四千噸未滿ノ船舶ニハ二箇、總噸數四千噸以上ノ船舶ニハ三箇ノ消防用蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備フベシ

前項ノ各「ポンプ」ハ船内何レノ部分ニモ十分ナル水量ヲ二箇ノ強力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得ベキモノナルコトヲ要シ且船舶ノ發航前何時ニテモ使用シ得ル狀態ト爲シ置クコトヲ要ス

第七十條 前條ノ規定ニ依リ三箇以上ノ消防「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ在リテハ該「ポンプ」ノ全部ヲ同一室内ニ備フルコトヲ得ズ

汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室溢水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ノモノナルトキハ消防「ポンプ」中一箇ヲ軸路又ハ機關室外ノ場所ニ置クベシ

第七十一條 消防「ポンプ」ノ送水管ハ水密戸及消火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ居住設備ヲ設ケタル甲板ノ何レノ部分ニモ同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様配置スベシ

本號ノ裝置ハ各區畫室底面（二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ二重底内底板ノ上面、二重底ヲ有セザル船舶ニ在リテハ底部外板ノ内面）ノ全面積ヲ一五・二四センチメートルノ深サ迄徹フニ十分ナル泡ヲ放出シ得ルモノナルコトヲ要ス若シ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室溢水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ナルトキハ汽罐室ト汽機室トヲ併セタルモノヲ一區畫トシ泡ノ量ヲ定ムベシ

三 容量一三六リットル以上ノ泡消火器ヲ汽罐室ガ一室ナル汽船ニ在リテハ一箇、汽罐室ガ二室以上ナル汽船ニ在リテハ二箇備フベシ

本號ノ消火器ニハ汽罐室又ハ燃料油設備ヲ設置シタル場所ノ何レノ部分ニモ達シ得ル布管ヲ備ヘ之ヲ卷車ニ卷附ケ置クベシ

四 油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

五 各焚火場ニハ砂、曹達ヲ飽和シタル鋸屑又ハ管海官廳ノ適當ト認ムル乾燥物質二八三立方デシメートルヲ容レタル容器一箇及撒布用具ヲ備フベシ

六 各汽罐室及燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ携帶用泡消火器二箇ヲ備フベシ

七 各容器及之ヲ操作スル弁ハ近寄り易ク且火災ノ發生ニ依リ容易ニ遮ラレザル場所ニ之ヲ備置クベシ

第七十四條 發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備

ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ
- 二 油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ
- 三 機關室内ニ補汽罐ヲ有スル場合ニ於テハ適當ナル布管ヲ備フル容量一三六リツトルノ泡消火器一箇ヲ備フベシ
- 四 機關室内ニ補汽罐ヲ有セザル場合ニ於テハ容量四五リツトルノ移動式泡消火器一箇ヲ備フベシ
- 五 容量九リツトルノ携帯用泡消火器ヲ機關ノ軸馬力一千毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ備フベシ但シ其ノ總數ハ二箇ヨリ少カラザルコトヲ要シ六箇ヨリ多キコトヲ要セズ

第三章 旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ

航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第七十五條

沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ四箇、平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ二箇ノ消防手桶ヲ備フベシ消防手桶ハ常時水ヲ滿タシ消火ニ便利ナル場所ニ之ヲ備置

- 一 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ二箇、其ノ他ノ船舶ニハ一箇ノ携帯用液體消火器ヲ備フベシ但シ瓦斯發動機ヲ備フル船舶又ハ旅客船ニ非ザル沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

クベシ

第七十六條 總噸數百噸以上ノ旅客船ニ在リテハ蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備ヘ船内各部ニ射水シ得ル様

送水管及消防布管ヲ備フベシ

總噸數三百五十噸以上ノ旅客船ニ在リテハ第七十七條又ハ第七十八條ノ規定ニ依リ機關室ニ備フルモノノ外十分ナル數ノ携帯用液體消火器ヲ備フベシ

第七十七條 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左

ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 汽罐室ニハ動力「ポンプ」ノ送水管ヲ適當ノ位置ニ導キ布管ヲ容易ニ取附ケ得ル様裝置スベシ
- 二 蒸汽ヲ汽罐室ノ下部ニ噴出セシメ得ベキ多孔管ヲ備フベシ
- 三 汽罐室ニハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ
- 四 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ搖帶用液體消火器ヲ備フベシ

第七十八條 發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備

ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

第六編 電氣設備

第一章 總則

第一節 通則

第七十條 本編ノ規定ハ推進以外ノ用途ニ供スル電氣設備ニ之ヲ適用ス

第七十一條 供給電壓ハ直流ニ在リテハ五〇〇ヴォルト、交流ニ在リテハ二五〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

電氣扇、電熱器、小形電動機其ノ他之ニ類スル小形ノ電氣器具(以下單ニ小形電氣器具ト稱ス)及白熱電燈ニ供給スル電路ノ電壓ハ直流ニ在リテハ二五〇ヴォルト、交流ニ在リテハ一五〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

第七十二條 供給電壓ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ成ルベク百分ノ四ヲ超ユル變動ヲ生ゼシメザルモノト爲スベシ

第七十三條 電氣方式ハ左ノ各號ノ一ニ依ルコトヲ要ス

- 一 直流又ハ交流單相ノ二線式
- 二 直流又ハ交流單相ノ三線式
- 三 交流三相三線式
- 四 交流三相四線式

第七十四條 電氣設備ニ關シ本編ニ規定セザル事項ニ付テ

コトヲ要ス

第八十條 配電盤ノ各帶電部ハ之ヲ適當ニ離隔スルカ又ハ不燃性絶緣物ヲ以テ保護シ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル様設置スベシ

配電盤ニ取附クル器具及電線(電纜及管ニ藏メタル電線ヲ除ク)ハ容易ニ點檢シ得ル様之ヲ設置スベシ

第八十一條 主配電盤ニハ適當ナル計器ヲ備フベシ

第八十二條 開閉器、自働遮斷器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃性物ヲ以テ絶緣シタルモノナルコトヲ要ス

第八十三條 開閉器、自働遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第八十四條 機械及器具ハ船舶ノ動搖ニ依リ支障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第三節 電線、及附屬設備

第八十五條 絶緣電線ハ使用電流ニ因ル溫度上昇ノ爲絶緣物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第八十六條 電纜及鉛被電線ハ電氣工作物規程ニ定ムル第四種絶緣電線(以下單ニ第四種電線ト稱ス)ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

船舶設備規程

ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル船舶ノ種類、用途等ニ依リ本編ノ規定ニ依リ難キモノニ付亦同ジ

第二節 機械及器具

第七十五條 發電機、電動機等ハ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絶緣ガ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ニ依ル絶緣耐力試験ニ十分間以上耐フルコトヲ要ス

第七十六條 計器用變成器以外ノ變壓器ハ適當ノ絶緣耐力試験ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ其ノ最大使用電壓ガ第七十一條ノ電壓ヲ超ユルモノナルトキハ兩捲線ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲之ニ適當ナル安全裝置ヲ備フベシ

第七十七條 發電機、電動機、變壓器等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外易燃性瓦斯、酸性瓦斯又ハ油蒸氣ノ鬱積セザル通風良好ナル區畫内ノ水、蒸汽、油若ハ熱ニ因ル障害又ハ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ之ヲ設置スベシ

第七十八條 發電機、電動機等ノ鐵製ノ臺及變壓器ノ外面ハ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶緣性物ノ上ヨリ之ヲ取扱フ様設置シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條 配電盤ハ不燃性物ヲ以テ製作シタルモノナル

第八十七條 電路中必要ナル箇所ニハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スベシ

第八十八條 機械、器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自働遮斷器ヲ裝置スベシ

地線工事ノ接地線及多線式電路ノ中性線ニハ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第八十九條 電路中必要ナル箇所ニハ常ニ漏電ノ有無ヲ自働的ニ表示スル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第九十條 電路ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外其ノ全部ヲ十分大地ヨリ絶緣スベシ

第九十一條 電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ル

- 一 電線ノ電氣抵抗ヲ増加セシメザルコト
- 二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコト
- 三 接續管又ハ特殊ノ方法ニ依リ接續スル場合ヲ除クノ外接續部分ハ之ヲ鐵附スルコト

第二章 配線工事

第九十二條 配線ハ電纜、鉛被電線又ハ金屬製管、金屬製線樋若ハ木製線樋ニ藏メタル絶緣電線ナルコトヲ要ス

第九十三條 配線ハ徑一・六ミリメートル以上ノ軟銅線ナルコトヲ要ス但シ使用場所又ハ工事ノ方法ニ依リ適當ニ之

ヲ斟酌スルコトヲ得

第九十四條 電纜ノ金屬被覆及鉛被電線ノ鉛被ハ接地スルコトヲ要ス

第九十五條 他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニハ鎧裝電纜又ハ適當ナル保護裝置ヲ有スル鉛被電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第九十六條 木製線種ヲ用ウル配線工事ハ乾燥セル場所ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一 電線ハ第四種電線ナルコト

二 線種内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

三 線種ハ乾燥シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水性ノ塗料ヲ施スコト

第九十七條 金屬製管又ハ金屬製線種ヲ用ウル配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一 電線ハ第四種電線ナルコト

二 電線ハ撚線ナルコト但シ短小ナル管若ハ種内ニ藏ムルモノ又ハ徑ニミリメートル以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 管又ハ種ノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ依リ破損セザルモノナルコト

四 管又ハ種ハ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ種ニシテ

ハ燈毎ニ獨立ノ配線ト爲シ別箇ノ開閉器及自動遮斷器ニ依リ制御シ得ル裝置ト爲スベシ

前項ノ開閉器及自動遮斷器ハ航海船橋上ニ之ヲ集合設置スベシ又船燈ガ電球ノ織條ノ切斷其ノ他ノ原因ニ因リ滅シタル場合ニハ之ヲ自動的ニ表示スル設備ヲ爲スベシ

管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百二條 應急送電裝置ヲ要スル船舶ニ在リテハ應急送電路ハ主電源ヨリ應急電源ニ急速ニ切換ヘ得ル裝置ト爲スベシ

第三章 特殊場所ニ於ケル設備

第二百三條 濕氣アル場所又ハ雨露ニ暴露スル場所ニ設置スル電氣設備ニハ適當ナル防濕又ハ防水裝置ヲ施スベシ

第二百四條 石炭庫其ノ他塵埃アル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鎧裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 開閉器、自動遮斷器其ノ他ノ器具ハ適當ナル防塵裝置ヲ有スルモノナルコト

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

乾燥シタル場所ニ設置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五 管又ハ種ノ内部ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

六 鐵製ノ管又ハ種ハ酸化作用ヲ防止スル爲メ亞鉛鍍ヲ施スカ又ハ「エナメル」等ヲ以テ被覆スルコト

七 濕氣アル場所又ハ壁内ニ裝置スル管又ハ種ハ其ノ内部ニ濕氣ノ浸入スル事ヲ防グ爲メ接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第九十八條 電纜又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ嵌輪ヲ備フベシ

第四種電線ガ甲板、梁又ハ隔壁ヲ貫通スル部分ニハ絶縁性物ヲ備ヘ適當ニ之ヲ保護スベシ

第九十九條 電氣使用場所ニ於ケル電線ハ適當ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ノ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スベシ

前項ノ各分岐回路ヨリ更ニ分岐スル二線式電路ニ備フル開閉器及自動遮斷器ハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第二百條 汽機室及汽罐室内ノ配線ハ各獨立ノ分岐回路ト爲スベシ

第二百一條 檣燈、舷燈、兩色燈、三色燈及船尾等ニ對シテ

第二百五條 腐蝕性ノ瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル電氣設備ニハ瓦斯若ハ溶液ノ爲メ侵サレザル様適當ナル塗裝其ノ他ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二百六條 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ナル物質ヲ發生又ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鎧裝電纜又ハ金屬製線種若ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 自動遮斷器、開閉器、點滅器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ該場所内ニ設置セザルコト但シ堅牢ナル氣密函若ハ油中ニ藏ムルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

四 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ適當ナル保安裝置ヲ特ニ施シタルモノニ限リ之ヲ使用スルコト

六 電線ト機械又ハ器具トノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ因リ弛緩セザル様堅固ニ取附ケタルモノナルコト

第二百七條 磁氣羅針儀ニ接近スル電氣設備ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ボサザル様設置スルコトヲ要ス

附 則

第二百八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百九條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇鈎ハ

本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ其ノ容積ハ船舶検査規程ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノヲ以テ、其ノ定員ハ同規程ニ依リ算定シタルモノヲ以テ第五條又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ算定シタル容積及定員ト看做ス
前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百十條 國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノニ付テハ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚卸裝置、乗艇裝置並ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト實際上困難ナリト認ムルトキハ管海官廳ニ於テ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百十一條 本令施行ノ際沿海以下ノ航路定限ヲ有スル旅

第二百十五條 本令施行前製造シタル旅客船ノ舷橋又ハ柵欄ノ高サニ付ニハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十六條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第二百二十八條又ハ第三百三十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二百十七條 本令施行後一年以内ニ新ニ船舶ニ備附クル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限り之ヲ本令ノ規

客船ニ現ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ニ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第二百十二條 國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノヲ除キ本令施行前製造シタル船舶ニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ヲ備フルコト實際上困難ナリト認メタルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年以内ニ於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十三條 本令施行ノ際現ニ存スル旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

- 一 室ノ高サ、通路及梯子ノ幅並ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ
- 二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備
- 三 旅客定員ノ算定ニ用ウル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

第二百十四條 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザル者ノ居室ニ之ヲ準用ス

定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十八條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備ヘ又ハ前條ノ規定ニ依リ船舶ニ備ヘタル救命筏、救命浮器救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十九條 第四百十六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ昭和十二年九月十日ヲ限リ管海官廳ニ於テ其ノ備附ヲ猶豫スルコトヲ得

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限り仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

船舶機關規程

逓信省令第十號 改正(昭和十五年八月十七日)
昭和九年二月一日 逓信省令第四十五號

第一章 總 則

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗片

第二節 壓延鋼材

第三節 鍛 鋼 材

第四節 鑄 鋼 材

第五節 管

第六節 雜 則

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽 機

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第三節 水管汽罐及過熱器

第四節 汽罐附屬品

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第六節 給水裝置

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

第八節 管

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第十節 燃油裝置

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發 動 機

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第四節 氣 槽

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第六節 水壓試驗

第七節 補 汽 罐

第五章 特殊施設

第六章 艤裝品及備品

附 則

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ汽機又ハ發動機トハ特ニ規定スル場合チ

除クノ外推進軸系ニ連接スル汽機又ハ發動機ヲ謂フ

本令ニ於テ汽罐トハ補汽罐ヲモ包含ス

本令ニ於テ第一種螺旋軸トハ一體被金チ有スルカ又ハ之ト同等ノ耐蝕性ヲ有スル螺旋軸ヲ謂ヒ第二種螺旋軸トハ其ノ他ノ螺旋軸ヲ謂フ

適當ナル船尾管内潤滑油裝置ヲ備フル螺旋軸ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ第一種螺旋軸ト看做ス

第二條 船舶ノ推進機關ヲ分チテ甲種、乙種及丙種ノ三種トス

乙種機關ハ第一級船又ハ第二級汽船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

丙種機關ハ第一級船又ハ第二級船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三條 汽罐ニ付テハ第三章第二節又ハ第三節ノ規定ニ依リ算定シタル汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ以テ其ノ制限汽壓トス但シ該汽罐ニ連絡スル汽機、汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第四條 本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スベシ

本令ニ依ル材料試驗ニハ船用品試驗機取締規則ニ定ムル使用期間内ニ在ル材料試驗機ヲ用ウベシ

本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ノ規定ニ該當セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力チ有スト認ムルモノ又ハ機關ノ用途ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

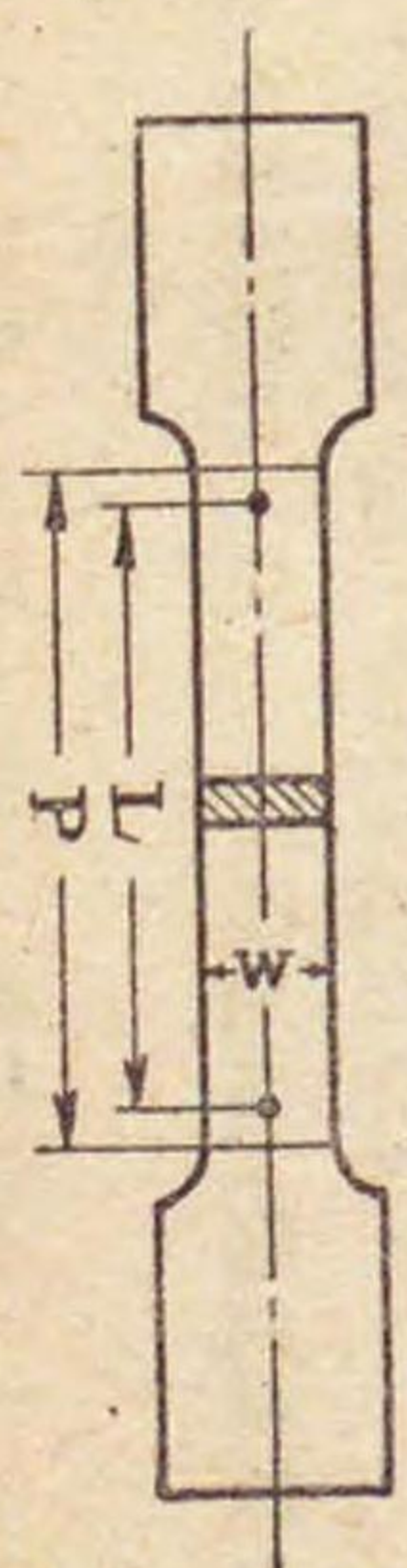
第六條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗 片

第七條 抗張試驗ニ用ウル標準試驗片ハ左ノ形狀及寸法ト爲スベシ但シ其ノ兩端ハ試驗機ニ應ジ之ニ適合スル形狀ニ仕上グルモノトス

一 第一號試驗片 主トシテ鋼板、平鋼及形鋼ニ對シテ用ウルモノ



標 點 距 離 L

二〇〇耗

平 行 部 ノ 長 サ P

約二二〇耗

幅 W 左表ニ依ル

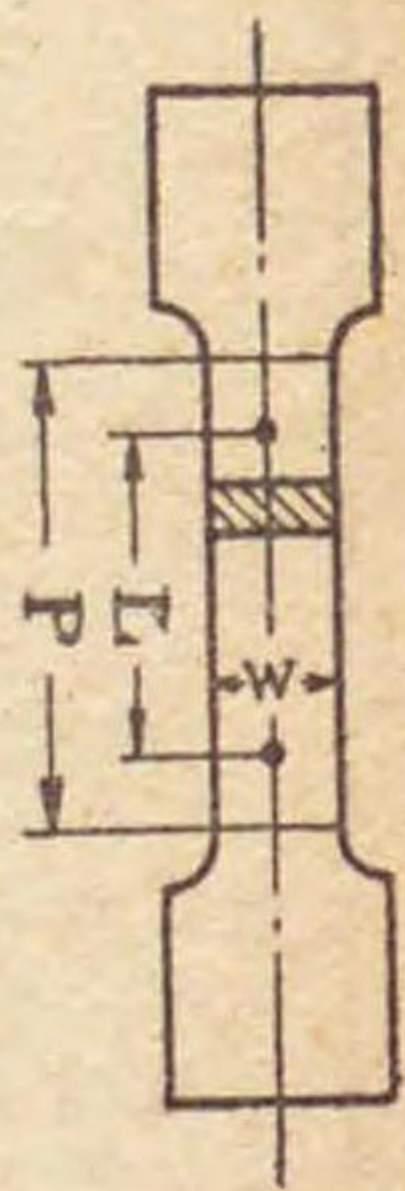
試験片ノ厚サ (耗)	試験片ノ幅W (耗)
二・三ヲ超ユルモノ	四〇以下
九以上二三以下	五〇以下
九未滿	六〇以下

二 第二號試驗片 主トシテ徑(又ハ對邊距離)二五耗以下ノ棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離Lハ徑(又ハ對邊距離)Dノ八倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サPハDノ約九倍
平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニ依リ之ヲ作成スルコトヲ得

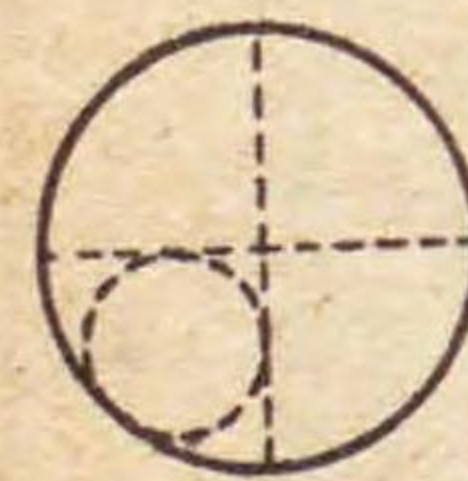
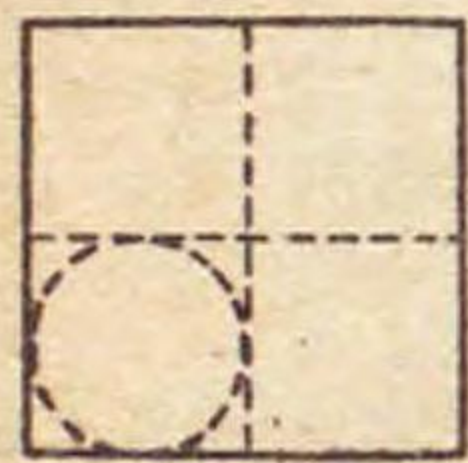
三 第三號試驗片 徑(又ハ對邊距離)二五耗ヲ超ユル棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離L 五〇耗
平行部ノ長サP 約七〇耗
幅 W 二五耗
厚 サ 原厚サノ儘トス

第八條 壓延鋼材ノ抗張試驗片ニハ成ルベク壓延肌ヲ殘スベシ

前項ノ規定ニ拘ラズ徑又ハ對邊距離六五耗以下ノ棒鋼ノ試驗片ニ付テハ適宜機械仕上ヲ爲シ又六五耗ヲ超ユル棒鋼ニ在リテハ左圖ニ於テ小圓ヲ以テ示ス位置ヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得
前項ニ依リ作成スル試驗片ノ徑ハ之ヲ一四耗以下ト爲スコトヲ得ズ



標點距離Lハ徑(又ハ對邊距離)Dノ四倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サPハDノ約四・五倍
平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニヨリ之ヲ作成スルコトヲ得

四 第四號試驗片 主トシテ鍛鋼材、鑄鋼材並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)棒ニ對シテ用ウルモノ



標點距離L 五〇耗
平行部ノ長サP 約六〇耗
徑 D 一四耗

材料ノ都合ニ依リ右ノ寸法ト爲シ得ザルトキハ左ノ算式ニ依リ標點距離ヲ定ムルコトヲ得

$$L = 4P / A$$

Lハ標點距離(耗ニテ)

Aハ横截面積(平方耗ニテ)

五 第五號試驗片 主トシテ管類並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)板ニ對シテ用ウルモノ

第九條 壓延鋼材ノ屈曲試驗片ノ幅、徑又ハ對邊距離ハ三五耗以上ナルコトヲ要ス但シ「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ヨリ採取セル試驗片ノ幅ハ三五耗未滿ナルモ妨ナク又徑又ハ對邊距離三五耗未滿ノ棒鋼ニ對シテ用ウル試驗片ハ壓延セル儘ノ材料ヲ使用スベシ

「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ニ在リテハ之ニ壓力ヲ加ヘ若ハ鋸打シテ扁平ト爲シタルモノヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得

壓延鋼材ノ屈曲試驗片ニハ左ノ加工以外ノ加工ヲ爲スコトヲ得ズ

一 剪斷ノ爲生ジタル稜角又ハ縁ノ不整ヲ鏤又ハ研磨機ニ依リ削除スルコト

二 厚サ二五耗以上ノモノニ付剪斷面ヲ機械仕上ト爲スコト

厚サ一二耗未滿ノ燒入屈曲試驗片ニハ前項各號ノ加工ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 鍛鋼材又ハ鑄鋼材ノ屈曲試驗片ハ幅二五耗厚サ一九耗ノ截面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五耗ノ丸味ヲ附シタルモノトス

第十一條 抗張試驗片及屈曲試驗片ノ數ハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ル

種類	抗張試験片ノ數	屈曲試験片ノ數
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ一箇但シ其ノ重量二・五超ユルトキハ其ノ兩端ヨリ各一箇	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ燒入屈曲試験片一箇但シ其ノ重量二・五超ユルトキハ其ノ兩端ヨリ各一箇
其ノ他ノ鋼板	同右	同右
形鋼、棒鋼又ハ鉄材	同一鋸鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇徑又ハ對邊距離四五五未滿ノ棒鋼若ハ鉄材ニ在リテハ右ノ一五箇ヲ五〇箇ト爲スコトヲ得 鋸鋼不明ナルトキハ同一種類ノ材料ヨリ管海官廳ノ適當ト認ムル數	同一鋸鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇及燒入屈曲試験片各一箇 鋸鋼不明ナルトキハ同一種類ノ材料ヨリ管海官廳ノ適當ト認ムル數
鍛鋼	鍛鋼材一箇毎ニ一箇但シ一箇ノ重量五〇〇匁未滿ニシテ同一鋼塊ヨリ鍛造シタル多數ノ鍛鋼材ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル數	同上
鑄鋼	二鋸鋼以上ヲ使用シ一箇ノ鑄鋼材ヲ鑄造スル場合ニ於テハ該鑄鋼材一箇毎ニ四箇一鋸鋼ヲ使用シ鑄造スル場合ニ於テハ鑄鋼材一箇毎ニ一箇但シ鑄鋼材ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル數	同上

第二節 壓延鋼材

第十五條 機關ノ重要部分ニ用ウル壓延鋼材ハ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造セラレ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第十六條 前條ノ壓延鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ同一ノ汽罐又ハ氣槽ニ於テ同一ノ用途ニ供スル鋼板又ハ縱支柱用棒鋼ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ每平方耗七匁ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 抗張試験 抗張力及標點間伸長百分率ハ左表ニ依ルコト

第十二條 壓延鋼材ノ試験片ハ鋼板ニ在リテハ横又ハ縦ノ向ヨリ形鋼又ハ棒鋼ニ在リテハ長サノ方向ヨリ之ヲ採取シ矯正ノ必要アルトキハ常溫ノ儘矯正スベシ

壓延鋼材ノ試験片ハ鋼材ト共ニスル場合ノ外之ニ燒鈍其ノ他ノ熱處理ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 鍛鋼材ノ試験片ハ鍛鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲シタル後其ノ主體ヨリ小ナラザル截面ヲ有スル部分ヨリ縱ニ切取ルモノトス但シ鍛鋼品ノ形狀又ハ用途ニ依リ横ニ切取ルモ妨ナシ

第十四條 鑄鋼材ノ試験片ハ之ヲ鑄鋼材ニ附著又ハ連結シテ鑄造シ鑄鋼材ト共ニ熱處理ヲ爲シタル後切取ルベシ

種類	類	抗張力(每平方耗匁)	標準抗張試験片	標點間伸長百分率
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板	第一號	四一以上五〇以下	第一號	厚サ九耗以上 二〇以上 厚サ九耗未滿 二〇以上
其ノ他ノ鋼板	第一號	四五以上五五以下	第一號	厚サ九耗以上 二〇以上 厚サ九耗未滿 一七以上
形鋼	第一號	四一以上五〇以下	第一號	厚サ九耗以上 二〇以上 厚サ九耗未滿 一九以上
鉄材	第二號	四一以上五〇以下	第二號	三〇以上
汽罐ノ燃燒室又ハ火爐ノ支柱用棒鋼	第二號	四一以上五〇以下	第二號	二八以上
其ノ他ノ棒鋼	第三號	四五以上五五以下	第三號	二〇以上 二四以上

二 屈曲試験 燒入屈曲試験ニ於テハ試験片ヲ濃紅色（日光ノ直射セザル室内ニ於テ判定スルモノニシテ約六五〇度）ニ熱シテ約二八度ノ水中ニ急冷シタル後常溫屈曲試験ニ於テハ常溫ノ儘試験片ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鏈打ニ依リ左表ノ内側半徑ニテ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

種類	内側半徑
鋼板	試験片ノ厚サノ一・五倍以内
形鋼	試験片ノ厚サノ一・五倍以内
棒鋼	試験片ノ徑又ハ對邊距離ノ一・五倍以内
鋸材	密著

三 縦壓試験 鋸材ニ在リテハ徑ノ二倍ニ等シキ長サヲ有スル試験片ヲ赤熱シタル儘原長ノ三分ノ一ニ至ル迄縦ノ方向ニ壓縮スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

第十七條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ試験ヲ無効トシ更ニ最初ニ試験片ヲ採取シタル鋼材ニ付再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験、屈曲試験又ハ縦壓試験ガ不合格ト爲リタルトキ

第二十一條

主機ノ軸、「ピストン」桿、十字頭、連接桿、推進軸系ノ軸類其ノ他強力ヲ重要トスル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ用途ニ應ジ日本標準規格ニ規定スル第三種、第四種又ハ第五種ノモノ又ハ此等ニ相當スルモノヲ用ヒ其ノ主體ハ其ノ積面積ヲ原鋼塊ノ平均積面積ノ四分ノ一以内ニ、主體以外ノ部分ハ其ノ積面積ヲ原鋼塊ノ平均積面積ノ三分ノ二以内ニ鍛鍊スベシ但シ一體型又ハ半組成型ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニ用ウル鍛鋼材ニ付テハ其ノ積面積ノ割合ハ二分ノ一以内トス

軸ノ鏝又ハ桿ノ鏝若ハ又端ハ之ヲ本體ト鍛合又ハ熔接スルコトヲ得ズ

前項ノ軸ノ鏝又ハ桿ノ鏝若ハ又端ガ組成型ナルトキハ十分ナル強力ヲ有スル鍛鋼製又ハ鑄鋼製ノモノト爲スベシ但シ乙種機關又ハ丙種機關ニ在リテハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ鍛鋼製又ハ鑄鋼製ニ非ザルモノト爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル補機ノ「クランク」軸ニ用ウル鍛鋼材ニ之ヲ準用ス

第二十二條 前條第一項ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ニシテ大サ又ハ形狀ニ依リ其ノ積面積ノ割合ガ前條第一項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ其ノ割合ハ管海官廳ノ適當ト認ム

ハ其ノ試験片一箇ニ付更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鋼材ハ總テ不合格トス

第十八條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋸ハ第十六條ノ規定ニ合格シタル鋸材ヨリ製造シ左ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

打展試験 頭部ヲ赤熱シテ脚部ノ徑ノ二・五倍迄扁平ニ打展スルモ其ノ縁ニ裂疵ヲ生ゼザルコト

前項ノ試験ニ用ウル鋸ノ數ハ同一徑ノモノノ重量四分ノ一匙又ハ其ノ端數毎ニ一箇トス

前條ノ規定ハ鋸ノ再試験ニ付之ヲ準用ス

第十九條 厚サ六耗未滿ノ壓延鋼材及抗張力ヲ重要トセザル部分ニ使用スル壓延鋼材ニハ抗張試験及燒入屈曲試験ヲ省略スルコトヲ得

第三節 鍛鋼材

第二十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鍛鋼材ハ平爐、坩堝爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヨリ鍛造シ品質均一ニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鍛鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

ル所ニ依ル

第二十三條

第二十一條ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗五五耗以上六〇耗未滿ナルコト、抗張力ガ每平方耗五五耗未滿ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上、抗張力ガ每平方耗五五耗以上ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ九〇以上ナルコト

二 屈曲試験 常溫ノ儘左表ニ掲グル内側半徑ヲ以テ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

抗張力 (每平方耗)	内側半徑 (耗)
四四以上五〇未滿	六以下
〇以上五五未滿	一〇以下
五五以上六〇未滿	一六以下

軸ノ計畫仕上徑二五〇耗以上ノ一體型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ノ「クランク」部ハ該鍛造物ノ成ルベク中心部ニ於テ互ニ直角ナル二方向ニ採取シタル試験片ニ付抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ左表ノ規格ニ適合スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

試験片採取方向	抗張力(每平方米耗距)	標點間伸長百分率	裂疵ヲ生ゼザルコトヲ要ス ル屈曲角度
軸ノ中心線ニ平行ナル方向	四二以上五三未滿	抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上	一八〇
「クランク」腕ノ中心線ニ平行ナル方向	五三以上五八未滿	抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ八九以上	一五〇

備考 屈曲試験ニ於ケル試験片ハ常溫ノ儘屈曲スルモノトシ其ノ屈曲ノ内側半徑ハ軸ノ中心線ニ平行ナル方向ノ抗張力ガ每平方米耗四八距未滿ノモノニ付テハ六耗以下、每平方米耗四八距以上五三距未滿ノモノニ付テハ一〇耗以下、每平方米耗五三距以上ノモノニ付テハ一六耗以下ト爲スベシ

鍛造ノ割合ニ關シ前條ノ規定ニ依リタル鍛鋼材ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二項ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニシテ鍛造ノ方法其ノ他ノ事由ニ因リ同項ノ規定ニ依リ難キモノハ第一項ノ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ得

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

第四節 鑄鋼材

第二十六條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ平爐、轉爐、電氣爐又ハ坩堝爐ニ依リ鑄造シ其ノ品質均一ニシテ有害ナル疵、鑄巢其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鑄鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

鑄鋼材ノ疵等ニシテ強力ニ對スル影響輕微ナリト認ムルモノニ付テハ管海官廳ハ鑄掛、電氣熔接又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ補修セシムルコトヲ得

前項ノ補修ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ補修後更ニ該鑄鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲サシム

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

第二十八條 前條ノ抗張試驗ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限り更ニ之ト同數ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ其ノ試験片ニ依リ代表セラルル鑄鋼材ハ之ヲ不合格トス
鑄鋼材ニハ再試験用試験片採取前更ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ既ニ合格シタル試験ニ付テモ更ニ試験ヲ行フコトヲ得

第五節 管

第二十九條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ良質ノ平爐鋼又ハ電爐鋼ヲ用キ常溫引拔法又ハ高溫仕上法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ鍛接合管又ハ銲接合管ナルモ妨ナシ
水管汽罐ノ水管ニ用ウル鋼管ニシテ外徑四〇耗未滿ノモノ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 管海官廳ハ材料規格ニ適合セザル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法若ハ箇所ヲ限り又ハ其ノ他ノ條件ヲ附シテ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽 機

第三十四條 汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十五條 軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ
一 往復動汽機ニ用ウル鍛鋼製ノ「クランク」軸、中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{\frac{APD^2Se}{36}}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)
D² ハ一推進軸系ニ於ケル低壓汽筒ノ數又ハ單式汽機ノ汽筒ノ數一箇ナルトキハ其ノ徑(耗ニテ)ノ二乗、二箇ナルトキハ各汽筒ノ徑(耗ニテ)ノ二乗ノ和
P ハ復水器ヲ備ヘザルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎ニテ)、復水器ヲ備フルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎ニテ)ニ一ヲ加ヘタルモノ

又ハ汽罐ノ給水管ニ用ウル鋼管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ常溫引拔法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ高溫仕上法ニ依リ製造シタルモノナルモ妨ナシ

常溫引拔無接合鋼管及鍛接合鋼管ハ製造後之ニ適當スル熱處理ヲ爲スベシ

第三十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ常溫引拔法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ每平方糎五以上ノ壓力ヲ受ケザルモノハ鑄鋼管ナルモ妨ナシ
每平方糎一二・五以上ノ壓力ヲ受クル外徑一三五耗以上ノ汽管ニハ鋼管ヲ用ウルコトヲ得ズ

第六節 雜 則

第三十一條 管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材又ハ鑄鐵材ニ付テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限り其ノ指示スル所ニ依リ材料試驗ヲ行フ

第三十二條 乙種機關又ハ丙種機關ニ用ウル材料ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得但シ軸ノ一部ニ用ウル鑄鋼材ノ材料試驗及制限汽壓每平方糎一〇糎ヲ超ユル汽罐若ハ高溫ノ受壓槽又ハ制限壓力每平方糎一四糎ヲ超ユル其ノ他ノ受壓槽ニ用ウル鋼板ノ屈曲試驗ニ付テ

S ハ行長(耗ニテ)

A ハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力軸ノ場合ニ在リテハ「クランク」軸ノ毎分計畫回轉數ト中間軸又ハ推力軸ノ毎分計畫回轉數トノ比

e ハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力軸ノ場合ニシテ「クランク」軸トノ間ニ動力傳導裝置若ハ變速裝置アルトキハ其ノ總傳導率、動力傳導裝置若ハ變速裝置ナルトキハ一
K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

往復動汽機ノ種類	「クランク」ノ數	「クランク」軸又ハ推力軸						
		甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸				
單式汽機	一	二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・四九	一・四二	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	一・三五
		二(「クランク」角一八〇度ノモノ)	一・三八	一・三一	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	一・二四
		二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・五五	一・四七	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	一・四〇
		二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・〇七	一・〇二	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・九七
二聯成汽機	三又ハ四	二(「クランク」角一八〇度ノモノ)	一・二〇	一・一四	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	一・〇八
		三又ハ四	一・〇三	〇・九八	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・九三
複二聯成汽機	四(「クランク」角一八〇度ノモノヲ九〇度ニ置キタルモノ)	〇・九四	〇・八九	〇・八九	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・八五
		〇・八八	〇・八四	〇・八四	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・八〇
三聯成汽機	三又ハ四	〇・八八	〇・八四	〇・八四	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・八〇
		〇・九〇	〇・八六	〇・八六	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・八二
廢汽「タービン」蒸汽壓縮機附三聯成汽機	三又ハ四	〇・八八	〇・八四	〇・八四	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・八〇
		〇・九〇	〇・八六	〇・八六	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・八二
四聯成汽機	四	〇・八六	〇・八二	〇・八二	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	中間軸	〇・七八

11 鋼製「クランク」腕ノ厚サ及幅
 組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

一體型「クランク」軸ナルトキ $bt^2 = 0.417d^3$
 t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)
 w ハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於

ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(耗ニテ)
 b ハ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)
 d ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)
 三 「タービン」汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)
 T ハ計畫軸馬力
 R ハ軸ノ計畫毎分回轉數
 K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	100	95	105	100

四 往復動汽機ト其ノ廢汽ニ依リ動作スル「タービン」汽機トテ同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

(耗ニテ)
 r ハ往復動汽機ノ計畫毎分回轉數
 K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

$$d = K \sqrt[3]{\frac{3}{975,000} \times \frac{T}{R} + 0.73 \times d^3 \times \frac{r}{R}}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)
 T ハ「タービン」汽機ノ計畫軸馬力
 R ハ當該推進軸系ノ計畫毎分回轉數
 dc ハ第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑

K	軸ノ種類ノ			
	中間軸	推力軸	中間軸	推力軸
100	100	105	100	100

五 鍛鋼製螺旋軸ノ徑

$$d_2 = d + \frac{P}{C}$$

ds ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

d ハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號、前號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

回轉力ノ變動チ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間軸ニ付テハ第一項第一號ノKノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

螺旋軸ハ前部軸鈔ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

推力軸ハ推力受臺ノ前部又ハ後部ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ

軸鈔ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鈔ヲ後退力ニ堪フル様適當ナル構造ト爲スベシ

第三十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ四倍未満ト爲スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管及軸支肘ノ「ブッシュ」ニ當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.0375 + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ(耗ニテ)

ds ハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第三十八條 甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機ニハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ、「タービン」汽機ニハ適當ノ箇所ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ該部ニ於ケル最大汽壓ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル様之ヲ調整スベシ

第三十九條 汽筒ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

種類ニ應ジ第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第三十六條 軸鈔ヲ連結スル螺釘ノ軸鈔連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$D = 0.75 \sqrt{\frac{D_1 P}{N}}$$

d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)

N ハ螺釘ノ數

d1 ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)

D ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ト回轉數ヲ異ニスル往復動汽機ノ「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中Dハ前條第一項第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乘ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸鈔ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鈔ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外汽機ノ種類ニ應ジ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鈔根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ

第四十條 多汽筒式「タービン」汽機一箇ノミヲ裝備シ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ該「タービン」汽機ノ汽筒

中其ノ一箇ニ對シ蒸汽ヲ遮斷スルモ推進器ヲ回轉シ得ル様適當ニ裝置スベシ

前項ノ「タービン」汽機ニ在リテハ少クモ二箇ノ汽筒ニ後退翼車ヲ備フベシ

第四十一條 汽筒又ハ之ニ附屬スル弁匣等ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ夫々左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ内外全面ヲ削仕上ゲタル内筒ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一 單式汽機ノ汽筒 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六疔以上ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疔ヲ加ヘタル壓力汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六疔未満ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 二聯成汽機

高壓汽筒 單式汽機ノ汽筒ニ同ジ

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓力

三 三聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疔ヲ加ヘタル壓力

中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・七五ヲ乘ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・三〇ヲ乗ジタル壓力
四 四聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタル壓力

第一中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓

第二中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乗ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・二五ヲ乗ジタル壓力

五 「タービン」汽機ノ汽筒 各膨脹階段ノ初壓力ノ一・五〇倍及每平方糎二疋ノ中大ナル壓力

六 高壓「タービン」汽機ノ配汽室 汽罐ノ制限汽壓ノ一・五〇倍ノ壓力但シ適當ナル逃田弁ヲ備フルモノハ配汽室內蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

七 中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室 該室內蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

八 收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋 其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第四十二條 復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ一二〇倍以上ナルトキハ一二〇倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ設クベシ

第四十三條 復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタルトキ每平方糎一・五疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

長徑一五〇糎ヲ超ユル人孔其ノ他ノ孔ヲ鏡板ニ設クルトキハ相當ノ強力ヲ有スル緣環又ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザル深サヲ有スル曲線ニ依リテ鏡板ヲ補強スベシ

$$h = \sqrt{t \times W}$$

h ハ孔ノ短徑部ニ於テ板ノ外面ヨリ測リタル曲線ノ深サ(糎ニテ)

t ハ板ノ厚サ(糎ニテ)

W ハ孔ノ短徑(糎ニテ)

第四十七條 人孔其ノ他ノ孔ニ用ウル押壓製ノ蓋ハ適當ナル熱處理ヲ爲シタルモノナルコトヲ要ス
孔蓋ト孔トノ間隙ハ孔ノ周ノ各點ニ於テ一・五糎ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十八條 胴板ノ縱接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質ノ板ヲ用キ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ
一 各列ノ銲數ガ同一ナル場合

$$t_o = \frac{5}{8} \times T$$

$$t = \frac{5}{8} \times T + 3$$

船舶機關規程

復水器管ヲ取附ケタルトキハ二米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ漏否試驗ヲ執行スベシ

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第四十四條 主トシテ張力ヲ受クル部分ハ鍛合又ハ別ニ定ムル所ニ依ルルノ外熔接スルコトヲ得ズ但シ鍛合部又ハ熔接部ニ覆板ヲ附シ適當ナル銲接合ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ
小ナル汽兜ノ胴板又ハ直立汽罐ノ又管ノ縱接合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得

第四十五條 工事ノ爲加熱シタル鋼板又ハ鋼製支柱ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ
二枚以上ノ鋼板ヲ銲接合スル場合ニ於テハ之ヲ銲締スル以前ニ於テモ此等ノ鋼板ガ充分密著スル状態ト爲シ且銲孔ハ成ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後鑽孔スベシ

第四十六條 胴板ニ設クル橢圓形ノ孔ハ短徑ヲ罐ノ長サニ平行セシムベシ
胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑ガ胴板ノ厚サノ二・五倍ニ七〇糎ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補強環ヲ附シ該部分ノ強率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル強率ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

二 外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

$$t_o = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)}$$

$$t = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)} + 3$$

T ハ接合スベキ胴板ノ厚サ(糎ニテ)

t_o ハ外覆板ノ厚サ(糎ニテ)

t ハ内覆板ノ厚サ(糎ニテ)

p ハ外列ニ於ケル銲ノ心距(糎ニテ)

d ハ銲孔ノ徑(糎ニテ)

第四十九條 端列ニ於ケル銲孔ノ中心ヨリ板端迄ノ距離ハ其ノ孔徑ノ一・五倍以上ナルコトヲ要ス
二列以上ノ銲接合ニ於ケル銲列間ノ距離ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ
一 各列ノ銲數ガ同一ナル場合

$$V_1 = 0.33 P + 0.67 d$$

$$V_1 = 2d$$

千鳥形銲接
合ナルトキ
二 外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲ノ數ノ半數ナル場合
千鳥形銲接 $V_1 = 0.2p + 1.15d$
合ナルトキ $V_1 = 0.165p + 0.67d$

$$\left. \begin{aligned} V &= 0.33p + 0.67d \\ V_1 &= 2d \\ V_2 &= 2d \end{aligned} \right\} \begin{array}{l} \text{中其ノ大} \\ \text{ナルモノ} \end{array}$$

V₁ハ銲數同一ナル各銲列ノ距離(耗ニテ)
 Vハ外列ト其ノ次ノ列トノ距離(耗ニテ)
 Pハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)
 dハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

第五十條 胴板ノ縱接合ニ於ケル銲ノ心距ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$P = C \times T + 40$$

Pハ銲ノ心距(耗ニテ)
 Tハ板ノ厚サ(耗ニテ)

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

於ケル銲數	Pナル心距ニ	累接合ナ	兩覆板衝接
一	一・三二	一・三二	一・七五
二	二・六二	二・六二	三・五〇
三	三・四七	三・四七	四・六三
四	四・一四	四・一四	五・五二
五	—	—	六・〇〇

aハ胴板ノ厚サ四五耗未滿ナルトキハ一・五、四五耗以上ナルトキハ零

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五耗未滿ナルトキ	五二・一
縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五耗以上ナルトキ	五〇・〇
縱接合ガ累接三列銲ナルトキ	五〇・五
縱接合ガ累接二列銲ナルトキ	四九・三
縱接合ガ累接一列銲ナルトキ	四三・三

縱接合ノ強率ハ左ノ各號ノ強率中最小ノモノトス

I 接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$J_1 = \frac{P-d}{P}$$

II 接合ニ於ケル銲ノ強率

$$J_2 = \frac{n \times d^2 \times k}{P \times T}$$

III 外列ノ銲ノ心距ガ其ノ他ノ列ノ銲ノ心距ノ二倍ナルトキノ銲及胴板ノ聯合強率

$$J_3 = \frac{P-2d}{P} + \frac{J_2}{n}$$

Tハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)

第五十一條 胴板ト鏡板トノ接合ハ接合強率ヲ〇・四二以上ト爲シ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ハ二以上ト爲スベシ

筒形汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ片面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ〇・六〇以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ二以上、三五耗ヲ超ユルトキハ三以上ト爲シ兩面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ〇・六二以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ一三耗ヲ超ユルトキハ二以上、三〇耗ヲ超ユルトキハ三以上ト爲スベシ

直立汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ接合強率ヲ〇・四二以上ト爲シ其ノ接合ガ全周ニ互ラザルトキ又ハ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ヲ二以上ト爲スベシ

第五十二條 胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{(T-a) \times S \times C \times J}{D}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)

Tハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)

Sハ胴板ノ最小抗張力(每平方糎ニテ)

Dハ胴ノ最大内徑(耗ニテ)

Jハ縱接合ノ強率ニシテ第二項ニ依リ定メタルモノ

aハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)

dハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

nハPナル心距ニ於ケル銲數

kハ兩覆板ヲ有スル場合ニ於テハ一・二一、其ノ他ノ場合ニ於テハ〇・六四

第四十四條第二項ニ依リ鍛合又ハ熔接シタル胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ管海官廳ノ定ムル所ニ依ル

四箇以上ノ螺旋支柱ノ取附孔ガ胴ノ中心線ニ平行又ハ略平行ニ配置セラルルトキハ孔ノ間隔ハ該支柱間ニ於ケル胴板ノ強率ガ縱接合ノ強率ヨリ小ナラザル様ニ定ムベシ

第五十三條 平板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

I 螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支ヘラレタル部分

$$P = C_1 \times \frac{(T-d)^2 + KW_2}{a^2 + D^2}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)

Tハ板ノ厚サ(耗ニテ)

aハ支柱各列中心線ノ距離(耗ニテ)

bハ各列ニ於ケル支柱心距(耗ニテ)

Wハ座金、條板又ハ二重張板ノ厚サ(耗ニテ)

Kハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ座金、條板又ハ二重張板

ヲ取附ケザルトキ又ハ板ニ固著セザル座金ヲ備フル場
合ニ於テ其ノ厚サ又ハ徑ガ表ニ掲グル寸法ニ適合セザ

ルトキハ零

厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ徑ノ 三・五倍以上ノ座金ヲ外面ニ備フルトキ	〇・一五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ心距 ノ〇・六六倍以上ノ座金ヲ板ニ固著シタルトキ	〇・三五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍幅ハ支柱ノ心距 ノ〇・六六倍以上ノ條板ヲ板ニ固著シタルトキ	〇・五五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍ナル二重張板ヲ板ニ固著シタルトキ	〇・八五

C₁ハ定數ニシテ左表ニ依ル

支 點 ノ 種 類	板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケ ザルモノナルトキ	板ガ火焰ノ接觸ヲ受ク ルモノナルトキ
支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ絞縮シタルトキ	四二〇〇	三七一〇
支柱ヲ板ニ振込ミ外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	六三一〇	五五二〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	七〇〇〇	六一五〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ニハ座金、條板又ハ二重張板ヲ當テ内 外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	七三六〇	六四五〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ	—	三八二〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲 シタルトキ	—	五二八〇

二 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢相互間又ハ焰
管巢ト胴板トノ間ノ部分

$$P = C_2 \times \frac{(T-1)^2 + Kw^2}{a^2 + D^2}$$

P 及 T ハ前號ニ同ジ

- a ハ管支柱ノ水平心距(耗ニテ)
- b ハ管支柱ノ縱心距(耗ニテ)
- w ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚サ(耗ニテ)
- k ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ 〇・五五、之ヲ取附ケ
ザルトキハ零

C₂ハ定數ニシテ左表ニ依ル

端列ノ管支柱ノ外端ヲ母螺 締ト爲サザルトキ	三八二〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ一箇 置ニ母螺締ト爲シタルトキ	四六三〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ總テ 母螺締ト爲シタルトキ	五二八〇

三 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢ニ於ケル部分

$$P = C_3 \times \frac{(T-1)^2}{P_2}$$

P 及 T ハ第一號ニ同ジ

P ハ當該部分ニ於ケル四箇ノ管支柱ノ中心點ノ構成スル
四邊形ノ四邊ノ平均ノ長サ(耗ニテ)

C₃ハ定數ニシテ左表ニ依ル

管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ 端ヲ擴張シ緊著シタルトキ	一一八〇〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張 シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	三六〇〇

前項ノ算式ヲ適用スルニ當リ當該部分ニ於ケル支點ノ種類
ガ同一ナラザルトキハ定數 C₁・C₂・C₃ 及 R ハ各種類ノ支
點ノ數ニ之ニ對スル定數ヲ乘ジタルモノノ和ヲ支點ノ總數
ニテ除シタルモノトス

- ノ規定ヲ支點ノ配置不規則ナル部分又ハ曲線シタル
板ノ曲線ニ近キ部分ニ適用スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ル
 - 一 曲線ノ彎曲起點ハ之ヲ支點ト看做シ其ノ彎曲内半徑ガ
板ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ曲線ノ外面ヨリ板
ノ厚サノ三・五倍ノ距離ノ點ヲ彎曲起點ト看做ス
 - 二 少クトモ三支點ヲ通り内部ニ支點ヲ有セザル最大圓ノ
徑ヲトシ第一項ノ算式中 a²+D²ノ代リニ R²ヲ用ウ
 - 三 曲線ノ彎曲起點ガ支點ナル場合ノ定數 C₁ハ板ガ火焰
ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキハ八〇六〇板ガ火焰ノ接
觸ヲ受ケルモノナルトキハ七〇四〇トス
- 第五十四條 支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ絞縮スル場合ニ於ケ
ル板ノ厚サハ支柱ノ螺糸底ニ於ケル徑ノ二分ノ一ヨリ小ナ

ルコトヲ得ズ

燃焼室ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ最モ近キ支柱列ト後管板又ハ背板ノ曲線ノ彎曲部起點トノ距離ハ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ前條第一項第一號ノ算式ニ用キ算定シタルaヨリ大ナルコトヲ得ズ
燃焼室ノ頂板ヲ側板ト接合スル爲ノ彎曲部ノ彎曲外半径ガ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ第五十七條ノ算式ニ用キ算定シタル支梁ノ心距Dノ二分ノ一ヨリ小ナルトキハ側板ノ内面ト之ニ最モ近キ支梁ノ中心トノ距離ハDヨリ大ナルコトヲ得ズ又右ノ彎曲外半径ガDノ二分ノ一ヨリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ彎曲起點迄測リタル平坦部ノ幅ハDノ二分ノ一ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第五十五條 焰管巢ヲ形成スル焰管ガ水平ナル直立汽罐ノ管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P = \frac{492 \times (T-15) \times S \times (p-d)}{D \times p}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎珎ニテ)
- T ハ管板ノ厚サ(糎ニテ)
- S ハ管板ノ抗張力(每平方糎珎ニテ)

d ハ支梁中央部ノ深サ(糎ニテ)
T ハ支梁ノ厚サ但シニ板合セ支梁ナルトキハ各板ノ厚サノ和(糎ニテ)

- L ハ燃焼室上部ノ内側ニ於テ測リタル奥行(糎ニテ)
- p ハ支梁ノ支フル支柱ノ心距(糎ニテ)
- D ハ支梁ノ心距(糎ニテ)
- S ハ支梁ニ用ウル鋼材ノ最小抗張力(每平方糎珎ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

各支梁ノ支フル支柱ノ數	$\frac{p}{p+1} \times 25.3$
ガ奇數ナルトキ	$\frac{p+1}{p+1} \times 25.3$
各支梁ノ支フル支柱ノ數	$\frac{p+1}{p+2} \times 25.3$
ガ偶數ナルトキ	$\frac{p+2}{p+2} \times 25.3$

第五十八條 燃焼室ノ筒形底部ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザル部分ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times (325(T-1)-11)}{D}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎珎ニテ)
- T ハ燃焼室底部ノ鋼板ノ厚サ(糎ニテ)
- D ハ燃焼室底部ノ外徑(糎ニテ)

D ハ胴ノ中心線ヨリ管板ノ縱端列ノ管嵌孔ノ中心迄ノ距離ノ二倍(糎ニテ)

p ハ管ノ縱心距(糎ニテ)
d ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑(糎ニテ)
前項ノ管板ノ縱端列ニ於ケル管ハ少クトモ一箇置ニ管支柱ト爲スベシ

第五十六條 筒形汽罐ノ後管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P = \frac{2400D-d}{W \times D} T$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎珎ニテ)
- T ハ管板ノ厚サ(糎ニテ)
- D ハ焰管ノ水平心距(糎ニテ)
- d ハ普通焰管ニ對スル管孔ノ徑(糎ニテ)
- W ハ燃焼室上部ノ奥行(糎ニテ)

第五十七條 燃焼室ノ頂板ヲ支フル鋼製支梁ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times d^2 \times T \times S}{(L-p) \times D \times D}$$

P ハ制限汽壓(每平方糎珎ニテ)

L ハ燃焼室底部ノ奥行ニシテ該部ヲ形成スル鋼板ヲ他ノ鋼板ト銲接合スル銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ(糎ニテ)
C 及 C₁ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

縱接合ノ種類	C	C ₁
銲 合	107,000	33,511
銲 接 合	96,000	33,166

第五十九條 筒形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times (325(T-1)-11)}{D}$$

- P, C 及 C₁ ハ前條ニ同ジ
- T ハ火爐鋼板ノ厚サ(糎ニテ)
- D ハ火爐ノ外徑(糎ニテ)
- L ハ火爐ノ長サニシテ火爐鋼板ヲ曲線ト爲シ板、補強環等ト接合スル場合ニ於テハ曲線ノ彎曲起點ヨリ又火爐鋼板ヲ他ノ鋼板ノ曲線ト銲接合スル場合ニ於テハ銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ(糎ニテ)

第六十條 皺形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C(T-1)}{D}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)
- T ハ火爐ノ皺形部ニ於ケル鋼板ノ最小厚サ(耗ニテ)
- D ハ火爐ノ皺形部ニ於ケル最小外徑(耗ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

火 爐 ノ 種 類	C
「モリソン」式、「デイトン」式又ハ之ニ類スルモノ	一〇九〇
「リーズ、フオージ、バルブ」式又ハ之ニ類スルモノ	一一六〇

第六十一條 支柱又ハ其ノ他ニ依リ補強セラレザル半球狀火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{627(T-1)}{R}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)
- T ハ火爐鋼板ノ厚サ(耗ニテ)
- R ハ火爐ノ球面外半徑(耗ニテ)

第六十二條 截頭圓錐形直立火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ

d ハ火爐底部ノ外徑ニシテ「オジー」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ(耗ニテ)

第六十四條 火爐板ノ厚サハ二一耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六十五條 胴ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有シ外方ニ突出スル球面狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{21.6 \times S \times (T-1)}{R}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)
 - T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
 - R ハ鏡板ノ球面内半徑(耗ニテ)
 - S ハ鏡板ノ抗張力(每平方糎斤ニテ)
- 前項ノ鏡板ニ在リテハ其ノ周圍ノ曲線部ニ於ケル曲線ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未満ナルコトヲ得ズ

第六十六條 二枚以上ノ板ヨリ成リ外方ニ突出スル半球狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1.5) \times S \times J}{R}$$

左ノ記號ヲ用キ第五十九條ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

D ハ火爐板ト頂板トノ接合部ノ中心線ニ於テ測リタル外徑ト火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所ニ於テ測リタル外徑トノ平均(耗ニテ)

L ハ火爐板ト頂板トノ接合部ノ中心線ヨリ火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所迄ノ距離(耗ニテ)

火爐底部ト胴板トヲ螺旋支柱列ニ依リ連結シタル場合ニ於テ螺旋支柱ノ心距ガ其ノ端ヲ絞縮シタルモノニ在リテハ火爐板ノ厚サノ一四倍ヲ、母螺締ト爲シタルモノニ在リテハ一六倍ヲ超ユルコトナク且螺旋支柱ノ螺系上ノ徑ガ火爐板ノ厚サノ二・二五倍以上ナルトキハ前項ノLハ螺旋支柱列ノ中心迄測ルコトヲ得

第六十三條 直立汽機ノ火爐底部ト胴板トヲ接合スル「オジー」環ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{10,300(T-1)^2}{D \times (D-d)}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)
- T ハ「オジー」環ノ厚サ(耗ニテ)
- D ハ胴ノ内徑(耗ニテ)

P ハ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)

S ハ鏡板ノ最小抗張力(每平方糎斤ニテ)

J ハ第五十二條第二項ノ規定ヲ準用シ算定シタル鏡板相互ノ接合強率

互ノ接合強率

R ハ鏡板ノ球面内半徑(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

鏡板相互ノ接合ガ一列鋸ナルトキ	四三・三
鏡板相互ノ接合ガ二列鋸ナルトキ	四九・三
鏡板相互ノ接合ガ三列鋸ナルトキ	五〇・三

第六十七條 螺旋支柱又ハ縱支柱ノ螺系底又ハ其ノ他ノ部分ニ於ケル最小ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C \sqrt{\frac{PA}{t \cdot S}}$$

- d ハ螺旋支柱又ハ縱支柱ノ最小ノ徑(耗ニテ)
- P ハ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)
- A ハ平板中該支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方糎斤)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

螺旋支柱ナルトキ
縦支柱ナルトキ

〇・四四
〇・四〇

前項ノ算式ヲ斜向支柱ニ適用スル場合ニ於テハ算式中ノC
ノ代リニ左ノC'ヲ用ウベシ

$$C' = C \times \sqrt{\frac{L}{H}}$$

C ハ前項ニ同ジ

L ハ斜向支柱ノ長さ(耗ニテ)

H ハ斜向支柱ノ一端ニ於ケル平板ヨリ他端迄ノ距離(耗
ニテ)

燃焼室ノ内側ニ於ケル螺旋支柱ノ母螺ノ高サハ該螺旋支柱
ノ螺糸部ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第六十八條 管板ヲ支持スベキ管支柱ノ強力ニ對スル制限汽
壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{527.2a}{A}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎ニテ)

a ハ管支柱ノ最小横截實面積(平方糎ニテ)

A ハ管板中該管支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方糎
ニテ)

第七十一條 水管汽罐ノ構造ハ本節ニ特ニ規定シタルモノノ
外前節ノ規定ニ依ルベシ

第七十二條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ縦接合ハ胴ノ縦接合
部ニ於ケル内徑ガ該接合部ニ於ケル胴板ノ厚サノ一〇〇倍

未滿ナルトキハ累接ト爲スコトナク該部ノ横截内面ヲ圓形
ナラシムベシ

第七十三條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ一部ヲ成ス管板ノ強
力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{47.2 \times S \times (T-3)}{D} \times \frac{p-d}{p}$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎ニテ)

D ハ胴ノ内徑(耗ニテ)

T ハ管板ノ厚サ(耗ニテ)

S ハ管板ノ抗張力(毎平方糎ニテ)

p ハ胴ノ中心線ニ平行ニ測リタル管孔ノ心距(耗ニテ)

d ハ管孔ノ徑(耗ニテ)

管板ノ厚サハ胴板又ハ鏡板ト接合スル部分ニ於テハ第五十
二條ノ規定ニ依ル胴板ノ強力ニ相當スル厚サ迄之ヲ減ズル
コトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ厚サノ急激ナル變化ヲ避ケ
且其ノ部分ヲ機械仕上ト爲スベシ

第七十四條 水管汽罐ノ胴、管寄等ニ設クル管孔ハ管ヲ緊密

船舶機關規程

管支柱ノ厚サハ管支柱ガ焰管巢ノ外周列ニ在ルモノナルト
キハ六・〇耗以上、其ノ他ノモノナルトキハ四・五耗以上ナ
ルコトヲ要ス

管支柱ハ兩管板ニ振込ミタル上之ヲ適當ニ擴張シ緊著スベ
シ

管支柱ノ燃焼室端ニハ母螺ヲ附スベカラズ

第六十九條 前二條ノ支柱ノ螺糸ハ成ルベク左表ニ依ルベシ

支柱ノ種類	螺	距(耗)
螺旋支柱	二・〇以上	三・〇以下
縱支柱	四・〇以上	六・五以下
管支柱	二・五以上	三・五以下

第七十條 焰管ノ厚サハ成ルベク左ノ算式ニ依リ算定シタル
モノヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

$$T = \frac{PD}{700} + 2$$

T ハ焰管ノ厚サ(耗ニテ)

D ハ焰管ノ外徑(耗ニテ)

P ハ制限汽壓(毎平方糎ニテ)

第三節 水管汽罐及過熱器

ニ取附ケ得ルモノト爲スベシ

管孔ヲ其ノ中心線ガ管孔ニ垂直ナル様穿ツトキハ孔ノ管座
ノ深サチ一〇耗以上ト爲シ斜ニ穿ツトキハ孔ノ管座ノ直圓
筒部ノ深サチ一三耗以上ト爲スベシ

第七十五條 水管汽罐ノ水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ
算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{1.400(T-a)}{D} - 1.38$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎ニテ)

T ハ水管ノ厚サ(耗ニテ)

D ハ水管ノ外徑(耗ニテ)

a ハ定數ニシテ左表ニ依ル

火焔若ハ高熱瓦斯ノ通路ニ直面スル管 巢端列又ハ其ノ次ノ列ノ管ナルトキ	二・〇
其ノ他ノ管ナルトキ	一・五

水管ノ厚サハ八耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

水管ハ總テ擴張其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ管板ニ緊
密ニ取附ケ管端ハ管座ヨリ六耗以上突出セシムベシ

水管ハ脱出セザル様其ノ兩端ヲ固定スベシ單ニ其ノ端部ヲ
喇叭形ニ擴張シテ固定シタル場合ニ於テハ端部ノ外徑ハ左
ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

D = 1.03d + 1.5

D ハ水管端部ノ外径(耗ニテ)
d ハ水管ノ外径(耗ニテ)

第七十六條 管寄其ノ他之ニ類似ノモノノ管ヲ取附ケザル平面部ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = C \times \left(\frac{T - 2.5}{R} \right)^2$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎ニテ)
T ハ平面部ノ厚サ(耗ニテ)
B ハ内側支點間ニ於テ測リタル平面部ノ幅(耗ニテ)
C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

鍛鋼ナルトキ	五八三〇
鑄鋼ナルトキ	四六〇〇

管寄ノ管ヲ取附クル平面部ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.47 \sqrt{d + 65}$$

T ハ平面部ノ厚サ(耗ニテ)
d ハ管孔ノ徑(耗ニテ)

過熱器ノ管寄其ノ他火焰ノ放射熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ

先驅弁ヲ有スル安全弁又ハ高揚程型安全弁ニシテ管海官廳適當ト認ムルモノニ付テハ其ノ合計面積ヲ前項ノ規定ニ依リ算定シタルモノノ二分ノ一迄減ズルコトヲ得

$$A = K \times \frac{H}{P - 1}$$

A ハ安全弁ノ合計面積(平方糎ニテ)
H ハ汽罐ノ受熱面積(平方米ニテ)ニシテ一面ガ火焰又ハ

筒形汽罐又ハ直立汽罐	機關室密閉式強壓通風ヲ使用セズシテ石炭ノミヲ手焚スルモノ	六・一
	其ノ他ノモノ	七・三
水管汽罐	自然通風ニ依リ石炭ノミヲ手焚スルモノ	五・三
	其ノ他ノモノ	六・一

汽罐ノ制限汽壓ヲ低下シタル爲安全弁ノ面積ガ前項ノ規定ニ適合セザルモノト爲リタル場合ニ於テ安全弁ガ第八十條第二項ノ規定ニ適合スルモノナルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第七十九條 安全弁ノ弁匣ハ汽罐ニ直接取附ケ他ノ弁ニ共用スルコトヲ得ズ
安全弁ノ弁匣ノ蒸汽進入路ノ橫截面積ハ安全弁ノ合計面積

衝擊ヲ受ケ且使用中内部ニ蒸汽ノミヲ有スル管寄ノ厚サハ前二項ニ依リ算定シタルモノノ一・一二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ
管寄ノ視孔部ハ蓋ヲ有效ニ取附ケ得ル様機械仕上下爲スベシ此ノ場合該部分ノ厚サハ第一項ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ二・五耗ヲ減ズルコトヲ得但シ八耗未滿ト爲スコトヲ得ズ
視孔ノ蓋ハ堅牢ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返スモ安全ヲ害スル虞ナキコトヲ要シ蓋ノ螺釘ニ依リ取附クル構造ト爲ストキハ該取附螺釘ノ折損シタル場合ニ於テモ危險ナキモノト爲スベシ

第四節 汽罐附屬品

第七十七條 汽罐ニ接續スル管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ接近シ易キ箇所ニ弁又ハ「ロック」ヲ備フベシ

第七十八條 汽罐ニハ徑四〇耗以上ノ發條式安全弁二箇以上ヲ備ヘ汽罐ノ制限汽壓毎平方糎二〇珎以下ナルトキハ其ノ合計面積ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ但シ安全弁ハ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ガ一九・五平方糎未滿ナルトキハ徑五〇耗以上ノモノ一箇、一二・五平方糎未滿ナルトキハ徑四〇耗以上ノモノ一箇ト爲スコトヲ得

燃焼瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焰又ハ燃焼瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ハ之ヲ除外シ且焰管ハ外徑ヲ基トシテ算定シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ハ之ヲ除外スルモノトス
P ハ汽罐ノ制限汽壓(毎平方糎ニテ)
K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

ノ二分ノ一以上ト爲シ廢汽路及廢汽管ノ橫截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ一・一倍以上ト爲スベシ
廢汽路ニハ適當ナル排水裝置ヲ設ケ之ヲ溢水溜其ノ他適當ナル箇所ニ導クベシ
安全弁ニハ弁ヲ同時ニ開キ得ル揚弁裝置ヲ設ケ其ノ把手ハ之ヲ近寄り易キ安全ナル位置ニ導クベシ
安全弁發條ハ汽罐ノ制限汽壓ニ相當スル壓力ヲ加ヘタルト

キ其ノ長サガ弁徑ノ四分ノ一以上短縮シ更ニ之ヲ弁徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノナルコトヲ要ス

第八十條 安全弁ハ汽罐ノ制限汽壓ノ一・〇三倍以下ノ壓力ニ於テ自然ニ噴汽スル様調整スベシ

安全弁ハ塞汽罐ヲ閉テ充分ニ焚火シ水管汽罐ニ在リテハ數分間、其ノ他ノ汽罐ニ在リテハ一五分間以上噴汽セシムルモ汽壓ノ昇騰尙汽罐ノ制限汽壓ノ十分ノ一ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ汽罐ニ適當ナル水準ヲ維

持セシムルニ必要ナル程度ヲ超エ給水ヲ爲スコトヲ得ズ

第八十一條 蒸汽過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置アルトキハ蒸汽過熱器ニ適當ナル逃田弁ヲ備ヘ之ヲ容易ニ操縦シ得ル揚弁裝置ヲ設クベシ

第八十二條 汽罐ニハ左表ニ依リ罐内ノ水準面ヲ容易ニ知り得ベキ裝置ヲ互ニ近接セザル位置ニ備ヘ且筒形汽罐及直立汽罐ニハ燃燒室頂部ノ高サヲ適當ニ標示スベシ

汽罐ノ種類	裝置ノ種類及數	摘	要
直立汽罐	硝子示面計一箇及驗面「コック」一組	徑五米未満ノ汽罐ニ在リテハ中一箇ヲ驗面「コック」一組ヲ以テ代用スルコトヲ得	
筒形片面汽罐	硝子示面計二箇	硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケルト反對ノ位置ニ取附クベシ	
筒形兩面汽罐	硝子示面計二箇及驗面「コック」二組	硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケルト反對ノ位置ニ取附クベシ	
水管汽罐	硝子示面計二箇	長サ四米ヲ超ユル胴ヲ船體ニ對シ横ニ配置シタル場合ニ於テハ胴ノ兩端ニ近ク取附クベシ	

前項ノ驗面「コック」ハ三箇ヲ以テ一組ト爲スベシ但シ徑二・五米未満ノ筒形汽罐ハ高サ二・五米未満ノ直立汽罐ニ在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得

硝子示面計及驗面「コック」ハ成ルベク之ヲ汽罐ニ直接取附ケ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ適當ナル内徑及強力ヲ有

スル筒ニ取附クベシ

前項ノ筒ハ成ルベク汽罐ニ近接シテ固定スルコトヲ要シ筒ヲ導管ニ依リ汽罐ニ連絡セシムル場合ニ於テハ筒ノ位置ガ不慮ニ變動セザル様取附ケ汽側ノ導管ハ凝結水ノ滯溜セザルモノト爲スベシ

第八十三條 汽罐ニハ焚口面ノ見易キ位置ニ壓力計一箇ヲ備フベシ焚口ガ汽罐ノ兩面ニ在ル場合ニ於テハ各焚口面ニ之ヲ備フベシ

第八十四條 汽罐ニハ正副二組ノ給水制限弁ヲ備フベシ

第八十五條 汽罐ニハ適當ノ位置ニ檢鹽弁又ハ檢鹽「コック」ヲ備フベシ但シ湖沼ノミヲ航行スル船舶ノ汽罐ニ在リテハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

第八十六條 汽罐ノ放水弁又ハ放水「コック」ヨリ船外ニ通ズル放水管ハ内徑二〇耗以上ナルコトヲ要ス二箇以上ノ汽罐ヲ備フル船舶ニ在リテ各汽罐ノ放水管ヲ一箇ノ共通管ニ接続セシムル場合ニ於テハ振締不還弁ニ依リ各汽罐ノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置ト爲スベシ

第九十二條 主汽罐ノ給水裝置ハ正給水裝置及副給水裝置ヨリ成リ各裝置ハ汽機ヲ全力ニ於テ運轉スル場合ニ必要ナル給水能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第九十三條 正給水裝置ノ「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セララルモノナルトキハ該「ポンプ」ハ發條逃田弁ヲ備ヘタルモノニシテ其ノ數ハ二箇トシ各「ポンプ」ハ必要ナル全給水ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ルモノト爲スベシ但シ長サ五〇米未満ノ船舶ノ機關ニ在リテハ正給水裝置ノ「ポンプ」ヲ一箇ト爲スコトヲ得

第九十四條 二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ於テ前項ノ給水「ポンプ」ヲ各主機ニ一箇宛配置シタルトキハ各「ポンプ」ガ雙方ノ溫水溜ヨリ吸水シ得ル様裝置スベシ

正給水裝置ノ「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セララルモノナルトキハ之ニ自働調整裝置ヲ備フベシ長サ三〇米以上

第九十五條 汽罐ハ移動セザル様之ヲ船體ニ据附クベシ

第九十六條 汽罐ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ノ周圍ニハ相當ノ空積ヲ存スベシ

第九十七條 汽罐ハ之ヲ製造シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疇以下ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疇ヲ超ユルトキハ其ノ一

第六節 給水裝置

五倍ニ每平方糎三・五疇ヲ加ヘタル壓力

第九十條 蒸汽過熱器ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十一條 汽罐ニ取附クル弁「コック」、第八十二條末項ノ導管又ハ筒ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

ノ船舶ニシテ前項ノ「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ第九十四條ノ副給水装置ノ「ポンプ」ニ自働調整装置ヲ備フベシ

第九十四條

副給水装置ノ「ポンプ」ハ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノニシテ温水溜及清水槽ヨリ吸水シ得ルモノナルコトヲ要ス但シ受熱面積二〇平方米未満ノ汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得
給水「ポンプ」ノ吸水管中醸汽ノ際汽罐内ノ水ヲ循環セシムル爲汽罐ノ底部ヨリ吸水スル管ハ之ヲ他ノ吸水管ト別箇ノモノト爲スベシ

ベシ但シ受熱面積二〇平方米未満ノ補汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第七節

排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル装置

第九十六條

排水装置ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外木船ニ在リテハ木船構造規程第二十二章、鋼船ニ在リテハ鋼船構造規程第二十三章、國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶區畫規程第十二章ノ規定ニ依ル

第九十七條

浚水「ポンプ」ハ船舶ノ長サニ應ジ左表ニ依リ之ヲ備フベシ

第九十五條

補汽罐ニハ適當ナル正副二重ノ給水装置ヲ備フ

船ノ長サ (米)	主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ノ數	獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ノ數	手動「ポンプ」ノ數	摘要
二五未満	一	一	一	管海官應差支ナシト認ムル場合ニ限り旅客船ニ非ザル長サ二五米未満ノ船舶ニ在リテハ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ヲ省略シ又長サ一〇米未満ノ船舶ニ在リテハ浚水及桶一箇ヲ以テ「ポンプ」ニ代フルコトヲ得
二五以上五〇未満	二	一	一	管海官應差支ナシト認ムル場合ニ付獨立動力「ポンプ」ノ備附ガ實際ニ困難ナリト認ムルトキハ他ノ「ポンプ」ノ能力其ノ他ヲ考慮シ其ノ備附ヲ省略セシムルコトヲ得
五〇以上一〇〇未満	二	一	一	
一〇〇以上	二	二	一	

前項ノ浚水「ポンプ」ハ夫夫動力「ポンプ」ヲ以テ手動「ポンプ」ニ、獨立動力「ポンプ」一箇ヲ以テ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」二箇ニ代フルコトヲ得
雜用「ポンプ」、脚荷水「ポンプ」、衛生ポンプ等ニシテ浚水排出ノ目的ニ對シ適當ニ裝置セラレタルモノナルトキハ之ヲ第一項ノ浚水「ポンプ」ト看做スコトヲ得
獨立動力浚水「ポンプ」中一箇ハ呼水ヲ要セズシテ即時使用シ得ルモノト爲スベシ

第九十八條

浚水吸引主管ノ内徑ハ船ノ長サニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ第三號ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スルモノニ在リテハ六〇耗未満ト爲スコトヲ得ズ

一 長サ二五米未満ノ船舶

$d = 1.29(L - 10) + 10$

二 長サ二五米以上三五米未満ノ船舶

$d = 2.67(L - 30) + 15$

三 長サ三五米以上ノ船舶

$d = 1.67\sqrt{L(B + D) + 35}$

d ハ浚水主管ノ内徑(耗ニテ)

L、B、D ハ夫夫船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ長サ、幅及深サ(米ニテ)

前項第三號ノ船舶ニ在リテハ各水密區畫ニ對スル浚水吸引支管ノ内徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ一〇〇耗ヲ超ユルコトヲ要セズ又國際航海ニ從事スル船舶ニ在リテハ五〇耗未満ト爲スコトヲ得ズ

$d = 2.15\sqrt{L(B + D) + 35}$

d ハ浚水支管ノ内徑(耗ニテ)

一 ハ當該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サ(米ニテ)

B、D ハ夫夫船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ幅及深サ

(米ニテ)

第九十九條

浚水排水装置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 各動力浚水「ポンプ」ハ實際上手動「ポンプ」ニテ差支ナキ箇所ヲ除クノ外各艙、機關室及軸路ヨリ吸水シ得ル配置ト爲スコト

二 第九十七條第一項ノ規定ニ依リ備フベキ各獨立動力浚水「ポンプ」ハ浚水主管内ノ水ノ流速ガ通常ノ操作状態ニ於テ毎分一二二米以上ナル吸水能力ヲ有スルモノナルコト但シ第九十七條第一項ノ規定ニ依ル「ポンプ」ノ外向其ノ他ニ獨立動力浚水「ポンプ」ヲ備フルトキハ其ノ各箇ノ吸水能力ヲ同條同項ノ規定ニ依リ獨立動力浚水「ポンプ」一箇毎ノ吸水能力ニ加算スルコトヲ得ルコト

三 獨立動力海水「ポンプ」中少クトモ一箇ハ他ノ海水「ポンプ」ガ船體ノ他ノ箇所ヨリ排水中ト雖モ直接機關室ヨリ排水シ得ル装置ト爲スコト

四 機關室ニ於ケル海水吸引管ハ之ヲ泥芥箱ニ接続シ泥芥箱ハ海水溜ニ通ズル眞直ナル尾管及急速ニ開閉シ得ル構造ノ蓋ヲ有シ且成ルベク機關室床面上ヨリ容易ニ掃除シ得ル場所ニ之ヲ設置スルコト但シ管海官廳ニ於テ船體ノ構造、吸引管ノ配置其ノ他ニ依リ差支ナシト認ムル箇所ニ限り吸引管端ニ附シタル芥除箱ヲ以テ泥芥箱ニ代フルコトヲ得ルコト

五 各艙、軸路及石炭庫ニ於ケル海水吸引管端ニハ吸引管ノ接合部ヲ取外サザルモ容易ニ掃除シ得ル構造ノ芥除箱ヲ備フルコト
前項第四號及第五號ノ芥除箱ノ吸水孔集ノ各孔ノ徑ハ一〇耗以下ニシテ孔ノ總面積ハ吸水管ノ横截面積ノ三倍以上ト爲スベシ

第一百條 循環水「ポンプ」ハ不還弁ヲ經テ機關室ノ成ルベク最低部ヨリ直接海水ヲ吸引シ得ル装置ト爲シ其ノ吸引管ノ内徑ハ該「ポンプ」ノ海水吸引管ノ内徑ノ三分ノ二以上ト爲スベシ
前項ノ不還弁ニハ成ルベク適當ナル揚弁装置ヲ備フベシ

海水吸引管ヲ連絡スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板以上ノ近寄り易キ場所ニ之ヲ備フベシ

滲水管ガ鋼管ナルトキハ成ルベク亜鉛鍍ト爲スベシ
石炭庫其ノ他損傷ヲ受ケ易キ場所ニ於ケル海水吸引管ハ之ニ適當ナル保護装置ヲ備フベシ

第一百三條 二重底又ハ水槽ヲ有スル船舶ハ二重底又ハ水槽ノ水ヲ獨立ノ動力「ポンプ」ニ依リ排出シ得ル適當ナル装置ヲ備フベシ

第一百四條 長サ三五米以上ノ船舶ハ循環水「ポンプ」ニ依ラズシテ冷却水ヲ復水器ニ送り得ル装置ヲモ備フベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル循環水「ポンプ」二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連絡スル装置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五條 船外ヨリ吸水スル管ハ海水弁又ハ海水「コック」ニ連絡シ海水弁又ハ海水「コック」ハ之ヲ直接外板ニ取附クルカ又ハ外板ニ取附ケタル堅牢ナル脚筒ニ取附ケ機關室床板上ニ於テ容易ニ操作シ得ルモノト爲スベシ
鋼船ノ外板ニ弁、「コック」又ハ前項ノ脚筒ヲ取附クル螺釘ハ之ヲ外板ニ振込ムカ又ハ埋頭ト爲スベシ

第一百六條 第八十六條ノ放水管ハ近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ニ連結スベシ

燃料ニ石炭ヲ使用シ又ハ使用スルコトアルベキ汽罐ト汽機トノ間ニ水密隔壁ナキ長サ一〇米以上ノ船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ旅客船ニ非ザル近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ少クトモ一箇ノ循環水「ポンプ」ヨリ復水器管ヲ經ズシテ直接船外ニ排水シ得ル様装置スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノ又ハ装置スルコト甚シク困難ナリト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一百一條 長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ獨立動力「ポンプ」中一箇ハ海水ヲ吸引シテ甲板ニ送水シ且船體ノ前後部ニ同時ニ配水シ得ル装置ト爲スベシ

第一百二條 海水ヲ吸引シ得ル「ポンプ」ニ接続スル滲水管ニハ海水又ハ水槽ト滲水トニ同時ニ開通シ得ザル「コック」又ハ不還弁ヲ備ヘ海水、脚荷水又ハ水槽ノ水ガ貨物艙、機關室若ハ軸路ニ流入シ又ハ一區畫ヨリ他區畫ニ流入スルコトヲ防止スベシ

滲水配流箱ニ於ケル弁ハ不還弁ト爲スベシ
貨物艙、機關室又ハ軸路ヨリ排水スベキ「ポンプ」ノ吸引管ハ二重底又ハ水槽ノ充水管又ハ排水管トハ別箇ノモノト爲スベシ

前項ノ弁又ハ「コック」ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ鋼船ニ在リテハ其ノ取附部ニ於ケル外板ノ腐蝕ヲ防止スル爲外板ニ適當ナル装置ヲ爲スベシ

第一項ノ「コック」ハ之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ其ノ開閉把手ヲ取放チ得ザル装置ト爲スベシ
第一項ノ放水管ヲ循環ノ爲使用スル船舶ニ在リテハ同項ノ弁又ハ「コック」ト罐水循環路トヲ遮斷シ得ル様適當ニ装置スベシ

第一百七條 排水管ハ成ルベク近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル排水弁又ハ排水「コック」ニ連結スベシ但シ長サ三〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ最大吃水線以上ニ於テ船外ニ通ズル排水管ニ限り管海官廳ノ見込ニ依リ弁又ハ「コック」ヲ備ヘザルコトヲ得

第一百八條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル汽機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水装置ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノトキハ之ヲ二様ト爲サザルコトヲ得

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認

ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スコトヲ得

第八節 管

第九條 汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ小徑ノ過熱汽管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$P = \frac{(T-a)}{D} \times K$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎斤ニテ)
 D ハ管ノ内徑(耗ニテ)
 T ハ管ノ厚サ(耗ニテ)
 a 及 K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

管	汽	
	種類	管
引拔銅管	a	K
鐵附銅管	一・〇	四四〇
常溫引拔銅管	二・五	八四四
高溫仕上無接合銅管	三・〇	八四四
鍛合銅管	三・〇	六三三

第一百十三條

汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ少クトモ二箇ノ汽罐ヨリ汽笛、操舵汽機及發電汽機ニ送汽シ得ル裝置ト爲スベシ

第一百十四條

二二〇度以上ノ蒸汽ヲ通ズル弁匣、膨脹接手等ハ鑄鋼其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

第一百十五條

管ハ振動ヲ防止スル爲帶金其ノ他ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ取附クベシ

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第一百十六條

給水「ポンプ」ノ水筒ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル弁、「コック」給水加熱器、給水濾器等ニシテ給水ノ壓力ヲ受クル部分ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル管ハ鏝ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ二・五倍ノ壓力
 鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ四・〇倍ノ壓力

制限汽壓毎平方糎三〇疋ヲ超ユル汽罐ノ給水「ポンプ」ノ送

管	給	水
引拔銅管	一・〇	三五五
鐵附銅管	一・〇	二六六
常溫引拔銅管	二・〇	七〇三

第八十二條末項ノ導管中汽側ノモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項汽管ノ例ニ依リ水側ノモノ及第八十六條ノ放水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項給水管ノ例ニ依ル

第一百十條

銅管ハ之ヲ彎曲スル場合ニ於テハ前條ニ依リ算定シタル厚サヨリ大ナル厚サノモノヲ用キ且管ノ中心線ニ於テ測リタル彎曲半徑ヲ管ノ外徑ノ二倍以上ト爲スベシ

第一百十一條

汽管、給水管、第八十二條末項ノ導管又ハ第八十六條ノ放水管ニ用ウル銅管ハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ

第一百十二條

汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ

第一百十三條

汽管ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ
 減壓弁ヲ備フル場合ニ於テハ減壓蒸汽ノ側ニ適當ナル逃出口ヲ備フベシ

水側ニ於ケル銅管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百十七條

主汽管ハ鏝ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力
 鋼管ナルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ三倍ノ壓力

第一百十八條

循環水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎四疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百十九條

但シ獨立ノ動力ニ依リテ動作セラルルモノナルトキハ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スルコトヲ得

第一百二十條

潤滑油「ポンプ」ノ油筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百二十一條

給水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

油冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

第一百二十二條

給水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗

ヲ執行スベシ

第二百二十二條 最大吃水線以下ノ外板ニ取附クル弁匣「コック」、第二百五條ノ脚筒又ハ船尾管ハ之ヲ製造シタルトキ毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第十節 燃油裝置

第二百二十三條 本節ノ規定ハ「エーベル」式密閉試驗ニ依ル引火點六五度以上ノ燃料油ヲ汽罐ニ於テ燃燒スル裝置ヲ有スル船舶ニ之ヲ適用ス

第二百二十四條 汽罐ニハ適當ナル防熱裝置ヲ施シ且之ト油槽ノ側壁又ハ二重底頂板トハ適當ノ間隔ヲ保タシムベシ

第二百五條 油ノミヲ燃燒スル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ設クルコトヲ得ズ

隨時ニ石炭又ハ油ヲ燃燒シ得ル裝置ヲ備フル汽罐ニ在リテ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ有スルトキハ該堰板ヲ全開シ得ル構造ト爲シ且全開シタルトキハ不慮ニ開度ヲ變更スル虞ナキモノト爲スベシ

第二百二十六條 噴油「ポンプ」、油濾器及燃料油加熱器ハ充分ナル能力ヲ有シ且隨時使用シ得ルモノニ組以上ヲ備フベシ但シ補汽罐ニ在リテハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得

噴油「ポンプ」ハ吸油側及送油側ニ弁又ハ「コック」ヲ附シ且送油側ニ有效ナル逃弁ヲ備ヘ之ヨリ逃シタル油ヲ該

但シ自働閉塞式ノ弁又ハ「コック」及適當ノ保護裝置ヲ備フル厚硝子板製ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二百三十一條 燃料油槽ト脚筒水槽トニ兼用スル區畫室二箇以上ヲ有スル船舶ニ在リテハ移油「ポンプ」ニテ該區畫室中ノ一室ヨリ吸油中脚筒水「ポンプ」ニテ他室ノ排水ヲ爲シ得ル裝置ト爲スベシ

但シ容積大ニシテ屢補充スルヲ要セザル澄油槽又ハ常用油槽ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

深水槽ヲ貨物艙、脚筒水槽又ハ燃料油槽ニ兼用スル船舶ニ在リテハ該槽ニ貨物ヲ積載スル場合脚筒水及燃料油ノ注入管竝ニ吸出管ニ、該槽ヲ燃料油槽又ハ脚筒水槽トシテ使用スル場合溢水吸出管ニ直蓋ヲ取附ケ得ル裝置ト爲スベシ

第二百三十二條 移油管ニハ機關室又ハ「ポンプ」室隔壁ノ内側ニ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ移油「ポンプ」ニハ之ヲ解放スル場合移油管ト遮斷シ得ル様其ノ吸油側ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百三十三條 二重底ヲ除クノ外燃料油槽ヨリ吸油スル管ニハ槽壁ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ其ノ所在區畫ノ失火ノ際接近シ易キ他ノ場所ヨリ開閉シ得ル裝置ト爲スベシ
燃料油ヲ積載スル船首艙又ハ船尾艙ヨリ吸油スル管ニ在リテハ前項ノ裝置ヲ有スル弁又ハ「コック」ハ之ヲ該艙ノ内壁

「ポンプ」ノ吸油側ニ導入スル裝置ト爲スベシ
燃油裝置ヲ有スル汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油「ポンプ」ノ送油管ヲ配油弁匣ニ接續スルカ又ハ各汽罐ニ對スル送油管ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ
噴油器、噴油「ポンプ」、加熱器及油濾器等ヨリノ漏油ニ對シテハ適當ナル油受ヲ設クベシ

第二百二十七條 噴油「ポンプ」及之ニ接續スル管系ハ給水「ポンプ」、溢水「ポンプ」又ハ脚筒水「ポンプ」及此等ニ接續スル管系ト兼用スルコトヲ得ズ

油管ハ總テ清水管ト兼用スルコトヲ得ズ
第二百二十八條 噴油「ポンプ」ノ送油側ニ於ケル油管ハ無接合鋼管トシ其ノ管銜ハ之ヲ機械仕上ト爲シ且成ルベク直接接合ト爲シ接合材ヲ用ウル場合ニ於テハ高溫ノ油ノ滲透セザル薄キモノヲ用ウベシ
前項以外ノ油管ハ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ
油管ハ機關室ニ於テハ検査及修繕ニ便宜ナル位置ニ之ヲ取附クベシ

第二百二十九條 噴油「ポンプ」ノ動力裝置ハ其ノ所在區畫室ニ於テ又該區畫室ノ失火ノ際ニハ接近シ得ベキ他ノ場所ニ於テ之ヲ操縱シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百三十條 油槽ニハ硝子製示面計ヲ取附クルコトヲ得ズ
ニ附スベシ

但シ機關室ガ船尾艙ニ隣接スル船舶ニ在リテハ該弁又ハ「コック」ハ之ヲ船尾隔壁ノ機關室側ニ附スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ小型油槽ニ付管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百三十四條 澄油槽及常用油槽ノ充油管ニハ前條第一項ノ裝置ヲ有スル弁若ハ「コック」又ハ不還弁ヲ槽ニ接續スル箇所ニ備フベシ但シ充油管ガ槽ノ頂部ニ接續セラルルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ成ルベク燃料油ヲ澄油槽及常用油槽ヨリ二重底ニ放出スル管ヲ設ケ槽ニ接續スル箇所ニ於テ之ニ前條第一項ノ裝置ヲ有スル弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百三十五條 機關室内ノ油管ニ附スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板以上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スベシ

第二百三十六條 機關室内ノ油槽ニ附スル沈澱水ノ排出管ニハ自働閉塞式又ハ封鎖裝置附ノ弁若ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百三十七條 蒸氣ニ依リ燃料油ヲ加熱スル場合ニ於テハ加熱用蒸氣管ノ末端ハ凝汽中ニ於ケル油ノ有無ヲ検査シ得ル様之ヲ驗水槽ニ導クベシ

燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管ハ之ヲ鋼管又ハ鐵管ト爲ス

第三百三十八條 機關室又ハ燃料油槽、澄油槽若ハ燃料油「ポンプ」ヲ備フル室ニ於ケル溢水吸引管ハ鉛管ト爲スコトヲ得ズ

第三百三十九條 油槽ハ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ノモノト爲スベシ

第四百十條 燃油裝置ノ各部分ハ左ノ壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

- 一 噴油「ポンプ」ノ油筒又ハ之ニ附屬スル弁ハ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力
- 二 噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管燃料油加熱器及其ノ附屬具ハ常用最大壓力ノ二倍ト每平方糎二八疋トノ中大ナル壓力
- 三 前號以外ノ油管ニシテ機關室ニ在ルモノハ每平方糎二疋
- 四 燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力

前項第一號ニ掲グルモノノ試験ハ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ、第二號乃至第四號ニ掲グルモノノ試験ハ船内取附後之ヲ執行スベシ

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發動機

第四百十一條 發動機ハ容易且確實ニ推進器ヲ反轉セシメ又船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス軸馬力三〇〇ヲ超ユル發動機ハ成ルベク自己反轉式ノモノト爲スベシ

軸馬力六〇ヲ超ユル發動機ニシテ「クラッチ」ヲ用キ推進器ヲ反轉スルモノニハ適當ナル整速裝置ヲ備フベシ

第四百十二條 徑二五〇糎以上ノ氣筒ニシテ最大壓力每平方糎三五疋以上ノモノニハ取扱者ニ危害ヲ及ボス虞ナキ位置ニ適當ナル安全弁又ハ逃弁ヲ備ヘ最大壓力ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様調整スベシ

第四百十三條 輕油、燈油、揮發油又ハ瓦斯ヲ燃料トスル單働發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方糎一八疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = \sqrt[3]{\frac{C}{D \cdot S}}$$

d ハ軸ノ徑(糎ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(糎ニテ)

S ハ行長(糎ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

發動機ノ種類	「クランク」軸		中間軸		第一種螺旋軸		第二種螺旋軸	
	甲種機關ハ又種機關	機丙種	甲種機關ハ又種機關	機丙種	甲種機關ハ又種機關	機丙種	甲種機關ハ又種機關	機丙種
一	〇・三三三	〇・三五五	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三
二	〇・三三七	〇・三五四	〇・三三七	〇・三三七	〇・三三七	〇・三三七	〇・三三七	〇・三三七
三	〇・三八一	〇・三六二	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一
四	〇・三八八	〇・三六九	〇・三八八	〇・三八八	〇・三八八	〇・三八八	〇・三八八	〇・三八八
五	〇・三九三	〇・三七三	〇・三九三	〇・三九三	〇・三九三	〇・三九三	〇・三九三	〇・三九三
六	〇・三九九	〇・三七九	〇・三九九	〇・三九九	〇・三九九	〇・三九九	〇・三九九	〇・三九九
一	〇・三三一	〇・三二五	〇・三三一	〇・三三一	〇・三三一	〇・三三一	〇・三三一	〇・三三一
二	〇・三三五	〇・三三五	〇・三三五	〇・三三五	〇・三三五	〇・三三五	〇・三三五	〇・三三五
三	〇・三六八	〇・三五〇	〇・三六八	〇・三六八	〇・三六八	〇・三六八	〇・三六八	〇・三六八
四	〇・三八一	〇・三六二	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一	〇・三八一
五	〇・三九〇	〇・三七七	〇・三九〇	〇・三九〇	〇・三九〇	〇・三九〇	〇・三九〇	〇・三九〇
六	〇・四〇一	〇・三八二	〇・四〇一	〇・四〇一	〇・四〇一	〇・四〇一	〇・四〇一	〇・四〇一

機		七		六		五		四		三		二		一	
〇・四〇九	〇・三九〇	〇・三七一	〇・三五八	〇・三五八	〇・四五五	〇・二八四	〇・二九〇	〇・三〇一	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七
〇・四三三	〇・四〇三	〇・三九〇	〇・三五八	〇・三五八	〇・四五五	〇・二八四	〇・二九〇	〇・三〇一	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七
〇・四六七	〇・四三三	〇・四二〇	〇・三五八	〇・三五八	〇・四五五	〇・二八四	〇・二九〇	〇・三〇一	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七	〇・三〇七

「クランク」径ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百十四條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方

糶一八疋ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數ヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt[3]{\frac{P}{18}}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(毎平方糶疋ニテ)

第四百十五條 重油ヲ燃料トスル燒球式二衝程單働發動機ニ

シテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糶二五疋以下ノモノノ鍛鋼製

ノ軸ノ寸法ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 「クランク」軸ノ徑

$$dc = \sqrt[3]{\frac{D \times (A + B)}{100}}$$

dc ハ「クランク」軸ノ徑(糶ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(糶ニテ)

S ハ行長(糶ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離(糶ニテ)

A 及 B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
一	一	二・七五	二・六九	二・三六	二・三一
	二	三・四三	二・六〇	二・九四	二・二三
	三	三・〇三	二・六八	二・六〇	二・三〇
	四	三・四六	二・六二	二・九七	二・二五
	五	六・八八	二・一〇	五・九〇	一・八〇
	六	三・八八	二・五〇	三・三三	二・一四
	七	四・二九	二・四三	三・六八	二・〇八
	八	五・〇八	二・三一	四・三六	一・九八
	九	六・八三	二・二二	五・八六	一・八一

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
一	一	二・七五	二・六九	二・三六	二・三一
	二	三・四三	二・六〇	二・九四	二・二三
	三	三・〇三	二・六八	二・六〇	二・三〇
	四	三・四六	二・六二	二・九七	二・二五
	五	六・八八	二・一〇	五・九〇	一・八〇
	六	三・八八	二・五〇	三・三三	二・一四
	七	四・二九	二・四三	三・六八	二・〇八
	八	五・〇八	二・三一	四・三六	一・九八
	九	六・八三	二・二二	五・八六	一・八一

二 一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サ

$$b_1^2 = 0.417dc_3$$

dc ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(糶ニテ)

b ハ腕ノ幅(耗ニテ)
 t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)ニシテdcノ〇・六〇倍
 以上ナルコト
 三 推力軸中間軸又ハ螺旋軸ノ徑
 $d = C^2 \sqrt{D^2 S}$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)
 D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)
 S ハ行長(耗ニテ)
 C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クンラク」 ノ 配 置	C			
		推 力 軸	中 間 軸	第 一 種 螺 旋 軸	第 二 種 螺 旋 軸
一	一	甲種機關 又ハ 乙種機關	甲種機關 又ハ 乙種機關	甲種機關 又ハ 乙種機關	甲種機關 又ハ 乙種機關
二	一	〇・二六六	〇・二五三	〇・二四〇	〇・二二六
二	L	〇・二七三	〇・二五九	〇・二四六	〇・二三二
三	人	〇・二八六	〇・二七二	〇・二五八	〇・二四四
四	十	〇・三〇四	〇・二八九	〇・二七四	〇・二五九

六	五	四	三	二	一
〇・三三三	〇・三二〇	〇・三〇七	〇・二九四	〇・二八〇	〇・二六六
〇・三三三	〇・三二〇	〇・三〇七	〇・二九四	〇・二八〇	〇・二六六
〇・三三三	〇・三二〇	〇・三〇七	〇・二九四	〇・二八〇	〇・二六六
〇・三三三	〇・三二〇	〇・三〇七	〇・二九四	〇・二八〇	〇・二六六
〇・三三三	〇・三二〇	〇・三〇七	〇・二九四	〇・二八〇	〇・二六六
〇・三三三	〇・三二〇	〇・三〇七	〇・二九四	〇・二八〇	〇・二六六

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル
 「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ
 勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力
 軸ノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取付クルトキハ該
 部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル
 モノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百十六條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方
 糎二五超ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依
 リ算定シタルモノニ左ノ係數ヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコ
 トヲ得ズ

$$K = \sqrt[3]{0.021P + 0.3}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎ニテ)
 前項ノ發動機ノ鍛鋼製ノ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ
 厚サハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗
 ニテ)ヲdcニ充テ前條第二號ノ算式ヲ用キ算定シタルモノ
 ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百十七條 「デイーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」
 軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ
 得ズ

$$dc = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (ASP + BLP)}{1,000}}$$

dc ハ「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離(耗ニテ)

P ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎ニテ)

p ハ氣筒内平均有效圖示壓力(每平方糎ニテ)

A 及 B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

「クランク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力軸トノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取附クルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項ノ算式ニ依リテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 二衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
一	—	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二	—	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
三	—	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
四	—	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
五	—	二二・三〇	一・二二	一九・九六	一・〇五
六	—	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
七	—	一五・一二	一・四三	一二・九七	一・二三
八	—	二〇・〇〇	一・三一	一七・一五	一・一一
九	—	二四・一〇	一・二二	二〇・六七	一・〇四

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
九	✳	一四・五一	一・四五	一二・四五	一・二四
八	✳	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
七	✳	一三・八三	一・四八	一一・八六	一・二七
六	✳	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
五	✳	一二・六〇	一・五二	一〇・八〇	一・三〇
四		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
三	人	一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
一		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七

二		一		九		八		七	
✳	✳	✳	✳	✳	✳	✳	✳	✳	✳
三六・四八	二九・三七	二二・一四	二〇・〇八	二八・四二	一九・四二	一七・六〇	二七・四〇	一六・六三	一五・八〇
一・〇九	一・一九	一・三三	一・三三	一・二〇	一・三六	一・三八	一・二一	一・四〇	一・四一
三一・三〇	二五・二〇	一八・一四	一七・二三	二四・三八	一六・六六	一五・一〇	二三・五〇	一四・二六	一三・五五
〇・九四	一・〇二	一・一四	一・一四	一・〇三	一・一七	一・一八	一・〇四	一・二〇	一・二一

四 四衝程複働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
一		一〇・八六	一・六〇	九・三二	一・三七
二		一二・八一	一・四三	一〇・九九	一・二三
三	人	一四・四八	一・三〇	一二・四一	一・二二
四	十	一三・四一	一・三九	一一・五〇	一・一九
五	六	一五・六八	一・二六	一三・四五	一・〇八
六	※ 人	一四・五〇	一・三〇	一二・四四	一・二二
七	※ 人	一九・七〇	一・一九	一六・九〇	一・〇二
	※ 人	一八・三九	一・二二	一五・七七	一・〇五

備考	※印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス	氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
				A	B	A	B
八		八	※ 人	一八・七〇	一・二二	一六・〇四	一・〇四
九		九	※ 人	二二・六一	一・二六	一八・二八	一・〇〇
一〇		一〇	※ 人	二二・三〇	一・二五	一八・五三	〇・九九
一一		一一	※ 人	二二・四四	一・一八	一七・二〇	一・〇一
一二		一二	※ 人	二二・七二	一・一八	一七・二〇	一・〇一
			※ 人	二二・一〇	一・一五	一八・九六	〇・九九
			※ 人	二六・五〇	一・〇九	二二・七三	〇・九四

第四百四十八條 「ディーゼル」式發動機ノ「クランク」軸ノ鋼製ノ腕ノ幅又ハ厚サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$w = 0.438 dc$$

$$t = 0.625 dc$$

dc ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

w ハ「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(耗ニテ)

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)

二 一體型「クランク」軸ナルトキ

$$dt^2 = 0.417 dc^3$$

dc ハ前號ニ同ジ

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)ニシテ dc ノ 〇・五六倍以上ナルコト

b ハ「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)

前項ノ規定ハ高速機關又ハ管海官廳差支ナシト認ムル機關ニ付テハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第四百四十九條 「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ中間軸ノ徑

一 二衝程單働式ナルトキ

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C	
				甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
一	—	二六・二	〇・五二七	〇・二一六	〇・二一〇
二	—	一六・八	〇・三二六	〇・一四六	〇・一三九
三	—	八・四	〇・二〇〇	〇・一六八	〇・一六〇
四	+	四・五	〇・一〇六	〇・一八四	〇・一七五
五		三六・二	〇・三二六	〇・一九八	〇・一八八
六	✳	二・九	〇・〇五九	〇・一九八	〇・一八八
	✳	二・〇	〇・〇四一		
	✳	一一・八	〇・一三二	〇・二一一	〇・二〇〇
	✳	一八・二	〇・一九一		

ハ式ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = \sqrt[3]{\frac{n(1+M)D^2Sp \times \frac{1}{R} \times e}{e}}$$

d ハ中間軸ノ徑(耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

p ハ氣筒内平均有效圖示壓力(毎平方糎ニテ)

n ハ「クランク」軸系ヲ異ニシテ同一推進軸系ニ聯動スル發動機ノ數

發動機ノ數

r ハ「クランク」軸ノ毎分計畫回轉數

R ハ中間軸ノ毎分計畫回轉數

e ハ「クランク」軸ト中間軸トノ間ニ裝置セラレタル動力傳導裝置又ハ變速裝置ノ總傳導率

M ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル數ト左表ニ掲グルZ

トノ中小ナルモノ

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系

ノ推力軸又ハ中間軸ノ場合ニ在リテハ第一項ノZ及前項ノ

Mノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ

得

氣筒數	「クランク」ノ配置	K	Z	C	
				甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
九	✳	四・一	〇・〇八四	〇・一九六	〇・一八六
八	✳	四・五	〇・一〇六	〇・一八八	〇・一七九
七	✳	六・三	〇・一四〇	〇・一八〇	〇・一七一
六	✳	八・四	〇・二〇〇	〇・一七一	〇・一六二
五	✳	一三・八	〇・二五三	〇・一六一	〇・一五三
四		一六・八	〇・三二六	〇・一四九	〇・一四二
三	人	二四・一	〇・四一〇	〇・一三五	〇・一二八
二		四一・〇	〇・五二七	〇・一一八	〇・一一二
一		三一・八	〇・六八〇	〇・〇九七	〇・〇九二

一二	✳	三・五	〇・〇四〇	〇・二六六	〇・二五三
一一	✳	二五・二	〇・一三二	〇・二六六	〇・二五三
一〇	✳	〇・二	〇・〇〇四		
九	✳	〇・三	〇・〇〇五	〇・二五九	〇・二四六
八	✳	五・七	〇・〇六二	〇・二五〇	〇・二三八
		〇・四	〇・〇〇八		
七	✳	〇・七	〇・〇一二	〇・二四一	〇・二二九
		九・二	〇・一〇六	〇・二三二	〇・二二〇
		〇・九	〇・〇一九	〇・二三二	〇・二二〇
		一・五	〇・〇二七	〇・二三二	〇・二二一

氣筒數	「クランクノ」配置	K	Z	C	
				甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
七	*	八・五	〇・〇九九	〇・二一六	〇・二〇五
六	* /	六三・二	〇・二九八	〇・二〇五	〇・一九五
	/	二・〇	〇・〇四一		
五	* /	二・〇	〇・〇四一	〇・一九三	〇・一八三
	*	一六・二	〇・一八四		
四	+ /	四・五	〇・一〇六	〇・一七九	〇・一七〇
	+ /	三一・三	〇・三〇〇		
三	!	一六・八	〇・三二六	〇・一四二	〇・一三五
	!	三・三	〇・三〇〇		
二	!	二六・二	〇・五二七	〇・一一三	〇・一〇七

氣筒數	「クランクノ」配置	K	Z	C	
				甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
九	*	四・五	〇・〇五三	〇・二三五	〇・二二三
八	* +	九・二	〇・一〇六	〇・二二六	〇・二一五
	*	〇・九	〇・〇一九		
一〇	* /	三三・五	〇・一八〇	〇・二四三	〇・二三一
	* /	〇・四	〇・〇〇八		
一一	* /	一・八	〇・〇三二	〇・二五一	〇・二三八
	* /	〇・二	〇・〇〇四		
一二	* /	三・五	〇・〇四〇	〇・二五九	〇・二四六
	* /	〇・五	〇・〇〇四		

備考 ※印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

M ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定スベシ

$$M = K \frac{10,000D^2S}{(6.24Wb^2 + W'P^2)R^2}$$

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

W ハ「クランク」腕ニ附シタル鈎合錘ノ重量(疋ニテ)

b ハ「クランク」腕ニ附シタル鈎合錘ノ重心點ヨリ「クランク」軸ノ中心線ニ至ル距離(耗ニテ)

W' ハ勢車ノ重量(疋ニテ)

F ハ勢車ノ外徑(耗ニテ)

R ハ軸ノ毎分回轉數

K ハ定數ニシテ前項ノ表ニ依ル

第二百五十條

「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ推力軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第二百五十一條

「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ螺旋軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d_s = d + \frac{P}{C}$$

ds ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

d ハ第四百十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑

軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

鍛鋼製螺旋軸ハ前部軸鏢ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ發動機ノ種類ニ應ジ第四百十三條乃至第四百十六條、第四百十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第二百五十五條

抗張力ガ不明ナル壓延黃銅製螺旋軸ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百十三條乃至第四百十六條又ハ第五百十一條ノ規定ニ依リ算定シタル鍛鋼製第一種螺旋軸ノ徑ノ一・〇五倍以上ト爲スベシ

第二百五十六條

軸鏢ヲ速結スル螺釘ノ軸鏢連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^3}{ND_1}}$$

d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)

N ハ螺釘ノ數

d₁ ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)

D ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百十三條乃至第四百十六條又ハ第四百十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ノ回轉數ト異ル回轉數ノ「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中ノD ハ第四百十三條

船舶機關規程

(耗ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

第二百五十二條

船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ寸法ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百十三條乃至第四百十八條ノ規定ニ依リ丙種機關トシテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第二百五十三條

鍛鋼製中空軸ノ外徑ハ發動機及軸ノ種類ニ應ジ第四百十三條乃至第四百十七條、第四百十九條乃至第五百十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ内徑ガ外徑ノ三分ノ一未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

$$K = \frac{3}{1 - R^4}$$

R ハ中空軸ノ内徑ヲ外徑ニテ除シタル商

第二百五十四條

鍛鋼製推力軸ハ推力受臺ノ前部及後部ニ於テハ其ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百十三條乃至第四百十六條、第四百十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間

乃至第四百十七條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乗ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸鏢ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鏢ノ厚サハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

ハ第四百十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鏢根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ

第二百五十七條

船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第四百十三條乃至第四百十六條、第五百十一條又ハ第五百十五條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管又ハ軸支肘ノ「ブッシュ」ニ當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.03ds + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ(耗ニテ)

ds ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百三條乃至第四百六條
又ハ第五百一十一條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑
(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノ
ノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第二百五十八條 發動機ノ電氣點火裝置ノ導線ハ完全ニ絶縁シ
タルモノニシテ損傷ヲ受クル虞ナク且油管、油槽又ハ油ト
接觸セザル様之ヲ敷設スベシ

點火裝置ノ「コイル」ハ爆發性瓦斯ニ暴露スル虞アル場所ニ
之ヲ備フルコトヲ得ズ

第二百五十九條 發動機ノ氣化器ハ發動機ノ停止シタル場合自
働的ニ燃料ノ供給ヲ遮斷スル裝置ト爲スベシ

氣化器ガ油ノ溢出スル虞アルモノナルトキハ金網蓋ヲ有ス
ル油受ヲ設ケ之ニ排油裝置ヲ備フベシ

第二百六十條 第四百二十二條及前二條ノ規定ハ補機動作ノ發
金網ノ隔膜ヲ備フベシ

第二百六十六條 燃料油槽ハ之ヲ汽罐、汽管、廢氣管、消音器
其ノ他ノ高熱物ヨリ適當ニ隔離シ其ノ弁又ハ「コック」等ハ

外部ヨリ損傷ヲ受クル虞ナキ安全ナル場所ニ取附クベシ

第二百六十七條 燃料油槽ノ注油管ハ専用ノモノトシ成ルベク
甲板上ニ達セシメ其ノ開口部ハ堅牢ナル蓋ヲ以テ密閉シ得
ルモノト爲スベシ

揮發油槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ適當ナル逃出口ヲ備ヘ之
ニ排氣管ヲ設ケ其ノ他ノ燃料油槽ニハ適當ナル空氣管ヲ設
クベシ

前項ノ排氣管及空氣管ハ其ノ端ヲ暴露甲板上排氣ニ因ル危
險ナキ場所ニ導キ且排氣ノ流通ヲ阻害シ又ハ波浪ノ侵入ス
ル虞ナキモノト爲スベシ

第二百六十八條 油槽ノ開口部ニハ容易ニ取外シ得ル堅牢ナル
金網膜ヲ裝置スベシ

第二百六十九條 船體ノ一部ヲ成サザル燃料油槽ニハ排油裝置
ヲ設ケ且内部ノ檢査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベ
シ

前項ノ油槽ニハ金屬製油受ヲ備ヘ之ニ排油裝置ヲ設クベシ
第七十條 前三條ノ規定ハ小形油槽ニ付テハ管海官廳ニ於
テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ
得

動機ニ之ヲ準用ス

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第六十一條 油槽、油管及此算ニ附屬スル弁並ニ「コック」
ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第三章第十節
ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 發動機ニハ其ノ停止中ニ於テモ手動「ポンプ」
其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ氣筒ノ噴油弁ニ燃料油ヲ供給
シ得ル裝置ヲ設クベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ノ「デイーゼル式」發動機ノ燃料油管
ニハ燃料油濾器二組ヲ備ヘ發動機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組
ヲ解放掃除シ得ル裝置ト爲スベシ

第六十三條 重油管ニ非ザル燃料ノ管ニハ適當ニ熱處理ヲ
爲シタル引拔銅管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザル
モノト爲シ其ノ連結ハ金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲
スベシ

第六十四條 燃料重油管ニハ成ルベク引拔銅管ヲ用キ其ノ
配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲スベシ噴油「ポンプ」
ト氣筒トヲ連絡スル重油管ノ連結ハ成ルベク金屬製ノ圓錐
形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第六十五條 燃料油管ハ容易ニ檢査スルコトヲ得且外部ヨ
リ損傷ヲ受クル虞ナキ様敷設スベシ

第七十一條 強壓ヲ受クル燃料油槽ノ強力ハ氣槽ノ強力ニ
準ジ之ヲ算定スベシ

第七十二條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコト
ヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油
「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ

有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油
「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送
水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認
ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコト
ヲ得

「クランク」室ヲ潤滑油溜トシテ使用スル「クランク」室密閉
式發動機ニハ「クランク」室内ノ油ヲ隨時排出シ得ル裝置ヲ
備ヘ木船ニ在リテハ此ノ排油ガ木製部分ヲ浸潤セザル様裝
置スベシ

前項ノ發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ潤滑油ノ清淨機又ハ
濾器ヲ備フベシ
潤滑油管系ニハ適當ノ位置ニ潤滑油ノ流動狀況ヲ見易キ様
適當ノ裝置ヲ備フルカ又ハ壓力計ヲ備フベシ

第七十三條 機室及燃料油槽ヲ設置シタル區畫室ハ通風
良好ナルモノト爲スベシ

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第七十四條 廢氣管及消音器ハ循環水ニ依リ之ヲ冷却スルカ又ハ之ニ適當ナル防熱裝置ヲ施スベシ消音器ハ容易ニ掃除シ得ルモノト爲スベシ

二箇以上ノ發動機ノ廢氣ヲ一箇ノ消音器ニ導クトキハ停止セル發動機ノ氣筒内ニ廢氣ノ侵入セザル様裝置スベシ廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水ノ浸入セザル様裝置スベシ

前四項ノ規定ハ補機動作用發動機ニ之ヲ準用ス

第七十五條 長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ單獨掃除空氣「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但シ獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ

壓縮空氣ノ冷却器ハ容易ニ解放シテ検査及掃除ヲ爲シ得ル構造ト爲スベシ

第四節 氣 槽

第七十八條 發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$V = C \frac{PD^2S}{P-P}$$

V ハ始動用氣槽ノ容量(立方米ニテ)

n ハ始動ノ際必要ナル始動弁ヲ備フル氣筒ノ數

D ハ氣筒ノ徑(米ニテ)

S ハ行長(米ニテ)

P ハ始動用氣槽内ノ壓縮瓦斯ノ最大使用壓力(毎平方糎厘ニテ)

P ハ定數ニシテ「ディーゼル」式發動機ニ對シテハ一〇、

燒球式發動機ニ對シテハ四

C ハ定數ニシテ「ディーゼル」式發動機ニ對シテハ六〇、

燒球式發動機ニ對シテハ一二但シ壓縮空氣ニ依ラズシ

テ推進器ヲ反轉セシメ得ル發動機ニ付テハ之ヲ夫々其

ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

發動機二箇以上ヲ備フル船舶ノ發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ一・五倍ヨリ小ナル

始動ニ壓縮空氣ヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ始動用氣槽ニ壓縮空氣ヲ充填スル正副二様ノ裝置ヲ備ヘ少クトモ其ノ一ハ主機ト獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノト爲スベシ但シ副裝置ハ發動機ガ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ルモノナルカ又ハ小形ノモノナルトキハ管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ手動空氣壓縮機ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

前項ノ獨立動力空氣壓縮機ノ原動機ガ其ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ其ノ原動機ハ他ノ機關ノ停止中ト雖モ始動シ得ルモノナルコトヲ要ス

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラレ其ノ原動機ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ該原動機ノ始動ニ用フル小形氣槽及之ニ充氣スル適當ナル手動空氣壓縮機ヲ備フベシ

手動空氣壓縮機ハ構造堅牢且容量充分ナルモノトシ使用上便宜ナル適當ノ場所ニ之ヲ備フベシ

第七十七條 空氣壓縮機ノ壓縮筒ニハ安全弁又ハ逃田弁ヲ備ヘ各壓縮筒内ノ最大壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様之ヲ調整スベシ

コトヲ得ズ

第七十九條 空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油用氣槽ハ二箇以上トシ其ノ一箇ヲ使用セザルモ發動機ノ

運轉ニ支障ナキ裝置ト爲スベシ但シ始動用氣槽ノ強力が噴油用空氣壓力ニ對シ充分ナルモノナルトキハ始動用氣槽ヲ

以テ噴油用氣槽ノ全部又ハ一部ト爲スコトヲ得

第八十條 氣槽ノ構造ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第三章第二節ノ規定ヲ準用ス

第八十一條 氣槽ノ制限壓力ハ前條ノ規定竝ニ第八十五條乃至第八十八條ノ規定ニ依リ算定シタル氣槽各部ノ強力ニ對スル制限壓力中最小ノモノトス

第八十二條 無接合筒形氣槽ノ胴板ノ第一號試驗片ニ依ル抗張試驗ニ於ケル標點間伸長百分率ハ第十六條第一號ノ表中其ノ他ノ鋼板ニ對スルモノヨリ二チ減ジタルモノト爲スコトヲ得

第八十三條 氣槽ハ内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベシ

氣槽ニハ制限壓力及水壓試驗壓力ヲ適當ニ表示スベシ

氣槽ノ制限壓力ガ之ニ連絡スル空氣壓縮機ノ最大壓力ヨリ

小ナルトキハ氣槽ニ適當ナル安全弁又ハ逃田弁ヲ備ヘ制限

壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様之ヲ調整スベ

シ

シ

シ

シ

シ
 氣槽ニハ取扱者ノ見易キ位置ニ壓力計ヲ備フベシ
 氣槽ニハ適當ナル排水裝置ヲ備ヘ成ルベク二重ニ排水弁又ハ排水「コック」ヲ設クベシ
 氣槽ニハ其ノ下部ニ排水弁又ハ排水「コック」ヲ備ヘ且ツ成ルベク之ヲ二重ニ設クベシ

第百八十四條

氣槽ハ別ニ定ムル所ニ依ルノ外其ノ各部ヲ瓦斯熔接又ハ電氣熔接ニ依リ接合スルコトヲ得ズ但シ制限壓力毎平方種一四呎以下ニシテ鋼板ノ厚サ六耗以上ノモノニ付管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ熔接スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ氣槽ノ縱接合ヲ熔接シタルトキハ鏡板取附前検査ヲ受クベシ
 無接合氣槽又ハ鍛合若ハ瓦斯熔接シタル氣槽ハ附屬具取附ノ爲ノ機械工事ヲ行フ前之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スコトヲ要ス電氣熔接シタル氣槽ニ付管海官廳ニ於テ必要ト認メタル場合亦同ジ

第百八十五條

無接合筒形氣槽又ハ鍛合若ハ熔接シタル筒形氣槽ノ胴ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{2875 S (T-1.5)^2}{D^2}$$

- P ハ制限壓力(毎平方種呎ニテ)
- S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方耗呎ニテ)
- T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
- d ハ鏡板ノ曲線ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ徑但シ曲線ノ彎曲ノ内半徑ガ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ内徑ヨリ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ七倍ヲ控除シタルモノ(耗ニテ)

第百八十八條 筒形氣槽ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有スル球面狀ノ鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times S \times (T-1.5)}{R}$$

- P ハ制限壓力(毎平方種呎ニテ)
- S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方耗呎ニテ)
- T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
- R ハ鏡板球面ノ内半徑(耗ニテ)
- C ハ鏡板ガ氣槽ノ外方ニ突出スルモノナルトキハ二五・

$$P = \frac{C \times S \times (T-1.5)}{D}$$

- P ハ制限壓力(毎平方種呎ニテ)
- S ハ胴板ノ抗張力(毎平方耗呎ニテ)
- D ハ胴ノ内徑(耗ニテ)
- T ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)
- C ハ無接合氣槽ニ在リテハ五二、鍛合又ハ熔接シタル氣槽ニ在リテハ三六

第百八十六條

筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル扁平鏡板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{2875 S (T-1.5)^2}{D^2}$$

- P ハ制限壓力(毎平方種呎ニテ)
- D ハ鉋又ハ螺釘ヲ以テ鏡板ヲ胴ニ固著シタル場合ニハ鉋又ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)、平板ヲ胴ニ熔接シタル場合ニハ胴ノ内徑(耗ニテ)
- T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
- S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方耗呎ニテ)

第百八十七條

筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル皿形鏡板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

七内方ニ突入スルモノナルトキハ二〇・五

前項ノ鏡板ト胴トヲ接合スル爲曲線シタル部分ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

第五節

排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第百八十九條 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置ニ付テハ第百條、第百四條及第百八條ノ規定並ニ本節ニ於テ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三章第七節及第百三十八條ノ規定ヲ準用ス

第百九十條

發動機ノ冷却水ヲ船外ヨリ吸引スル管ニハ適當ナル芥除ヲ備ヘ且之ヲ解放又ハ掃除ヲ爲ス場合ニ於テモ當該發動機ヲ停止スルコトヲ要セザル裝置ト爲スベシ
 冷却水又ハ冷却油ノ排出管ニハ溫度計ヲ備ヘ且成ルベク管内ノ流動狀況ヲ見得ル裝置ヲ設クベシ
 冷却「ポンプ」ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テモ他ノ動力「ポンプ」ニ依リ遲滞ナク充分冷却水又ハ冷却油ヲ供給セシメ得ル様裝置スベシ

氣筒二箇以上ヲ備フル發動機ニ在リテハ各氣筒ニ供給スル冷却水又ハ冷却油ノ量ヲ加減シ得ル裝置ヲ設クベシ
 氣筒ノ水包室及冷却水管ノ最低部ニハ排水裝置ヲ備フベシ
 前五項ノ規定ハ小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當

ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得
冷却水又ハ冷却油ハ冷却スベキ部分ノ成ルベク高キ箇所ヨ
リ之ヲ排出セシムベシ

第百九十一條 脚荷水「ポンプ」ハ機關室ノ溢水ヲ直接吸引シ
得ル様装置スベシ

第六節 水 壓 試 驗

第百九十二條 「ディーゼル」式發動機ノ氣筒、内筒、氣筒蓋
鑄造「ピストン」、氣筒高壓部ニ附屬スル諸弁匣又ハ鑄造噴
油「ポンプ」ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ左表ニ依リ
水壓試驗ヲ執行スベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ内面ヲ仕
上ゲ且外面ヲ適當ニ旋削シテ十分ニ検査ヲ爲シ重大ナル缺
點ナキモノト認メタル内筒ノ水壓試驗及内外兩面ヲ適當ニ
削仕上ゲタル「ピストン」ノ高壓高壓ノ氣體ニ接觸スル部分
ノ水壓試驗ハ之ヲ省略シ又内筒ヲ有セザル氣筒若ハ氣筒蓋
等ノ高壓高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ其ノ冷却
部ヲ毎平方糎一〇疋以上ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スル
トキハ之ヲ省略スルコトヲ得

水壓試驗執行部分	試 驗 壓 力
氣筒又ハ内筒ノ高壓高壓部ニシテ行長ノ三分ノ一ニ相當スル間	氣筒内ノ最大壓力ノ一・五倍ノ壓力

ノ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第百九十四條 潤滑油「ポンプ」、燃料油「ポンプ」又ハ冷却「ポンプ」ノ油筒、水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ
油冷却器機ハ清水冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ
前二項ノ規定ハ小形發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百九十五條 氣槽ハ左ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ
一 銲接合又ハ無接合ノモノナルトキ 制限壓力ノ一・五倍ノ壓力
二 鍛合又ハ熔接合ノモノナルトキ 制限壓力ノ二・〇倍ノ壓力

氣槽ニ附屬スル弁若ハ「コック」、氣槽ニ連絡スル空氣管又ハ之ニ附屬スル弁若ハ「コック」ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ制限壓力ノ一・五倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ但シ空氣管ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百九十六條 燃料油槽ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘頂板上二・五米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ試験スベシ但シ強壓油槽ノ試験壓力ハ油槽ノ常

氣筒蓋ノ高壓高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同 右
「ピストン」ノ高壓高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同 右
氣筒高壓部附屬諸弁匣	同 右
「ピストン」ノ冷却部	毎平方糎四疋
氣筒水包室、氣筒蓋ノ冷却部	毎平方糎四疋
噴油「ポンプ」	常用最大壓力ガ毎平方糎四〇〇疋未滿ナルトキハ其ノ一・五倍ノ壓力、毎平方糎四〇〇疋以上ナルトキハ常用最大壓力ニ毎平方糎二〇〇疋ヲ加ヘタルモノ

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル「ディーゼル」式發動機ニ之ヲ準用ス
但シ小形「ディーゼル」式發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百九十三條 「ディーゼル」式發動機ノ噴油用又ハ始動用ノ空氣壓縮機ノ壓縮筒、壓縮筒蓋若ハ壓縮空氣弁匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ空氣部ハ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ
壓縮空氣冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ空氣部ハ該部ニ於ケル空氣ノ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ該部ニ於ケル冷却水

用壓力ノ二倍トス

第百九十七條 機關室内ニ在ル燃料油管系ハ噴油管系ヲ除クノ外船内取附後毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ試験スベシ
但シ短小ナル燃料油管系ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第百九十八條 燃料油加熱用蒸氣管ハ船内取附後常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第百九十九條 第二百一十一條及第二百二十二條ノ規定ハ發動機ヲ備フル船舶ニ付テハ適用ス
但シ小形船舶ノ發動機ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七節 補 汽 罐

第二百條 補汽罐ノ構造、附屬品、給水装置其ノ他ニ付テハ蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ補汽罐ニ關スル規定ヲ適用ス但シ發動機ノ廢氣ニ依リ加熱スル補汽罐ノ安全弁ノ面積ノ算定ニ當リテハ第七十八條第一項ノ算式中定數Kハ三・三ト爲スベシ

第五章 特 殊 施 設

第二百一十一條 寒冷ノ地域ニ碇泊スルコトアルベキ船舶ノ發動機ハ碇泊中其ノ冷却水ヲ排出スル装置及出火ノ虞ナキ適當ナル始動促進装置ヲ備ヘ且潤滑油ノ凝固ヲ防止スル様之ヲ

適當ニ裝置スベシ
 結氷セル水域又ハ浮氷多キ水域ヲ主トシテ航行スル船舶ノ
 螺旋軸ノ徑ハ成ルベク第三十五條、第四百十三條乃至第百
 四十六條、第五百一十一條、第五百十三條又ハ第五百十五條
 ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ一・〇五ヲ乗ジタルモノト
 爲スベシ

前項ノ船舶ノ螺旋推進器ノ翼ノ材料ハ成ルベク通常ノ鑄鐵
 ニ非ザル他ノ強靱ナルモノト爲スベシ
 第一項ノ船舶ノ外板ニ取附クル弁、「コック」又ハ脚筒等ハ
 氷又ハ寒氣ノ爲損傷セザル様之ヲ適當ニ裝置スベシ
 第一項ノ船舶ノ外板ニ於ケル循環水又ハ冷却水ノ吸入口ハ
 氷ノ爲閉塞セラルルコトヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベ
 シ

第二百二條 汽機、發動機若ハ他ノ機械ノ回轉部若ハ往復動
 部、機關ノ高熱部又ハ強電氣ノ帶電部ハ之ヲ監視シ若ハ操
第二百六條 機關備品ハ左ノ各號ニ應ジ之ヲ機關室又ハ船内適當ノ場所ニ備フベシ但シ管海官廳必要ナシト認ムルモノニ付テ
 ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 蒸汽機關ニヨリ推進セラルル船舶
- 二 發動機ニヨリ推進セラルル船舶
- 三 前號ノ船舶ニシテ補給汽機ヲ備フルモノ
- 四 船舶推進ニ必要ナル主發電裝置又ハ正空氣壓縮裝置ノ原動機トシテ補給發動機ヲ備フルモノ

別表甲
 別表乙
 別表甲及別表乙中汽機ニ關スルモノ
 前各號ニ依ル外別表乙中「ピストン」環乃至潤滑油「ポンプ」弁及發條ニ
 付近海區域以上ヲ航行スル船舶ハ沿海區域ニ對スル規定ニ依リ沿海區域
 ヲ航行スル船舶ハ平水區域ニ對スル規定ニ依ル

作スル者又ハ之ニ近接スル者適當ナル注意ヲ怠リタル場合
 ノ外傷害ヲ受ケザル様適當ニ施設スベシ
第二百三條 機關室其ノ他通風良好ナラザル場所ハ油瓦斯、
 「アンモニア」瓦斯其ノ他取扱者ノ健康ニ障害ヲ及ボシ易キ
 瓦斯ノ漏洩停滯ヲ防止スル様適當ニ施設スベシ

第六章 艤裝品及備品

第二百四條 蒸汽溜其ノ他ノ高溫ノ受壓容器ノ材料、構造、
 強力及試驗ニ付テハ第三章第二節乃至第五節ノ規定ヲ準用
 ス

前項以外ノ受壓容器ノ材料、構造、強力及試驗ニ付テハ第
 四章第四節及同章第六節ノ規定ヲ準用ス

第二百五條 艤裝品ハ前條ニ規定セザルモノト雖モ其ノ用途
 ニ應ジ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

管海官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ艤裝品ニ付適當ノ
 試驗ヲ執行スルコトアルベシ

別表甲

名稱	航行區域					摘	要
	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘		
「ピストン」環	各一組	同	同	同	同	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得	
「ピストン」發條	各一組	同	同	同	同		
「ピストン」抑環螺釘及母螺	六形一箇	同	同	同	同		
滑弁桿	各形一箇	同	同	同	同		
偏心器桿	各形一箇	同	同	同	同		
連接桿上下ノ栓受金	一桿一分	同	同	同	同		
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿一分	同	同	同	同		
「クランク」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	同	同	同		
「ローター」軸受金	各種一組	同	同	同	同		
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	同	同	同		
減速裝置軸受金	各種一組	同	同	同	同		
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組	同	同	同	同		
「ローター」推力受及調整片	各「タービン」ニ付片面一組	同	同	同	同	廢汽「タービン」用ノモノハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ	
「ローター」軸汽密裝置	各填座毎ニ半組	同	同	同	同		
接軸螺釘及母螺	各種一組	同	同	同	同		
單環式推力軸推力受及調整片	片面一分	同	同	同	同		

船舶機關規程

驗鹽器	二	筒同	上	筒同	上	湖沼ノミテ航行スル船舶ニハ之ヲ備フルヲ要セズ
溫度計	二	筒同	上	筒同	上	

備考 汽機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃弁發條ハ之ヲ汽機又ハ該「ポンプ」二箇分ニ止ムルコトヲ得

別表乙

名稱	航行區域		摘	要
	遠洋區域	近海區域		
氣筒蓋弁其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	各形一組同	上	長サ五〇米以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル	
「ピストン」完備セルモノ	一組同	上	同右	
「ピストン」環	二組同	上	同右	
噴油弁 弁座、弁匣發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	氣筒二箇又ハ一組	上	中半數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得	
吸氣弁 弁座、弁匣發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	氣筒四箇又ハ一組	上	複劬式ナルトキハ上記ノ倍數トス	
			燒球式發動機ナルトキハ噴油器口金ノミニ止ムルコトヲ得	
			中半數ハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得	
			複劬式ナルトキハ上記ノ倍數トス	

廢氣弁 弁座、弁匣發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	氣筒一箇每二組	上	同右
始動弁 弁座、弁匣、發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	二組	組	
噴油管及接合金具	氣筒一箇每二組	一氣筒分	無空氣噴油「ディーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」冷却用拔差管又ハ搖動管	一組	上	同形ノモノハ半數ニ止ムルコトヲ得
「クランク」軸受螺釘及母螺	一軸受分	上	
減速裝置軸受金	各形一組同	上	
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各形一組同	上	
單環式推力軸推力受及調整片	片面分	上	
連接桿上下ノ栓受金	一桿分	上	單働式發動機ニ在リテハ上部受金ノ下半及下部受金ノ上半ノミニ止ムルコトヲ得
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	上	
接軸鈎螺釘及母螺	各種一組同	上	
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環	各形一組同	上	
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁並ニ發條	各形半組同	上	
掃除空氣「ポンプ」弁及發條	一組同	上	

船舶職員法

明治二十九年四月七日
法律第六十八號 最近改正 (昭和八年三月
法律第一二號)

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ

法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムベシ但シ船舶安全

法第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、三等

運轉士、機關長、一等機關士、二等機關士及三等機關士ヲ

謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラザレバ船舶職員タルコト

ヲ得ズ

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

船舶職員法

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與ス

ルコトヲ得

第四條 各船舶ニ乗組マシムベキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀

ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ

免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ體格檢

査及學術試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケタ

ル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ従事シ又ハ船舶ノ

運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ

課程及練習ヲ卒リ遞信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ム

ル者ニハ學術試験ヲ行ハズシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコト

ヲ得

小形船舶ニ乗組ム船舶職員ノ有スベキ海技免狀ハ遞信大臣

ノ定ムル所ニ依リ學術試験ヲ行ハズシテ之ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船舶職員タルコトヲ得

ズ又前條ノ體格検査及學術試験ヲ受クルコトヲ得ズ

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終

リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

三 瘋癲、白痴、身體不具其ノ他精神又ハ身體ニ缺陷ヲ有

シ執職ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

五 海技免狀ノ行使停止中ノ者

六 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者

遞信大臣ハ海技免狀受有者ニシテ前項第三號ニ該當スルノ

疑アルモノニ就キ管海官廳ヲシテ體格検査ヲ執行セシムル

コトヲ得

第七條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ

別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

一 外國各港間ノミチ航行スル船舶

二 漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶

三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ

第九條ノ四 地方長官ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五

號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及

明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號

表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スベシ其ノ交換ノ手續及時期

ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ掲ゲタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ

代用スルコトヲ得

第十條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り積石數百五

十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セズ

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三

箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職

ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇

年ヲ限り試験ヲ用キズシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコト

ヲ得

第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近海航路ニシテ登簿噸數五

船舶職員法

相當スル船舶職員ヲ乗組マシメザルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶貸借ノ場合ニ於テ

ハ船舶借入人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ

テ船舶職員ト爲リタル者、海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差

押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使

セシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法併合罪ノ例ヲ用キズ

前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入

人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治産者ナ

ルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關

シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ

在ラズ

第九條ノ二 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規

定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ日本船舶ニ非ザル船舶ニシ

テ船舶安全法第十四條各號ニ掲グルモノニ準用スルコトヲ

得

第九條ノ三 朝鮮總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ遞信大臣

ニ於テ第五條ノ規定ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタ

ルモノハ之ヲ第五條ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ授與シタル海

技免狀ト看做ス

百噸未滿ノ汽船及沿海航路ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乗組マシメザルコトヲ得

附 則 (昭和四年四月法律第四六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和五年二月勅令第

二五號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ船舶職員トシテ就職中ノ者ハ遞信大臣ノ定

ムル所ニ依リ本法施行後引繼キ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ

執ル期間内ニ限り仍從前ノ例ニ依リ就職スルコトヲ得

本法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之

ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

附 則 (昭和八年三月法律第一二號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和九年三月一日ヨリ施行)

第一號表

航行區域		沿海區				平水區				機關公稱馬力	船舶職員	免狀種類	定員	
馬力	以上	三百馬力未滿	五百馬力未滿	七百馬力未滿	千二百馬力以上	千二百馬力未滿	七百馬力未滿	四百馬力未滿						
一等機關士	機關長	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	一等機關士	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(其ノ二) 機關長及機關士定員長

備考
 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數十石ヲ以テ總噸數一噸ニ換算ス本表ノ定員ハ船長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス

洋區		帆船		汽船	
噸數	以上	噸數	未滿	噸數	未滿
二千噸以上ノ旅客船又ハ五千噸以上ノ非旅客船	—	二百噸未滿	—	二百噸未滿	—
—	—	五百噸未滿	—	五百噸未滿	—
—	—	五百噸以上	—	五百噸以上	—
船長	甲種船長免狀	船長	甲種船長免狀	船長	甲種船長免狀
一等運轉士	甲種一等運轉士免狀	一等運轉士	甲種一等運轉士免狀	一等運轉士	甲種一等運轉士免狀
二等運轉士	甲種二等運轉士免狀	二等運轉士	甲種二等運轉士免狀	二等運轉士	甲種二等運轉士免狀
三等運轉士	甲種三等運轉士免狀	三等運轉士	甲種三等運轉士免狀	三等運轉士	甲種三等運轉士免狀
—	—	—	—	—	—

備考 本表ノ定員ハ機關長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス

遠洋區			洋區			域		
三千馬力未滿			五千馬力未滿ノ旅客船又ハ三千馬力以上ノ非旅客船			五千馬力以上ノ旅客船		
一等機關士	機關長	一等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀
二等機關士	機關長	二等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀
三等機關士	機關長	三等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀
二等機關士	機關長	二等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀
一等機關士	機關長	一等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀
機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—

近海區			海區			域																													
二百五十馬力未滿			四百馬力未滿			六百馬力未滿			千二百馬力未滿			二千馬力未滿			四千馬力未滿			四千馬力以上			二千馬力未滿														
一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀
二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀
三等機關士	機關長	三等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀	二等機關士	機關長	二等機關士免狀	三等機關士	機關長	三等機關士免狀	一等機關士	機關長	一等機關士免狀
機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀	機關長	機關長	機關長免狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

新舊免狀對照表

新	免	狀
甲種船長	甲種一等運轉手	甲種船長
甲種一等運轉手	甲種二等運轉手	甲種一等運轉手
甲種二等運轉手	機關長	甲種二等運轉手
乙種船長	一等機關士	乙種船長
假免狀船長	乙種船長若ハ丙種船長	假免狀船長
乙種一等運轉手	乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士	乙種一等運轉手
假免狀一等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士	假免狀一等運轉手
乙種二等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士	乙種二等運轉手
假免狀二等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士	假免狀二等運轉手
乙種一等機關手	一等機關士	乙種一等機關手
假免狀一等機關手	二等機關士	假免狀一等機關手
乙種二等機關手	二等機關士	乙種二等機關手
假免狀二等機關手	乙種二等運轉士	假免狀二等機關手
小形船船長	三等機關士	小形船船長
小形船機關手		小形船機關手

船舶職員法施行細則

昭和五年二月公布省令第一一號
 昭和六年十一月改正省令第五十一號
 昭和九年二月改正省令第二十五號
 昭和十二年三月改正省令第八十五號
 昭和十二年七月省令第四十六號

第一章 海技免狀

第一條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀及其ノ行使範圍ハ第一號表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ遞信大臣ニ於テ學術試驗ニ合格スト認ムル者及其ノ者ニ授與スベキ海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

船舶職員法第五條第三項ニ依リ授與スル海技免狀ハ小形船丙種運轉士免狀、小形船乙種二等運轉士免狀及小形發動機船三等機關士免狀ニ限ル

第三條 船舶職員ノ有スベキ海技免狀ハ上級ノモノヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

各海技免狀ノ階級ノ上下ハ第二號表ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 船舶職員法第九條ノ三ニ該當スル海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

第二章 船舶職員

船舶職員法施行細則

第四條ノ二 本令ニ於テ近海區域トハ船舶安全法施行規則第二十八條ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ニ掲クル近海區域第一區又ハ同第二區ヲ謂ヒ二區以上ノ近海區域ヲ連續シタルモノ又ハ近海區域第三區ハ之ヲ遠洋區域トス

第五條 漁船ニ乗組マシムベキ船舶ノ職員ニ付テハ第三號表ニ依ル但シ機關ヲ有スル漁業帆船ノ機關部職員ニ付テハ第六條ノ規定ニ依ルコトヲ得

第六條 母船式漁業ニ從事スル附屬漁船ニ乗組マシムベキ船舶職員ニ付テハ最寄遞信局長ノ認可ヲ受ケ第三號表ニ定ムル海技免狀ヨリモ下級ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 機關ヲ有スル帆船ニ乗組マシムベキ機關部ノ職員ニ付テハ第四號表ニ依ルコトヲ得

第六條ノ二 船舶安全法施行規則第三十三條ノ規定ニ依リ航行區域ガ指定セラレタル場合ト雖當該區域ヲ航行區域トスル船舶ノ職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ指定前ノ航行區域ニ付定メラレタル範圍内ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乗組ヲ命ズルコトヲ得

第六條ノ三 船舶安全法施行規則第三十五條ノ認可ヲ受ケタル場合ト雖船舶職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該船舶ガ航行ヲ認可セラレタル區域ニ付定メラ

レタル範圍内ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乗組ヲ命ズルコトヲ得

第七條 前四條ニ掲グル船舶ヲ除キ船舶職員法第七條各號ノ

一ニ該當スルモノニ就テハ最寄遞信局長ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲グル船舶職員ヲ減シ又ハ之ニ代ヘテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシムルコトヲ得

第八條 船舶所有者第五條第二項又ハ前條ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信局長ニ提出スベシ

一 船舶ノ種類、名稱、總噸數、速力及機關ノ種類、公稱馬力

二 特殊ノ構造ヲ有スル船舶ナルトキハ其ノ構造

三 特殊ノ目的ニ専用スル船舶ナルトキハ其ノ目的、期間及航程

四 航行スベキ區域

五 輕減セムトスル船舶職員ノ名稱

六 相當ノ技能ヲ有スル者ヲシテ船舶職員ノ職ヲ執ラシメムトスルトキハ其ノ者ノ氏名及海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ種類、海技免狀ヲ有セザル者ナルトキハ其ノ者ノ海上履歷

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船舶職員法第

スルコトヲ又第七號ノ場合ニ於テハ船舶ヲ航行ノ用ニ供セザル期間ヲ明カニシ内地ニ在リテハ管海官廳外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ遲滞ナク其ノ旨届出ヅベシ此ノ場合管海官廳又ハ領事官若ハ貿易事務官ハ必要アリト認ムルトキハ適當ト認ムル者ノ乗組ヲ命ズルコトヲ得

船舶安全法施行規則第三十七條ノ規定ニ依リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セズシテ船舶ヲ回航スルニ當リ第四條ノ二ニ定ムル遠洋區域ヲ航行スルトキハ近海區域ニ相當スル船舶職員近海區域ヲ航行スルトキハ沿海區域ニ相當スル船舶職員沿海區域ヲ航行スルトキハ平水區域ニ相當スル船舶職員ヲ各乗組マシムルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ船長及機關長以外ノ船舶職員ノ乗組ヲ省略スルコトヲ得

一 内地又ハ臺灣ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶

二 平水ノ航行區域ヲ有シ始發港ヨリ最終港迄ノ航程三十海里未滿ノ航海ニ從事スル船舶

第十條ノ二 第四條ノ二ニ定ムル遠洋ノ航行區域ヲ有スル總噸數二百噸未滿ノ帆船ノ船長ハ丙種船長免狀、一等運轉士

船舶職員法施行細則

四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乗組マシメザルコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ付テハ船舶職員ヲ雇入レ難キ場合ニ限ル

一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ最終港迄回航スルトキ

二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生ジ補充ノ手續中ナルトキ

三 内地又ハ臺灣ト外國トノ間ヲ航行スル船舶ガ外國ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生ジ内地又ハ臺灣ノ港迄歸航スルトキ

四 平水區域又ハ沿海區域ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ガ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀受有者ヲ乗組マシメタルトキ

五 航行中船舶職員ニ缺員ヲ生ジタルトキ

六 他船ニ曳カレテ航行スルトキ

七 入渠、修繕又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ船舶ヲ航行ノ用ニ供セザルトキ

八 管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號乃至第三號又ハ第七號ノ場合ニ於テ船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乗組マシメザルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ該當

ハ丙種運轉士免狀ノ受有者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條ノ三 第二種甲又ハ第三種甲ノ從業制限ヲ有スル漁船ニシテ「ペーリング」海及第二種乙若ハ第三種乙ニ付規定スル區域内又ハ東ハ東經百七十五度西ハ同九十度、南ハ南緯十三度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域内ニ於テ從業スルモノハ第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ニ付定メラレタル船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ得、此ノ場合内地又ハ臺灣ニ在リテハ管海官廳、外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ就キ其ノ旨當該船舶検査證書ニ記載ヲ受クベシ、前項ノ場合總噸數三十噸未滿又ハ公稱馬力五十馬力未滿ノ船舶ニ在リテハ小形船乙種二等運轉士免狀、小形船丙種運轉士免狀又ハ小形發動機船三等機關士免狀ヨリ上級ノ免狀受有者ヲ乗組マシムルコトヲ要ス但シ第五條但書ノ場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 機關ノ公稱馬力

第十一條 船舶所有者ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ船舶ノ機關ノ公稱馬力ヲ算定スヘシ但シ算式ニ依リ得タル數ガ百未滿ナルトキハ小數點以下ヲ、百以上千未滿ナルトキハ一位以下ヲ、千以上ナルトキハ十位以下ヲ切捨ツベシ

一 往復汽機

$$W = \frac{3}{4} \sqrt{P} \times \left(\frac{N \times D^2 \times \sqrt[3]{S}}{A} + \frac{H}{B} \right)$$

Wハ公稱馬力
 Pハ汽壓制限
 Nハ低壓汽筒ノ數
 每平方英尺(每平方吋封度)ニテ

Dハ低壓汽筒ノ徑 耗(吋)ニテ
 Sハ行長 耗(吋)ニテ
 Hハ汽罐ノ總受熱面積 平方米(平方呎)ニテ
 A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

汽罐ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・二二七(三二)
強壓通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・〇三五(二七)

二「タービン」汽機

$$W = \frac{H}{A \times \left(1 + \frac{B}{P}\right)}$$

W、H、Pハ前號ニ同ジ
 A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

汽罐ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	〇・二二三(〇・二四)	一・九七(二八)
強壓通風ナルトキ	〇・二〇四(〇・二一)	一・九七(二八)

三「ディーゼル」式發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times \sqrt[3]{D + A}}{B}$$

Wハ公稱馬力
 Nハ汽筒ノ數
 Dハ汽筒ノ徑 耗(吋)ニテ
 A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	六(二・〇四一)	二九〇〇〇(一五・二九)
二「サイクル」單働發動機	六(二・〇四一)	一六一〇〇(八・四九)
四「サイクル」複働發動機	六(二・〇四一)	一四九〇〇(七・八六)
二「サイクル」複働發動機	六(二・〇四一)	八三〇〇(四・三八)
二「サイクル」向合吸鋸發動機	六(二・〇四一)	九三〇〇(四・九〇)

豫燃室ヲ有スル「ディーゼル」式發動機ニ在リテハ算式ニ依リ得タルモノニ百分ノ八十ヲ乘スベシ
 四「ディーゼル」式ニ非ザル發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times \sqrt[3]{D - A}}{B}$$

W、N、D、ハ前號ニ同ジ

船舶職員法施行細則

A、B、ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

發動機ノ種類		A		B	
四「サイクル」單働發動機		1(0.34)	3000(15.82)		
二「サイクル」單働發動機		1(0.34)	1670(8.80)		

往復汽機及「タービン」汽機ノ併用ニ依リ推進スル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ前項第二號ニ依リ算定スベシ
 電動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ發電機ノ原動機關ニ付之ヲ算定スベシ

第十二條 前條ニ該當セザル機關ヲ備フル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ船舶所有者ノ申請ニ依リ管海官廳之ヲ算定ス

第十三條 船長ハ船舶ノ機關ノ公稱馬力ノ算定書ヲ船内ニ備置キ當該官吏ノ要求アルトキハ之ヲ檢閲ニ供スベシ
 當該官吏必要ト認ムルトキハ前項ノ算定書ノ訂正ヲ命ズルコトヲ得

第四章 登録

第十四條 海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケムトスル者ハ當該船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳(試験ヲ行ヒタル官廳二以上ニ亘ルトキハ最後ノ官廳)ヲ經由シ第一號書式ノ申請書ヲ遞信省ニ提出スベシ船舶職員試験ニ合格シタル日ヨリ六十

又海技免狀ノ行使ヲ停止セラレタル者ニ付テハ其ノ執行處分ヲ終ル迄之ヲ停止シ海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者ニ付テハ其ノ申請ヲ却下ス

第十七條 第十五條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ當該免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三十日以内ニ第三號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ登録ノ變更(及必要アルトキハ海技免狀ノ書換)ヲ申請スベシ

第十八條 遞信省ハ前條ノ申請ニ依リ登録ノ變更ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請者ニ交附ス

第十九條 行政區劃ノ變更ニ因リ海技免狀受有者ノ本籍ニ變更ヲ生ジタルトキハ遞信省ニ於テ登録ヲ訂正シ必要ノ場合ニハ無料ニテ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ本人ニ交付ス
 海技免狀受有者前項ノ變更アリタルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク之ヲ遞信省ニ届出ヅベシ

第二十條 海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第一號、第三號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ二週間以内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ提出シ登録ノ抹消ヲ申請スベシ

船舶職員法施行細則

日以後ニ於テ前項ノ申請ヲ爲ス者ハ船舶職員法第六條第一項第一號、第二號及第六號ニ該當セザルコトノ證明書(申請ノ日ヨリ遡リ六十日以内ノ作成ニ係ルモノナルコト)ヲ申請書ニ添付スベシ

第十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登録シ第二號書式ノ海技免狀ヲ授與ス
 一 海技免狀ノ種類
 二 氏名
 三 本籍(外國人ナルトキハ國籍)
 四 出生ノ年月日
 五 船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
 六 合格ノ年月日

第十六條 前條ノ登録ハ海員懲戒法ニ依リ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ニ付テハ審判不繼續ノ決定又ハ確定裁決アル迄

船舶職員法第六條第二項ニ依リ體格檢査ノ結果同條第一項第三號ニ該當スト決定セラレタル者ニ付亦同ジ
 海技免狀受有者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スベシ

登錄ノ抹消ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シ之ヲ遞信省ニ返還スベシ若シ之ヲ返還スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ届出ヅベシ

第二十一條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ登録ノ抹消ヲ爲ス
 一 前條ノ申請ヲ受ケタルトキ
 二 登録ノ抹消ヲ申請スベキ場合ニ於テ所定ノ期間ニ之ヲ爲サザルトキ
 三 不正ノ行爲ニ依リ海技免狀ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ當該船舶職員試験ガ無効ナルトキ

四 海員懲戒法第四十五條第三項ニ依リ海技免狀ヲ無効ト爲シタルトキ
 遞信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ登録ノ抹消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀受有者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スベシ

第二十二條 海技免狀受有者上級免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ下級免狀ニ對スル登録ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス前項ノ場合ニ於テ上級免狀ハ下級免狀ト引換ニ之ヲ交付ス

第二十三條 海技免狀受有者登録又ハ海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク第三號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ登録ノ訂正又ハ海技免狀ノ書換ヲ申請スベシ

登録ノ錯誤又ハ遺漏ガ第十五條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶籍ノ謄本又ハ抄本外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス

遞信省ハ第一項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登録ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請者ニ交付ス

第二十四條 遞信省ハ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ訂正ヲ爲シ當該免狀受有者ニ之ヲ通知ス前項ノ錯誤又ハ遺漏ガ免狀受有者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因ル場合ニ於テハ遞信省ハ必要ニ應ジ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ當該免狀受有者ニ交付ス

第二十五條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ當該免狀受有者ハ遲滞ナク第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ再交付ヲ申請スベシ

遞信省ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ

第二十九條 海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第二號又ハ第六號ニ當スルニ至リタルトキハ當該判決又ハ宣告確定後遲滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ遞信省ニ提出スベシ

一 判決又ハ宣告確定ノ年月日

二 判決又ハ宣告ヲ爲シタル裁判所ノ名稱

三 判決ニ付テハ刑ノ種類、期間及刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル場合ニ在リテハ其ノ猶豫期間

前項ノ海技免狀ハ當該事實ノ存スル間遞信省之ヲ領置ス

海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第二號又ハ第六號ニ當スル事實止ミタル旨ヲ明カニシ申請ヲ爲ストキハ前項ノ海技免狀ハ之ヲ還付ス

第三十條 第十七條第一項、第十九條第二項、第二十條、第二十一條第三項、第二十三條第一項第二十五條第一項又ハ前條第一項若ハ第三項ニ依リ申請書、屆書又ハ海技免狀ヲ遞信省ニ提出スルニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條 海技免狀受有者ハ管海官廳又ハ當該吏員ノ要求アルトキハ海技免狀ヲ檢閲ニ供スベシ

第三十二條 海技免狀原簿ニ登録ヲ爲シ又ハ之ヲ抹消シタルトキハ其ノ旨官報ニ公告ス

海技免狀滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返

船舶職員法施行細則

申請者ニ交付ス

第二十六條 第十八條、第十九條、第二十三條若ハ第二十四條ニ依リ海技免狀ノ交付ヲ受ケ又ハ前條ニ依リ海技免狀毀損ノ爲其ノ再交付ヲ受クル場合ニ於テハ之ト引換ニ舊免狀ヲ返還スベシ

第五章 手数料

第二十七條 左ノ各號ノ申請ヲ爲ス者ハ一件ニ付手数料壹圓ヲ納付スベシ

一 第十七條又ハ第二十三條ニ依ル海技免狀ノ書換（記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀受有者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因ル場合ニ限ル）

二 第二十五條ニ依ル海技免狀ノ再交付

前項第一號及第二號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ一件ニ對スル手数料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第二十八條 手数料ノ納付ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル給付書ヲ申請書ニ添付シ之ヲ爲スベシ登録稅ノ納付ニ付亦同ジ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スベキモノトス

第六章 雜則

還セザルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第三十三條 本令ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶管理人ニ船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ船長ニ關スル規定ハ之ヲ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ適用ス

第七章 罰則

第三十四條 第九條第二項及第四項、第十條ノ三第一項第十條第一項、第十七條第一項、第二十條第二十三條第一項第二十五條第一項、第二十九條第一項及第三十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スベキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十五條 本令ハ昭和四年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和五年五月十日ヨリ施行）

第三十六條 明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則及明治十七年五月農商務省達第十三號汽船公稱馬力算定法ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 本令施行前明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則ニ依リ爲シタル申請届出又ハ認可ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十八條 外國ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ領